

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」 第3巻

はじめに

病気がきっかけで神仏の教えに出合った私は、この教えに導かれながら、人としてどのような心の紋様で日々暮らすべきかを問う心の修行を通じて、霊格を向上させるための真髓とも言えるとても大切な真理と摂理の存在を大自然から学びました。

この真理と摂理は誰に対しても平等に働き、かつこの世に平和と調和と秩序を齎^{もたら}すもので、実に美しく完璧な法則です。

その真理と摂理とは次のようなものです。

- ・命は、周りの人々（＝全生命体：以下同じ）を幸せにするために天から授かった。
- ・体は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・言葉は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・知恵は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・お金は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・時間は、周りの人々を幸せにするために天から授かった。
- ・天が与えてくれる太陽の光、空気、雨の水、海と山の幸、天然資源、時間、空間、これらはとても大切なもの。しかし、これらはすべてただである。そしてこれらのものは偉大過ぎるが故に人々からあまり感謝されない。だから、私たちも天を見習って、たとえ周りから感謝が返ってこなくとも自分の大切なものをただで、周りの人々を通して天に返すべきである。
- ・人類が、この物質界（生きるために他の生物の命を頂く世界、あるいは敗者の悔しさを土台に勝者としての喜びを謳歌^{おう か}している世界。このために食料・経済・領土等の利害が衝突して争い・憎しみを生む世

界)である地上に生を享^うけた目的は、これらの真理を悟り実践するためである。

・この真理にしたがって生きる者(真理的实践者)は、愛と知恵と勇氣と希望が天から与えられ、これによって人生で出合うあらゆる試練を克服しながら靈格を向上させ、幸せになることができる。反する者(反真理的行為者)は、愛と知恵と勇氣と希望が天から没収され、誰も愛することができず、また愛されることもなく、試練を避け、やがて悪想念に冒^{おか}され靈格は低下し、出合う試練を乗り越えることができず、悩み苦しむ人生を送ることになる。

・言ったことは言われ、やったことはやり返され、思ったことは思われる。この摂理は天秤^{てんびん}で量^{はか}ったような数学的正確さをもって作用する。つまり、周りの人を幸せにした分だけ自分自身も幸せになり、苦しめた分だけ苦しむことになるという摂理。だから相手を幸せに導く、あるいは幸福感を味わってもらえるような言葉を掛け、行動をとり、思いを掛ける。この摂理を知り、正しい道を選択した者は幸せになり、この摂理の存在に気付かず周りの人(=周辺国の人々)に苦しみを与えた者は、その罪の代償^{だいしょう}を自ら払うことになる。

やがて大自然が語る大法を理解し真理に目覚め、次第に光り輝く神仏の世界の存在を確信することができるまでに靈格が向上すると、生きるために他の生物の命を頂かなければならない、あるいは、弱者(人、物、もの、チーム、国)を踏み台にしなければならない、悪意に満ちた、この物質界での生活(修行)は、この現世をもって最後にしたいと考えるようになる。そしてできるだけ多くの人々に、美しい真理の世界を知ってもらいたいと願うようになるのではないかと考えます。

私は、これらの真理と摂理の働きが真実であると確信される靈格にまで1人でも多くの方が辿^{たど}り着かれ、そしてこの人たちが天使のごと

く振る舞われることによって、全世界の人々が等しく戦争の恐怖と飢えの苦しみから解放され、希望と調和と秩序に満ちた、平和で平等な（＝可能な限り円満な形で、国王や独裁者などが存在しない社会に移行した）成熟した世界が齎されることを願って「虹の掛け橋」を書かせて頂いております。

なお、デリケートな問題を抱えているテーマについては、重複文章が連なることをお断りします。

この本が、皆様にとって少しでも参考になれば幸いです。

2020年3月30日

（著者） 宇都宮 大地

真理と摂理の働きをすべて学ぼう

「虹の掛け橋」第3巻 目次

はじめに	1
第 21 章 赤ん坊のようにすべて神仏に ^{ゆだ} 委ねる	6
1 まんじゅうを分かち合う	6
2 裸で神仏の腕の中に帰ってゆく	15
3 表紙の図柄	18
第 22 章 神仏の愛はいつでも、どこでも 誰にでも無限に注がれている	29
1 仏と菩薩	29
2 社会に有毒なもの	35
3 「主」と「主」	40
第 23 章 虹を通して彼岸に辿り着く	43
2 人で 1 つの天	43
第 24 章 善想念で宇宙空間を満たす	68
黄金律	68
第 25 章 罪深き者たちが救われる	92
1 救いの御業 ^{みわざ} その 1	92
2 救いの御業 その 2	95

第 26 章	善想念の世界で引かれ合う	102
1	救いの御業 その 3.....	102
2	桜の花	106
3	ひび割れた水瓶 ^{みずがめ} （前段）	118
第 27 章	柔軟 ^{じゅうなん} に対応する	124
1	出入り禁止	124
2	長生きできるタイプの人	132
第 28 章	罪を代わりに背負ってくれている	
	人の存在を知る	135
1	「人」の文字に託された仏の境地	135
2	三途 ^{さんず} の川を自力で渡れなかった人たち	142
第 29 章	人を愛した人こそ愛に包まれた	
	人生を送ることができる	149
1	牛乳を配達する人	149
2	キューピッドの矢	151
3	「 ^{ざる} 箆」で雨を受ける	158
4	仏は少しずつ人を導く	161
5	守護霊	163
6	献杯 ^{けんぱい} のあいさつ	168
7	除夜 ^{じょや} の鐘 ^{かね}	170
第 30 章	生き甲斐 ^{が い} を吹き込む	173
1	ひび割れた水瓶（後段）	173
2	天	176

第 21 章

赤ん坊のようにすべて神仏に^{ゆだ}委ねる

1 まんじゅうを分かち合う

X さんたちの会話です。

X 「第 19 章 2000 年の初夢」の中ほどで阿弥陀如来が「9 個のまんじゅうを 10 人で分かち合うことは、その場にいる 10 人全員に等しく修行が掛かっているのです。10 人がすべて冷静になって仏の心にならなければ 9 個のまんじゅうを分かち合うことはできないのです」と語っています。

もし、Y、Z、A、B、C さん 5 人が崖崩れに^あ遭いトンネルの中に閉じ込められ、皆で食べ物を出し合ったら 4 個のまんじゅうしかなかったとき、この中の Y さんが「私は（働きづめで）2 日間何も食べていないから、1 個丸々食べたい」とお馬鹿なことを言って、さっと 1 個のまんじゅうを取って手元に置いたとします。皆さんがこの場にいた残りの 4 人の 1 人であったとしたらどのように行動しますか？

Z いつ救助されるかわからない不安が先立ってしまうでしょうから、冷静な行動をとれる自信はありません。私も 1 個手元に引き寄せてしまうお馬鹿さんになるかも知れません。

A このような災難に^{そうぐう}遭遇したら誰でもパニックに^{おちい}陥ってしまうでしょうから、冷静な行動をとれと言う方が無理です。しかも、このときのまんじゅうは命の綱（ノアの箱船）と言えますから、今ここで「人に譲れる」と言う人の言葉には命の重みはないと思います。ですから、X さんの質問は一種の公案として「仏の知恵と心をもって、どのように行動すべきなのか？」と言う、仏からの問い掛けであると解釈して

考えるべきだと思います。

B なるほど。「人間の理想像である仏だったらどのように行動するのか？」を考えれば良いわけですね。

X そうですね。そのような質問に置き換えて、皆さんの意見をお聞かせください。

Z 私は、後の 4 人で残った 3 個のまんじゅうを仲良く分けて食べれば良いと思います。大切なのは、誰しも Yさんのように 1 個丸々食べたい気持ちがあるわけですから、Yさんを責めることはできないと思います。これが 4 人の心の修行ではないかと思います。

C Zさんの意見はとても立派だと思います。しかし、阿弥陀如来は「まんじゅうを分かち合うことは、その場にいる全員に等しく修行が掛かっている」と言っているわけですから、4 人だけの修行に留まってしまうようでは、不十分だと思います。仏は 1 個丸々食べようとしている Yさんも悟らせようと行動するのではないのでしょうか？

X 具体的には仏はどのようにして Yさんを悟らせようとするのでしょうか？

C 誰もが 1 個丸々食べたいと言い出したら、まんじゅうを奪い合う地獄絵と化して仕舞います。そうなったときに、そのきっかけを作ったのは最初に手を伸ばした Yさんになります。ですから、そのような罪を Yさんに犯させないためにも、仏は「誰もが 1 個丸々食べたい気持ちがあるのです。この気持ちを抑えることが、この場にいる 5 人全員に課せられた心の修行なのです。人を押し退けて食べるよりも、皆で仲良く分け合って食べた方が美味しいですよ」と言って、優しく Yさんを諭すのではないのでしょうか。

Yさんにも己の過ちに気付いてもらって初めて、5 人全員の心の修行が成就するのだと思います。

A 自身の過ちにどうしても気付いてくれないときに、仏は初めてそ

の過ちを指摘するのではないかと思います。だから、仏は初めはあえて指摘せずに、仏自身が手本を示して、その姿を通して Y さん自ら悟ってくれることを願って行動するのではないのでしょうか。つまり、私は、Z さんの意見と同じです。Y さんには干渉せずに、後の 4 人で残った 3 個のまんじゅうを仲良く分けて食べれば良いと思います。その姿を通して、Y さん自身に己の過ちを悟って頂けたならば、これは決して 4 人だけの修行には留まらないと思います。

X B さんはどう思いますか？

B 私はこの公案を「1 人がさっと 1 個のまんじゅうを取って手元に置いたとしても、あるいはどんな状況に変化しても、人間の理想像である仏だったら、必ず 4 個のまんじゅうを 5 人で仲良く分け合う方法を探すであろうから、その方法を仏の知恵と心をもって探り出しなさい」と解釈したいのです。

ところが、皆さんの話を聞いていると、残りのまんじゅうを 4 人で仲良く分け合うから 4 人の心の修行は成就しているので、後は Y さんにいかに心の修行を成就して頂くかと言うことで「Y さんに直接注意して過ちを悟ってもらうか、あるいは注意せずに 4 人が仲良く分け合っている姿を通して過ちを悟ってもらうか」に、専ら議論の中心が置かれていていると思います。

Y さんに直接注意すべきかしないかについては、人それぞれ考え方が異なりますから、永久に結論が出ない問題でしょう。

私は「Y さんに 1 日も早く過ちを悟って頂きたいと願って注意すること」も「Y さん自ら悟ってくれることを願って、温かく見守ってあげる気持ちで注意しないこと」も、共に優しさの籠った適切な行動ではないかと思います。

私が気になるのは、むしろ「Y さんが手元に置いたまんじゅうを戻してもらって、これを 5 人で分け合ったり、あるいは、Y さんには 1

個食べてもらって残りの3個のまんじゅうを4人で分け合ったりする姿（光景）が、本当に仏の世界の姿なのだろうか？」と言う点です。

X 私にはそれらの姿が、どうして仏の世界にふさわしくないのか、わかりません。説明して頂けませんか？

B これらの姿は、いずれもYさんと残りの4人との間に気まずさと言う心の溝^{みぞ}が生じて仕舞うからです。これでは5人全員の心の修行が成就したとはとても言えないのです。

また、これらの分割方法には限界があって、手元にまんじゅうを置く人が2人、3人と現れた場合や、1人で2個、3個と取る人が現れた場合などのあらゆる状況に対応できる方法ではないと思うからです。

私は、どんな状況に変化しても対応できる仏の知恵と心を持たなければ、わずか1人が1個のまんじゅうを手元に引き寄せて仕舞った状況であっても対応できないと思います。

X なるほど。どんな状況に変化しても対応できる仏の知恵と心を持たなければ解決策を観付けることができないということですね。では、Bさんはどのように行動するのが仏の姿だと考えますか？

B 私には1つの案があります。私なりの答えです。とても気に入っている答えです。

X それをお聞かせください。

B これはあくまでも私自身が納得する答えなのです。公案ですから皆さん1人ひとりにそれぞれ異なった答えが在っても良いと思います。

それに、ここで私の案を語ったならば、皆さんがこれに縛^{しば}られてしまわないかどうか心配です。ですからこの公案について、皆さん自身も自分なりの答えを探ってみませんか？

X、Z、A、C わかりました。この公案について、それぞれ自分なりの答えを探ることにしましょう。

皆様もこの公案にチャレンジして頂ければと思います。

この公案は皆様の心を、きっと豊かに耕^{たがや}してくれると思います。

理想的な答え（どんな状況に変化しても対応可能な、まんじゅうの分割方法）がわかったと思われる方は、以下を読み進めてください。

Xさんたちは心を浄める実践を行いながら、この公案の答えを探り続けました。

1年が経過し、Xさんは次のような夢を観ました。

Xさんは連休を利用して、趣味の登山に出掛けていました。山の8合目まで来たところで深い霧が現れ、先に進むことができなくなりました。じーっと霧が晴れるのを待っていましたが、晴れることなく夜になって仕舞いました。動くのは危険と判断したXさんは、その場で夜が明けるのを待つことにしました。

やがて夜が明けましたが、依然として深い霧が立ち込めていました。次第に持っていた食料も尽きてしまいそうになったので、このままじっとしては飢え死にするだけだと思ったXさんは、意を決し、山を下り始めました。

すると、しばらく行ったところで、突然目の前に山小屋が観えてきました。Xさんは疲れ切った体を休めようと思い、中に入ってゆきました。すると不思議なことに、次々に下山^{げざんちゅう}中の人たちが山小屋の中に集まってきました。皆で6人(X、Y、D、E、F、G)となりました。

自己紹介をし合い、ここに至るまでの苦労話をしながら励まし合いました。霧は依然として晴れずにやがて夜が訪れ、山小屋での1日目^かが過ぎてゆきました。

2日目の朝、外は一面深い雪に覆われていました。この雪を掻き分けて下山するのは不可能であることが誰の目にも明らかでした。じー

っと山小屋で救助を待つしかなくなって仕舞いました。

しかし3日、4日と過ぎていっても一向に救助隊が駆け付けてくれる気配はなく、皆の中に不安が募り、疲れも溜まってきました。そんな中、最も高齢なGさんが次第に衰弱^{すいじゃく}し片言^{かたこと}しか発することができなくなり、床^{とこ}に就^ついたきりの状態^{おちい}に陥^{おちい}ってゆきました。

そこで、Yさんは、わずかに残っていた自分のお粥^{かゆ}を温めてGさんの口元に運んで食べさせました。

Dさんは、雪を融かし、布で濾^こしてGさんの口元に運んで飲ませました。

Xさんは、雪の中を歩き回って薪^{たきぎ}を集め火^{おこ}を熾^{おこ}してお湯を沸かし、Gさんの体を洗ってあげました。

しかし、皆が見守る中、5日目に残念ながらGさんは息を引き取りました。

救助隊は訪れることなく6日、7日目と過ぎてゆきました。Xさんたち5人の食糧も遂^{つい}に底をついて仕舞いました。

8日目を迎えました。Yさんは「もしかしたら、亡くなったGさんが何か食べ物を残しているかも知れない」と、藁^{わら}にも縋^{すが}る思いでGさんの荷物を調べ始めました。すると、まんじゅうが4個出てきました。

5人が4個のまんじゅうを囲むように集まりました。

まず、Yさんが1個のまんじゅうを手元に引き寄せて言いました。

「私は、非常食用に残して置いた大切なお粥をGさんに差しあげました。もし、ここにGさんが生きていたら、そのお礼に少なくともまんじゅうを私に1個必ずくれると思います。ですから、このまんじゅうは、そのときのお粥に相当します。食べ損^{そこ}ねたお粥の分としてまんじゅうを1個頂きます。それに、このまんじゅうを見付けたのは私ですから、その意味でも、私には1個丸々もらう権利があります。誰にも文句は言えない筈^{はず}です」と。

次に、Dさんが1個のまんじゅうを手元に引き寄せて言いました。「私は、雪を融かし、布で濾してGさんの口元に運んで飲ませました。衰弱したGさんが最も欲しがっていた物は、食べ物ではなく、飲み水だったのです。なぜなら、もし食べ物が欲しかったのであれば、自分のまんじゅうを荷物から取り出してくれるよう人に頼んだ筈です。ですから、Gさんは私に最も感謝しながら死んでいった筈です。もし、ここにGさんが生きていたら、そのお礼に最初に私にまんじゅうを手渡してくれる筈です」と。

Xさんは、5人が4個のまんじゅうを囲むように集まったとき、これを仲良く均等に分け合って食べる相談がなされるものとばかり思っていました。ところが意外な展開にXさんは大変慌^{あわ}てました。YさんもDさんも手元に引き寄せた1個のまんじゅうを、誰が何と言っても絶対に人には譲るものかと言う態度で、皆で均等に分けましよう^{ましよう}と忠告しても聞いてくれそうにない様子だったからです。

Xさんも、ここ2、3日全く食べ物を口にしていま^ませんでしたので、空腹感は頂点に達していました。Xさんはこの空腹感に耐えられずに1個のまんじゅうを手元に引き寄せて言いました。「私は、雪の中を歩き回って薪を集め火を熾してお湯を沸かし、Gさんの体を丁寧^{ていねい}に洗ってあげました。このときのGさんはとても気持ち良さそうでした。ですから、Gさんは私にも深く感謝しながら死んでいった筈です。YさんとDさんがGさんに感謝される行為をしたそのお礼として、まんじゅうを丸々1個もらえるのであれば、私にもその権利はあります」と。

残りのまんじゅうは1個になりました。これをEさんとFさんが観詰^なめながら、何やら相談し始めました。そして2人は、Xさんたちに言いました。「わかりました。YさんもDさんもXさんも、どうぞそれぞれ1個食べてください」と。

これを聞いて 3 人は、手元に引き寄せて置いたまんじゅうを食べ始めました。3 人は、^{はらわた}腸に沁み渡るほどの美味しさを味わいながらも何となく後味の悪いものを感じていました。

3 人が食べ終わるのを観届けると、E さんと F さんは、残ったまんじゅうを引き寄せてナイフで切り始めました。初めに半分に切りました。次にこの半分の 5 等分しました。そして、これを 5 人全員の前に配りました。そして言いました。「私たちは残った 1 個のまんじゅうを仲良く 5 人で食べたいのです。仲良く分け合って食べることが、亡くなった G さんへの最大の供養であるし、G さんもそれを望んでいると思います。残った半分のまんじゅうは明日さらに半分に切ります。この大きさは 4 分の 1 の大きさしかありませんが、一方を次の日の食糧として残し、一方を 5 等分して、明日も 5 人全員揃^{そろ}って仲良く食べましょう。そして、このように、明日も生き続ける人のために、まんじゅうは少しではあるけれども残し続けると言うように、生きる希望を灯しながら救助隊が来てくれるまで、皆で励まし合って仲良く過ごしたいのです」と。

この言葉を聞いて、Y さんも D さんも X さんも涙を流しました。そして己の愚かさを悟ったのです。元々 3 人は、衰弱した G さんを優しく介護したほどの人たちですから、心は清らかなのです。しかし、耐え切れないほどの空腹感が彼らの性格を変えて仕舞ったのです。今、E さんと F さんの仏の知恵と心（愛）に満たされた言葉に触れて、目から鱗^{うろこ}が落ち、そして我に返り悟ったのです。

この言葉には、公案の答え、つまり手元にまんじゅうを置く人が 2 人、3 人と現れた場合や、1 人で 2 個、3 個と取る人が現れた場合など、あらゆる状況に対応できる方法が示されているばかりでなく、最初に手元にまんじゅうを引き寄せた人に対して直接注意することなく悟らせていることから、気まずい雰囲気を作ることなくその場に居合わせ

た全員の心の修行をも成就させているのです。

また、先に食べて仕舞った人にもまんじゅうを配った時点で、この行為を無条件で許しているのです。

もし、雪に閉ざされた山小屋に 5 人 (X、H、I、J、K) がいて 4 個のまんじゅうしかなかったとします。そして H さんも I さんも J さんも K さんも、私は 1 個丸々食べたいと言って、それぞれまんじゅうを手元に引き寄せて仕舞い、まんじゅうが全く残らなかったケースであっても、先の E さんと F さんの仏の知恵と心に満たされた言葉を理解すれば、X さんはここでどんな行動をとれば良いかと言うことも悟れるのです。

つまり X さんは、雪を融かし、布で濾して皆の飲み水を確保して配って回るとか、あるいは、雪の中を歩き回って薪を集めて火を熾してお湯を沸かし、皆にこれを使って体を洗ってもらうとかすれば良いのです。なぜなら「第 19 章 2000 年の初夢」の中ほどで阿弥陀如来が「(この現世では) 一見、 n 人いて $(n-1)$ 個のまんじゅうしか用意されていないようでも、目には見えないけれども (神仏たちから用意された) n 個目のまんじゅうが存在しているのです」と言うような趣旨のことが語られているように、これらの行為は、この場での $5(n)$ 個目のまんじゅうに相当します。ですから、この行為によって X さんは、先に手元にまんじゅうを引き寄せて食べてしまった H さんたちの行為を無条件で許した上に、5 個目のまんじゅうを均等に分割して全員に配ったことになるからです (公案の答え)。

このように、先の E さんと F さんの仏の知恵と心に満たされた言葉の中には、どんな状況に変化しても対応できる鍵が存在していることを X さんは悟ったのです。

山小屋での共同生活に入って 10 日目に救助隊が駆け付けてくれた

ところで、Xさんは夢から覚めました。

2 裸で神仏の腕の中に帰ってゆく

LさんとMさんの会話です。

L 「第15章 3 ノアの箱船を人に譲れますか？」で、登場人物のEさんが「主人公（ジャック）が描いたスケッチブックの絵は、生まれたばかりの赤ん坊から始まって老人（老婆）で終わっています。これは、タイタニックに乗船している生まれたばかりの赤ん坊から死を迎える直前の老人までのすべての人たちの姿がスケッチブックのモデルになっていることを表していたのです」と、タイタニックの映画のシーンに触れている箇所があります。

私は、この箇所を読んで「ジャックが描いたスケッチブックの絵」を通して、仏が人の一生について法を説いていたことを知ったのです。

M 人の一生についてとは、具体的にはどのようなことが説かれているのですか？

L ジャックが描いた絵の中で最も人を引きつけるのは、何と言っても、ダイヤモンドだけを身につけてソファに横たわった女性を描いた絵です。この絵こそが、ジャックの絵が描かれたスケッチブックをヒロインであるローズが1枚1枚捲りながら見せてくれた絵と、映画の中に含まれている仏からのメッセージとを、繋ぐ掛け橋となっているものだったのです。

M 確かに、この絵には多くの人が引き付けられたことと思います。

しかし、私にはこの絵の中に人生を感じ取ることはできません。

L この絵だけでは不十分なのです。これに、スケッチブックの絵と、映画の最後のところで、この絵のモデルとなった女性が誰にも語らずに身につけていたダイヤモンドを海に投げるシーンが加わって、初め

て仏が語ろうとしているメッセージが観えてくるのです。

M それはどんなメッセージですか？

L スケッチブックには、まず、生まれたばかりの裸の赤ん坊の絵が 2 枚描かれています。そして老婆で終わっています。

1 枚目の赤ん坊は母親に抱^だかれて乳を飲んでる絵です。2 枚目の赤ん坊は両腕の中でしっかりと抱^{かか}えられている絵です。いずれも赤ん坊は（抱^だき）抱^{かか}えてくれている人にすべて委^{ゆだ}ね、安心してきっている様子が伝わってきます。

一方、最後に描かれている老婆は、持っているすべての宝石を身に纏^{まと}って、帰らぬ人を 1 人寂^{さび}しく待っている姿で描かれています。老婆が身に着けている宝石は、人が決して離そうとはせずに最後まで執着して抱えている財産や領土や地位や勲^{くんしゅう}章などを表しているのです。反真理的世界です。

つまり、人は誰でも裸で生まれてくるのです。安心してきって周りの人にすべて委ねれば、そこには温かく抱えてくれる人が必ずいるのです。真理的世界です。ところが、大部分の人は、この絵の老婆のように、勝ち取った財産や領土や地位や勲章に執着しながら一生を閉じます。映画の最後のところでローズが「タイタニックが沈んだとき、救命ボート上の 700 人はひたすら待った。死ぬのか、助かるのか。しかし、神の許しだけは待ってもこなかった」と語っているように、この老婆は、仏の目には「本当に待っているもの（神仏の許しや愛）が決して訪れることがないまま寂しく人生を閉じてゆく姿」に映るのです。

聖書の中の「子供を祝福する」と言うところで、イエスは次のように語っています。

＊

「子どもたちを私のところへ来^こさせなさい。妨^{さまた}げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言って置く。子ども

のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」そして、子どもたちを抱き上げ、手を置いて祝福された、と。

＊

つまり、イエスは、赤ん坊（子ども）のように、何も身につけずに（裸で）、すべて神の腕の中に委ねた者は、天国で優しく神に抱き上げられ、そして手を置いて祝福してもらえと言っているのです。スケッチブックに描かれた絵と、ダイヤモンドを海に投げるシーンを通して仏もこのことを伝えていたのです。

ダイヤモンドだけを身につけてソファーに横たわっている絵のモデルとなった女性は、（丁度）100歳（101歳？）を迎え人生を閉じるとき、この唯一身ゆいいつに着けていたダイヤモンドを海に投げて、赤ん坊のようにすべて神仏に委ね、裸の姿で、神仏の腕の中に帰っていったのです。そこは天国の世界だったのです。

持っているすべての宝石を身に纏って一生を終えた老婆の元には、待っている人は帰ってきませんでした。しかし、これとは対照的に、唯一身ゆいいつにつけていたダイヤモンド（宝石）を捨てて全裸の姿になって一生を終えた女性の元には愛した人が戻ってくれて、神と共に優しく彼女を抱き上げてくれたのです。そして2人は、大勢の天国の住人たちによって祝福されたのです。

M なるほど。ジャックが描いたスケッチブックの絵は「裸で生まれ、裸で神仏の腕の中に帰ってゆく」と言う、人生の針路・真理を示してくれていたのですね。つまり、「第19章 2000年の初夢」で語られているように、閻魔さん（＝神仏）から与えられた修行の旅（人生）に必要なものを、周囲の人たちにすべて譲った者（＝身につけていたものをすべて捨てて全裸になった、絵のモデルの女性）だけが、彼岸（天国）へ渡れると言うことですね。

L　そうです。・・・・・・・・それに、ジャックがタイタニックに乗れるきっかけとなった、ポーカー（トランプ）ゲームの相手が「オラフ」と「スヴェン」（ディズニー映画「アナと雪の女王」参照）と言うのですから、この仏、お茶目かも。

M　確かに。

3 表紙の図柄

私は仏から促されて「第 1 巻」を出版する決心をし、出版社を訪ねました。そこで、本書の概略を説明し、出版の契約をしました。校正も大詰めを迎えた頃、出版社から「表紙の図柄について、要望はありませんか？」と尋ねられました。私はしばらく考えた末に「もし、可能であれば、次のような図柄をお願いします」と手紙で申し入れました。

＊

＜^{おもて}表の図柄＞

左手に貧しい身なりをした若者が立っています。この若者は「第 3 章 8 旅人と^{わら}藁」に登場するお腹を^{なか}空^すかした旅人です。右手のやや上方に、若者と向かい合う形で、頭上にリングをつけ、そして法衣を^{まと}纏った^{ふく}福^よ与かな仏が立っています。仏は、稲穂（米）が全く付いていない藁の束（＝^{イコール} 一^{いっけん}見^まった 全く役に立ちそうにないもの）を手にして、これを若者に授けようとしています。そして、若者も手を伸ばしてこの藁を受け取ろう（受け入れよう）としています。

これが希望する図柄です。

貧しい身なりと、稲穂が全く付いていない藁は、若者が「神仏の教えや自然界の真理と摂理の働きに関する知識を全く身につけていない」ことを表します。この姿は、正しい神仏の教えに出会う前の人類の姿

です。そしてこの藁は、心を磨くために仏が若者に与える課題・試練を表します。このような心の紋様から修行を始めて、やがて裏の図柄へ辿り着きます。

<裏の図柄>

左手に立派な身なりをした若者が立っています。そして、若者の後ろ（左手のやや上方）には、立派な御殿が建っています。右手のやや上方に、若者と向かい合う形で、頭上にリングをつけ、そして法衣を纏った福与かな仏が立っています。仏は、実った稲穂（食糧＝衣食住（たんもの・みかん・屋敷）＋愛と知恵と勇気と希望などの霊力）の束を手にして、これを若者に授けようとしています。そして、若者も手を伸ばしてこの稲穂を受け取ろうとしています。

これが希望する図柄です。

立派な姿や御殿や実った稲穂は、若者が心の修行を完成させたことを表します。そして今、若者は仏の前に立っています。

仏は「悟った」と言う若者の慢心を抑えるために、頭を垂れる実った稲穂を授けようとしています。そして、若者も素直にこれを受け取ろうとしています。この頭を垂れる実った稲穂こそ、本物の仏の知恵を表し、この図柄は、その知恵を若者が手にしたことを表現しています、と。

＊

この2つの図柄は「仏が与えた、実の全く付いていない1本1本の藁が、若者の心の修行が完成されてゆくにしたがって、頭を垂れるほど、たわわに実る稲穂へ変化してゆく様子」を表現したもので、私なりには、第1巻の内容を良く表現していると思っていました。それに出版することは仏が勧めたことでもあるので、もしかしたら仏を始め霊界のすべての魂が動いてくれて、この図柄が表紙に採用されるので

はないかと期待しながら、出版社からの回答を待っていました。

ところが出版社からの回答は「具体的な図柄を入れると、本のイメージが固定されてしまいますので、抽象的な方が内容に広がりを持たせることができると考えます。そこで、表紙の図柄について、2つの案をお示しします。いずれか一方を選んでください」という趣旨の内容でした。つまり、出版社が示した図柄の中から選んでくださいとのことで、私の案は採用されなかったわけです（がぁーん）。

私の案のどこが問題であったのか？ 仏も霊界の魂たちもどうして動いてくれなかったのか？ しばらく考えていたら仏が語り掛けてきました。以下は仏と私の対話です。

私 仏さん。どうして動いてくれなかったのですか？

仏 私はあなたのために動いたのです。

私 でも、私の案は採用されませんでした。

仏 そうです。私は、あなたの案が採用されないように動いたのです。

私 それはどうしてですか？

仏 あなたのためです。

私 採用されないことがどうして私のためになるのですか？

仏 わからないのですか？

私 全くわかりません。

仏 それでは説明して差しあげます。

この宇宙は神仏たちが ^{つかさど}司^{とうそつ}って（統率して）いるのです。その目的は何か？ それはすべての魂（人々と動植物たちなど）を悟りの世界へ導く（霊格を向上させる）ためです。これは創造主が宇宙を創った目的に基づくものです。したがって結論から言うと「すべての魂が悟れるまで宇宙は崩壊しません。まして人類が絶滅することは創造主の敗北ですから、絶対にありません。この真理の存在を知らないから人

類の中に、人生を占ったり絶滅・滅亡を予言したりする心配性のお馬鹿さんが出現するのです」。

それに付け加えるならば、人類の絶滅を予言するのは、創造主の救いの御業を否定する行為で大罪です。

私 （でも、当たり前ですが、人類の悪想念の総和が、創造主の善想念を上回るほど深刻であった場合、創造主の霊力をもっても救えない形で、残念ながら人類は絶滅してゆきますし、絶滅を回避^{かいひ}するのは、人類全員の努力と協力でなすのが基本です。創造主は「絶滅してゆくのは、真理と摂理の働き」ですから、絶滅しないよう真理の道を示すだけです。また、これも当たり前ですが、すべての人が、地上で学ぶべきことを成就したとき、地上に降誕する者がいなくなる形で、人類は地上から姿を消してゆきます。 ：ここは、著者の意見で、仏の見解とは異なります。しかも、仏の見解は、人類に怠惰^{たいだ}に繋^{つな}がる安心感を与え、霊格の停滞^{ていたい}を招き、真実であっても語るべきではありません）。

仏 しかし、悟るためには、きっかけとなるヒントが必要なのです。そのため神仏たちは、人々が日常目にする現象の中に、あるいは大自然が織りなす風景の中に、様々な形で悟るために必要なヒントを見せているのです。でも、これは神仏の心と目を持たなければ観えないのです。なぜなら、このヒントは無色透明な光のようなものだからです。「虹の掛け橋」は、この無色透明なヒントを目に観えるものに変えるプリズムの役割を果たすものであって欲しいのです。

私は、この本の中で、何度も語り手として姿を現しました。しかし、多くの読者は「本当に仏が語り掛けてくるのだろうか？」とか「仏の声を聞くことができるのだろうか？」と言う疑問を持つものです。この疑問符が取れない限り、この本が信頼を勝ち取って多くの人々に読まれることはないのです。読まれなければ、これが無色透明なヒント

を目に観えるものに変えるプリズムの役割を果たすものには成り得ないのです。

そこで、私は、あなたが生まれる前から、言葉（漢字や英語などの文字、数字、名前など）、地名、日時、祝日、硬貨、映画、教典などに介入する形で準備してきたのです。それは、あなたに語ってきた内容が、人知を超えたものであると、多くの読者に感じてもらうことによって「神仏の声を聞いた者でなければ決して書くことができない内容である」と納得してもらうためです。つまり、この本に書かれている内容が、あなたが本当に神仏の声を聞くことができることを証明するものとなるためです。同時に「この宇宙は神仏たちが真理や摂理の働きを通して司っている」と言う証拠をできるだけ多く、人類に示すためです。

しかし、私があなたに語り掛けるからには、あなたには次の 2 つの条件を守って頂きたいのです。

- ① 私の言葉を聞くときには細心の注意を払ってください。
- ② そして、仏と対話できるからと言って慢心してはなりません。

あなたの案が、表紙の図柄に採用されなかったのは、この 2 つのいずれの条件も満たしていなかったからです。

私 私としてはこれらの条件を常を守ることを心掛けています。このときも守っていたつもりです。どうして「守っていなかった」と指摘されるのか理由を教えてください。

仏 あなたが思い描いた表と裏の図柄の骨格は、実は私があなたの心（意識）の中にインスピレーションとして送信したものです。しかし、あなたは、若者を左に仏を右側に立たせようとししました。私が送信した図柄は、これとは対称的に若者を右に仏を左に立たせたものだったのです。

若者の「若」という文字は「草冠に右」と書きます。「草冠」は、仏

が頭上から若者に授けようとしている、藁や稲穂を表していたのです。

「右」はこの光景が表紙の右側で繰り広げられることを示していたのです。あなたは、私の声を聞くときは細心の注意を払うべきであったのに怠っていたため聞き漏らしたのです。なぜ、私の声を聞き漏らしたのか？ それは、あなたに慢心が育っていたからです。

あなたは、自分の描いた図柄が採用されるよう、仏をはじめ霊界のすべての魂が動いてくれることを期待していました。この思いは仏の目から観れば慢心です。なぜなら、この思いはやがて「仏を動かしてみたい」とか「自然を動かしてみたい」とか「人を動かしてみたい」と言う独裁者的な思いへ繋がっているから危険なのです。それに、思い通りに動かそうとする者は、思い通りにならなかったとき、怒りを覚え、周囲の環境等（家庭・学校・職場・社会・未来）や健康状態は地獄です。だから、このような心が支配したとき、私の声は正確には聞こえないのです。

先ほど話したように、私は漢字などの文字に私の思いや神仏の教えを吹き込み、その内容をあなたに語ってきました。このことを通して「あなたが本当に神仏の声を聞くことができること」そして「この宇宙は神仏たちが司っていること」を多くの人に納得してもらうためです。しかし、私の語り掛ける言葉が正確にあなたに伝わらなかったとき、そして、誤った内容が世に出ようとするとき、私は多くの魂を動かし止めます。

表紙は大切な部分です。もし、あなたが描いた図柄で印刷され世に出たとします。そして、これを見た人が「若者は、草冠に右と書くのに、左側で仏から、藁や稲穂と言う草類を頭上で冠のように受け取るのは可笑しいではありませんか？ あははは」と指摘されたら、あなたは体が凍って答えられない筈です。このような指摘を受けては「虹の掛け橋」の内容全体が疑われて仕舞い兼ねないのです。

私 わかりました。私には慢心があり、そしてこのために仏さんの言葉を正確に聞き取ることができなかったようです。私の愚かさを表紙に載^のせて出版しないで済んでありがとうございました。でも、2つ疑問が残るのですが、質問して良いですか？

仏 良いですよ。

私 1つ目です。

誰もが若者を常に図の右側に立たせるのは、図の構成に偏^{かたよ}りが生じて仕舞うのではないのでしょうか？

仏 そうですね。ですから、私が若者を右側に立たせてくださいと言ったときに「若者を常に図の右側に立たせるのは、図の構成に偏りが生じてしまうと考えるので、私は若者を左側に立たせたいのですが」と、あなたが反論してきたならば、私は多くの魂を動かし、あなたの案のとおり表紙を作らせたことでしょう。つまり、若者は図の左でも、中央でも、右でも、上でも、下でも、手前でも、後ろでもどこでも良いのです。大切なのは、仏から受け取った薫が、若者の心の修行が完成されてゆくにしがって、頭を垂れる稲穂へ変化してゆく様子が表現されていれば良かったのです。

でも、私はあなたの案が採用されるように動かなかった。むしろ採用されないように動いたのです。それはなぜか？ 私はあなたに「私の言葉を聞くときに細心の注意を払わなかったことが問題である」ことを指摘したかったのです。

それでは、表紙の図柄について出版社が示した2つの案が封筒に入っていますので、出してください。

1つ目の図柄は、(虹を構成する)7色の線が一定の間隔を取りながら縦に1本1本描かれたものです(第1案)。

2つ目の図柄は、7色の楕円が折り重なるように描かれたものです(第2案：これが第1～3巻の初刊本100～200冊(講談社出版サービ

スセンター発行)の表紙です：著者より)。

この2つの図柄は、あなたが毎日目にしている光景を表現したものです。

私は、あなたの目の前に1本の藁を落とします。その藁は、日常誰もが平等に目にしている光景です。しかし、人々の目には無色透明にしか見えないため誰もこの藁に気付かないのです。しかも、この藁は、手に触れることも関わりを持つことも避けて通りたいと強く思うほど、あなた(すべての魂にも当て^{はま}ります)の目には汚れた藁(病気等の苦難・月△△時間の超過勤務労働・不眠・不幸・屈辱・飢餓・絶望)に感じるものです。これこそ私があなたに与えた課題・試練です。

私は「この藁を拾えますか？」とあなたに問います。あなたは、私が与えた課題を受け入れ、あなたにしか拾えないこの藁を拾います。

藁を拾い、この藁が^{もたら}す苦難に耐えながらも、やがてあなたは体力を使い切って何度も倒れ、その都度、生きながらにして輪廻転生を繰り返^{よみがえ}ります。徐々に、汚れた藁は光り輝く赤い藁に変わります。第1案に描かれている赤い線がこの赤い藁を表します。

あなたは、私が与えた課題を通して学んできたことを^{まと}め、血と涙の結晶体である「第1巻」を書きあげます。つまり赤い藁を使って赤い草鞋^{わらじ}(第1巻)ができあがります。草鞋は、これを帽子のように頭^{かぶ}に被^はって知識に留めていたのでは何の役にも立ちません。実際に履いて初めて役に立ったと言えるのです。あなたは、この赤い草鞋を履いて歩みはじめます。つまり「第1巻」に書かれた内容を再度実践し、吟味し、確信に変えます。

すると歩み出した足下^{あしもと}に悟りの世界や天国を象徴する虹が現れ、あなたは今この上を歩いていることに気がきます。足下に目を落とすと、踏み込んだ足の重みで、虹の下の色が^{にじ}滲んで観えます。第2案は、楕円形をした赤い草鞋を履いて虹の上を歩いているときに観える足下の

光景を表現したものです。

実践を続けてゆくとやがて草鞋が擦^すり減ってきます。履けないほど草鞋が痛み「第 1 巻」の吟味作業が終了します。

そこで私は、あなたの目の前に再び 1 本の藁を落とします。この藁も、あなたの目には汚れた藁に感じるものです。これこそ私があなたに与えた 2 つ目の課題です。

私は「この藁も拾えますか？」とあなたに問います。あなたは、私を与えた課題を受け入れ、あなたにしか拾えない 2 つ目の藁を拾います。

藁を拾い、この藁が齎^すす絶望感に耐えながらも、やがてあなたは体力を使い切って何度も倒れ、その都度、生きながらにして輪廻転生を繰り返し、蘇ります。徐々に、汚れた藁は光り輝く橙^{とうしょく}色の藁に変わります。第 1 案に描かれている橙色の線がこの橙色の藁を表します。

あなたは、私を与えた課題を通して学んできたことを纏め、愛と知恵と勇気と希望の善想念から成る結晶体である「第 2 巻」を書き上げます。つまり橙色の藁を使って橙色の草鞋（第 2 巻）ができあがりします。あなたは、この橙色の草鞋を履いて歩み始めます。

このように、表紙の図柄は、7 色の藁を拾い、これを基に 7 色の草鞋を作り、そしてこれを履いて実践してゆく光景を表しているのです。

ところで、表紙の図柄は、第 1 案、第 2 案いずれか一方しか採用されません。あなたは、どちらを選択しますか？

私 私の目には、仏さんが与えた課題を受け入れる（汚れた藁を拾う）ことも、草鞋を履いて実践することもどちらも大切で、この 2 つに優劣をつけることはできません。ですから、私は第 1 案と第 2 案は、この視点からは等価であると考えます。

しかし、私は別な視点から「第 2 案」を選択します。

仏 ほー。それはどんな視点ですか？

私 私は慢心によって仏さんが「若者を右側に立たせてください」と語り掛けた言葉を聞き漏らし「左側に立たせよう」としました。しかし、もしこの言葉が聞き取れていたとしても、やはり「若者を常に図の右側に立たせるのは、図の構成に偏りが生じてしまうと考えますので、私は若者を図の中央、右、左、上、下、手前、後ろにも自由に立たせたいのですが」と申し入れたと思います。

「楯円」の文字の中に「左」と言う文字が含まれていますが、第2案の楯円は、図の中央、右、左、上、下、手前、後ろにも自由に立つ形で描かれています。しかも、赤い楯円1つ取っても、ときには中央に、ときには右に・・・・・・と虹の構成要素色の数と同じ7つのポジションに変化します。

このようなことから、第2案は、慢心によって仏さんの言葉を聞き漏らしたことを自身に戒めるために、そして、文字を構成している「左」とか「右」によって図の構成が左右されないことを示すために選択したのです。

仏 なるほど。そのようにしてください。

私 2つ目の質問です。

仏 え！

私 表紙の図柄がどのような経緯を辿って決定したのかを^{しる}記したこの箇所の仏さんと私の^や遣り取りには「慢心を抑える戒め」「文字の中に神仏の教えを吹き込んできた証拠の提示」「右、左、若、楯の字を^{しゅうとう}周到に準備してきたこと」等々、とても重要な事柄が挿入されているようです。このことを踏まえ、この文書を書くきっかけは、私が仏さんの言葉・映像を左右、聞き・観間違えた一点に戻ります。だとすれば。

仏 ちょっと待ってください。あなたは何を言い出そうとしているのですか？

私 仏さん。私に送った映像は元々、若者は「左側」でしたね。

仏 うーん。「不識^{ふしき}」です。

私 その答えはイコール私の言う通りだと認めているようなものです。

仏 うーん。私の霊力ではあなたを欺^{あざむ}くことはできそうにありません。

私 仏さんは、このことによって、私に「虹の掛け橋」の中で稲穂のように頭を下げさせたのですよ。どんな気分でした？

仏 心苦しかったです。

私 そのような気持ちになることを、なぜなさったのですか？

仏 創造主の指示です。

私 創造主？ 究極の存在者ですか？

仏 そうです。

私 なぜ断れなかったのです？

仏 断れないと言うよりは、霊界の魂であれば皆、断る気持ちが生まれないのです。なぜなら、創造主の言葉は我々霊界の魂の知恵の及ばない深遠なもので、そのときは理解できなくとも、その指示のとおり行動すれば、それは10万年、100万年後のタイムスケールで捉えたときになりますけれども、必ず最良の結果が齎されているのです。ですから、あなたに頭を下げさせた心苦しさを差し引いても、創造主の指示にしたがったことを後悔していません。

私 そこまでの確信犯では致し方ありませんね。もし、私が霊界に戻って、創造主にお会いする機会があったら直接抗議します。

仏 あなたが不快に感じたことは、あなたが霊界に戻るまでもなく直ちに創造主に伝わっています。

私 それはなぜ？

仏 今は、これ以上は言えません。

私 それでは、このことに関して仏さんには責任がなさそうですので、以後不問にします。

第 22 章

神仏の愛はいつでも、どこでも、
誰にでも無限に注がれている

1 仏と菩薩

N さんと O さんの会話です。

N 私は仏教に入信してまもない P さんから「死んだ人のことを仏さんと言います。お釈迦さんのことも仏さんと言います。修行をして悟った人のことも仏さんと言います。そして、すべての人は仏の化身だとも言います。仏を説明する言葉がたくさんあり過ぎて、どれが仏を適切に表現したものか私にはわからないのです。ですから、仏になるために修行をしようとしても、その目標となる仏の実体が見えてこないのです。仏とは一体どのような人を言うのですか？」と質問されたのです。

O なるほど。

N 私たちは仏になるために修行している者です。ですから、私たちが目指す仏とは「死んだ人が誰でもなれる仏さん」とは違っているわけです。それに、お釈迦さん以外にも、^{あ み だ ぶ っ}阿弥陀仏や^{だいにちによらい}大日如来や^{び る しゃ}毘盧遮^{な ぶ っ}那仏など大勢の仏がいますので、仏とは「お釈迦さんのことを言います」と言うのでは不十分のような気がします。また、本を読んで学んで悟っていても、実践しない人のことを仏とは言えないと思うのです。私としては、殺人鬼も仏の化身とは思えないのです。

しばらくこのようなことを考えていたのですが、P さんに何と答えて良いのかわからず「後で^{せんだつ}先達に聞いて置きます」と言ったのです。O さん、私は P さんに何と答えるべきだったのか教えて頂けません

か？

○ 確かに、仏を表現する言葉はたくさんあります。私はそれで良いと思うのです。つまり仏を一言で表現する必要はないと思います。なぜなら、人それぞれ仏の捉え方が異なると思うからです。たとえば、次のように。すべて「ある人にとっては」と頭に付けて読んでください。

- ・喉が渇いて死にそうになったとき、水を飲ませてくれた人が仏です。
- ・お腹が空いて死にそうになったとき、食べ物をご馳走^{ちそう}してくれた人が仏です。
- ・お金がなくて困っていたとき、お金をくださった人が仏です。
- ・怪我をしたとき、病院まで運んでくれた人が仏です。
- ・病気を治してくれた先生や看護師さんが仏です。
- ・疲れていたとき、電車やバスの座席を譲ってくれた人が仏です。
- ・寂^{さび}しいとき、優しい言葉を掛けて慰^{なぐさ}めてくれた人が仏です。
- ・店のお客さんが仏です。
- ・仕事を与え生活に必要な給料をくれる人が仏です。
- ・仕事をして会社を支えてくれる社員が仏です。
- ・間違っていることを指摘してくれる人が仏です。
- ・産み育ててくれた両親が仏です。
- ・生き甲斐^{が い}を与えてくれる家族が仏です。
- ・愛することを教えてくれた夫・妻・彼・彼女が仏です。
- ・人生をどう生きたら良いのかを説いてくれる先輩が仏です。
- ・心を和^{なご}ませてくれる動物たちや草木が仏です。
- ・
- ・
- ・
- ・己の過ちを素直に認め反省できる人が仏です。

- ・約束を守ってくれる人が仏です。
- ・我慢強くて決して愚痴^{ぐち}をこぼさない人が仏です。
- ・最後まで諦^{あきら}めずに努力する人が仏です。
- ・謙虚な人が仏です。
- ・誘惑に負けない不動の心を持った人が仏です。
- ・あらゆる変化に柔軟^{じゅうなん}に対応できる人が仏です。

・
・
・

このように「仏とは一体どのような人と言うのですか？」の問いに対する答えも人によって異なりますし、観回せば私たちは仏に囲まれて生活しているのです。

先ほど N さんは「私たちは仏になるために修行している菩薩です」と言われました。この中に、どのように P さんに答えたら良いのかと言う疑問に対する答えが含まれているのです。つまり「P さんはどのような人が理想的な人なのですか？」と問うことです。この理想とする人間像が P さんにとっての仏で、修行の目標と考えれば良いわけです。もし、P さんの理想が「困ったときに助けてくれる人」であれば、P さんにとってこのような人が仏です。ですから P さんには「困っている人がいたならば、選り好みせずに、どんな人でも助けてゆける仏になることを目標に、心の修行をされてはどうですか？」と話してください。

N なるほど。その人の理想像が仏ですか。わかりやすい答えです。実は私は、仏になるために、この道場で修行しているのですが、P さんと同じく仏とは具体的にどのような人と言うのかわからなかったのです。仏典には、こんな仏、あんな仏といろいろな仏が出てきます。ですから、今までは修行の目標とする仏が多過ぎて目標が 1 つに定ま

っていなかったのです。でも、私の理想とする人は優しい人です。なので、今日からは「選り好みせず、どんな人にも優しい言葉を掛けてゆける人になること」を目標に、心の修行ができそうです。

ここで、Oさんに質問があります。人それぞれに理想とする仏が存在するのであれば、お釈迦さんが理想とし目指した仏とはどんな人なのですか？これを教えて頂いて、もし可能ならば私もこの仏になることを目標にしたいのですが？

それに、Pさんもこのことには興味があるのではないかと思います。もしかしたら、Pさん、あるいは読者の方々が聞きたいのは、ずばりこのことではないかと思います。

O おっしゃるように、仏典には、こんな仏、あんな仏といろいろな仏が出てきます。これはすべてお釈迦さんが説かれた仏ですが、性格は仏によって異なっているのです。中には相反する性格を持つ仏もいるのです。たとえば、^{にゅうわ}柔和な顔で人を救ってゆく仏もいれば、怒りに満ちた^{ぎょうそう}形相で人を救ってゆく仏もいるのです。もし、すべての仏の性格を書き出して、1つの仏に^{まと}纏めようとしても、そこには矛盾が生じてしまい、人間の知恵では決してその姿を捉えることはできないのです。しかし、仏典に書かれているどの仏も「お釈迦さんが理想とし目指した仏」の要素を必ず含んでいますから、1つの仏の姿を理解することは、仏典に登場するすべての仏の姿を理解することに通じると思っています。

私は、法華經^{ぎょうじゃ}行者ですから、ここでは、法華經の中で説かれている、「お釈迦さんが修行して辿り着いた仏」とはどのような仏なのかを、お話ししたいと思います。それが^{よろ}宜しいですか？

N それで結構です。なんかワクワクします。

O 法華經第16章(品)^{ほん}の如来寿量品^{にょらいじゅりょうぽん}の中で「無限の過去からすでに修行を成就して仏となられたお釈迦さんは、迷い苦しんでいる人たち

の氣根（心の修行の程度）に応じて適切な方法を觀極めて仏の道に導き、そして、その修行の道を速やかに成就させようと、滅めつすることなく、無限なる未来に亘わたって、常にこの世界に留まって法を説き続けている」と書かれています。これが、お釈迦さんが辿り着いた仏の姿・生き方なのです。

N 具体的な事例で、もう少し詳しく説明して頂けませんか？

O それでは、菩薩と比較しながら説明します。菩薩とは仏になるために修行している者を言います。ですから私たちも菩薩です。菩薩にも仏と同じように「迷い苦しんでいる人たちを救いたい」という思いがあります。違いは、人々の心の修行に応じて適切な方法を觀極める菩薩の知恵は、仏には及ばないということです。

具体的な事例でお話しすると次の①～③のとおりです。

① 我が子の学校でのいじめや不登校問題で悩み苦しんでいる Q さんがいました。菩薩は Q さんを觀て、なんとしても救いたいと思いました。そこで、菩薩は Q さんの苦しみを我がことのように受け取り、どうしたらこの苦しみから逃れることができるのか、解決の糸口を Q さんと共に探り始めます。やがて、Q さんと菩薩は、神仏の教えを学び、心を浄める修行を通じて苦しみの原因と、逃れる術すべを知ります。この経験を得て菩薩は、まず、いじめや不登校問題で悩んでいる人を救う知恵を身につけることができました。

② 次に、夫（妻）の浮気の問題で悩み苦しんでいる R さんがいました。菩薩は R さんを觀て、なんとしても救いたいと思いました。しかし菩薩は、いじめや不登校問題で悩んでいる人を救う知恵は身につけたものの、浮気で悩んでいる人を救う知恵はまだありませんでした。そこで、菩薩は R さんの苦しみを我がことのように受け取り、どうしたらこの苦しみから逃れることができるのか、解決の糸口を R さんと

共に探り始めます。やがて、Rさんと菩薩は、神仏の教えを学び、心を浄める修行を通じて苦しみの原因と、逃れる術を知ります。この経験を得て菩薩は、浮気の問題で悩んでいる人を救う知恵を身につけることができました。

③ 次に、病気で悩み苦しんでいるSさんがいました。菩薩はSさんを観て、なんとしても救いたいと思いました。しかし菩薩は、いじめや不登校や浮気の問題で悩んでいる人を救う知恵は身につけたものの、病気で悩んでいる人を救う知恵はまだありませんでした。そこで、菩薩はSさんの苦しみを我がことのように受け取り、どうしたらこの苦しみから逃れることができるのか、解決の糸口をSさんと共に探り始めます。やがて、Sさんと菩薩は、神仏の教えを学び、心を浄める修行を通じて苦しみの原因と、逃れる術を知ります。この経験を得て菩薩は、病気で悩んでいる人を救う知恵を身につけることができました。

このような経験をいくつも積んで菩薩は、次第に様々な悩みで苦しんでいる人たちを救う知恵を身につけてゆきます。お釈迦さんはこのような菩薩の修行を無限の過去においてすでに成就されて、すべての人たちの悩みや苦しみの原因を瞬時に観極めて適切な方法で救ってゆく知恵を身につけられたのです。

N なるほど。お釈迦さんにとって「すべての人たちの悩みや苦しみの原因を瞬時に観極めて適切な方法で救ってゆく知恵を身につけられた人」が理想像・仏だったわけですね。そして、お釈迦さんはこのような仏に無限の過去においてすでになられていたということですね。

O そうです。

N やはりお釈迦さんは立派な方です。私は「もし可能ならば私もお釈迦さんが理想とする仏になることを目標にしたい」と言いましたが、私には、とてもできそうにありません。なぜなら、私の理想とする「選

り好みせずに、どんな人にも優しい言葉を掛けてゆける人」になるだけでも容易ではないからです。

○ Nさん。「選り好みせずに、どんな人にも優しい言葉を掛けてゆける人」になるだけでも立派な仏です。真にこのような人（仏）になったならば、すべての仏の要素を身につけている筈です。ですから、このとき Nさんは、すべての人を救ってゆく知恵を持った仏になっている筈です。なぜなら「1つの事柄・道であっても真に極めたならば、その技（業）は、すべての事柄について極めることを可能ならしめる」と言う真理、イコール「1滴の（海）水から太平洋のすべての水を観る技を勝ち取る」ことに繋がっているからです。

2 社会に有毒なもの

Tさん宅では、月に1回の頻度で聖書の勉強会が開催されていました。Uさんはこれに参加するためTさん宅へ向かって歩いていました。喉の渴きを覚えたUさんは、路上の自動販売機で缶ジュースを買おうとして500円硬貨を入れました。しかし、硬貨は返却口のところに戻ってきて仕舞いジュースを買うことができませんでした。返却口には「500円硬貨は使用できません（2002年）」と書かれていました。財布の中身を調べたら、妻から頂いた1ヵ月分のお小遣い^{こづか}の500円硬貨1枚しか入っていなかったため、次の自動販売機で買おうとして、Uさんは先へ進んでゆきました。

100mほど行ったところに2つ目の自動販売機がありましたが、これにも「500円硬貨は使用できません（2003年）」と書かれていました。さらに100mほど行ったところに3つ目の自動販売機がありましたが、これにも「500円硬貨は使用できません（2004年）」と書かれていました。Uさんはとうとうジュースを買うことができずにTさん

宅に着いてしまいました。

Tさん宅にはすでに10人ほど集まっており、Uさんが席に着いてまもなく勉強会が始まりました。1時間ほどして一段落したところで休憩となり、冷えたジュースが出されました。喉がカラカラに渴いていたUさんは、これを何度もおかわりして仕舞いました。これを観ていたTさんから「^u ^s ^a ⁿ ^Y ^o ^uは、よほど女将さん（御神さん：^お ^か ^み ^Uさんにとって女神様）の愛に渴いているようですね」と言われて仕舞いました。そこでUさんは、ここに来る途中の自動販売機で500円硬貨が使用できず、ジュースが買えなかったことを話しました。すると、この話題がきっかけとなって「^に ^せ ^{もの}偽物」について話が盛り上がってしまい、聖書の勉強どころではなくなってしまいました。

Tさんたちの話の内容は以下のとおりです。

T この付近は住宅が建ち並んでいる割には店がないため、その分、路上に自動販売機が数多く設置されています。以前はどの自動販売機でも500円硬貨は使えていたのですが、偽造硬貨による被害が頻発してからは使えなくなって仕舞ったのです。

U 偽造硬貨による被害ですか？

T そうです。犯人は、その硬貨を使って、商品4本のジュースとお釣り20円を^だ ^ま騙し取って、この付近一帯の自動販売機を荒らし^ま ^く捲って歩いたようです。

U え！ 商品1本とお釣り380円取った方がお得なのに、この犯人もしかしてお馬鹿さん？

T ああ。失礼、先ほどの犯人の行動は私の想像で、お馬鹿なのは私かも。

U ところで、その硬貨は見分けが付かないほど^{せいこう}精巧にできていたのでしょうか？

T 人間の目では違いが一目瞭然^{いちもくりょうぜん}ですが、大きさも形も重さもそっくりだったため、お馬鹿な機械では違いを区別できなかったようです(自動販売機の名誉のために申し添えますと、現在(2016年)では改良されて一応見分けが付くようです。著者より)。一部の心ない者のために、多くの人が迷惑を被っているのです。全く困ったものです。

V 新聞を読んでいたら、全国各地で偽札が見付かったと言う記事が載っていました。どれも、パソコン用プリンターなどを使って印刷 or コピーしたものらしいです。この犯人も多くの人に迷惑を掛けていますから、罪は重いと思います。

W そう言えば、クレジットカードの偽造による被害も良く新聞で報じられています。これも罪が重いですね。

X 私は偽物を買わされたことがあります。ブランド物を安く売っている店があったので、そこで時計とバッグを買ったのです。後日、質屋^{しちや}さんに持って行ったら「これらは偽物だからうちでは預かれません」と言われてしまいました。これを売っていた店の経営者はお縄^{なわ}になりましたが、この罪も重いと思います。

Y 私も偽造されて酷い目に遭^あったことがあります。ある日突然お巡りさんがきて「パスポートを紛失^{ひど}しませんでしたか？」と聞いてきたのです。なんと、気付かないうちに盗まれていて、偽造され犯罪に使われて仕舞ったらしいのです。この犯人の罪も重いですね。

Z 私は偽物による被害を受けたことはないのですが、本物と同じように機能して周りを攪乱^{かくらん}してしまうと言う、とんでもない物質を分析する仕事をしているのです。

T とんでもない物質に興味がありますね。

Z 河川の水や土壌や、ドジョウなどの魚に含まれている「環境ホルモン」で、これは正確には「内分泌攪乱^{ないぶんびつ}化学物質」と言われるものです。この物質は、生物の体内に取り込まれると、ホルモン受容体(特

に性ホルモン受容体)と結合し、正常なホルモンと同様に機能します。このため、ホルモン過剰の状態が作り出されたり、必要のないときにホルモンとして機能したりして、本来のホルモンが受容体と結合できなくなる状況になって、正常なホルモンの機能が狂わされて仕舞うのです。しかも困ったことに、この物質は濃度が $p p t$ ^{ビービーティー} (1兆分の1) という気の遠くなるようなごく微量でもホルモンとして機能してしまうのです。このため、地球上の様々な生物に、生殖障害 ^{せいしよく} が起こっているのです。

T 1兆分の1とはどの程度の濃度ですか？

Z 1辺が100mの立法形をした水槽に1gの角砂糖を溶かした濃度ですから、この辺一帯では有名なTさんの舌の感覚をもってしても甘みを感じることができない濃度です。

T そんなに微量でも正常なホルモンの機能を狂わせて仕舞うのですか？

Z そうなのです。私は皆さんの話を聞いていて、偽造硬貨や偽札や偽造カードや偽ブランド品や偽造パスポートは、存在割合がわずかに数 $p p t$ ^{すう} 程度であっても、恰も本物 ^{あたか} のように振る舞いながら社会の正常な機能を攪乱していますから、このとんでもない物質である「環境ホルモン」のような有毒物質であると思います。

T なるほど。「環境ホルモン」の濃度が今以上に上昇したならば、人類を始め多くの生物が生存の危機に晒 ^{さら} されるように、偽物の割合が今以上に増えたならば、社会の様々なシステムは正常に機能しなくなつて、秩序が崩壊するということですね。これは、何としても食い止めなければなりませんね。

U そうです。偽物は社会にとって有毒なものです。ですから、これらの犯罪者たちの罪は相当重いと思います。

T そう言えば、未だに止 ^や まない「振り込め詐欺 (オレオレ詐欺・特

殊詐欺)」も家族に成り済ましてお金を騙し取る手口ですよね。それと「母親が待っているから」と言って、まだ言葉がわからない幼児に近づいて誘拐する行為、これらも家族の愛の絆を攪乱させる行為ですから、相当罪が重いですよね。

U 社会の秩序を崩壊させる罪、これらは神の目から観たら、どのくらい重いのでしょうか？

T 天国には決して入れないでしょうね。

そこに、Tさんたちの会話をずーっと天上界で聞いていた天使が下りてきました。Tさんは天使に尋ねました。



天使

shutterstock_776299441

T 天使さん、偽物で社会を攪乱させた罪はどのくらい重いのですか？

天使 1tくらいですね。皆さん「毒」と言う文字を良く観てください。「毒」は「**主**」（「しゅもどき」と読みたい：著者より）と「**母**」と言う文

字から構成されています。「**主**」は「主」のようで「主」ではないのです。「母」も「母」のようで「母」ではないのです。つまり、主や母のような最も神聖な愛を装って近づき人を騙す行為は、人々にとってこれほど毒なものはないのです。偽物で社会を攪乱させた人たちは、神の目から観れば、これと同じ行為をしているのです。ですから、この罪は非常に重いのです。

この罪を犯して、とんずらした者たちは、いくら神の愛に渴いたとしても、神からジュースはもらえず、神の教えに目覚め自首して懺悔し

ながら豚箱^{ぶたばこ}に入って足を洗わない限り、決して本物の主の愛にも母（父・夫・妻等の家族）の愛にも周りの人々からの愛にも出合うことがない反真理的世界に住むことになります。

3 「主」と「主」

AさんとBさんの会話です。

A 「第6章 3 煩惱」のところで仏は「主と言う文字は^{マイナス}－と言う煩惱が心の奥底に^{ひそ}潜んでいて、2つの仏性（^{プラス}＋）がこれを二重に抑えている、または、幾重にも積善（^{プラス}＋）を行って煩惱（^{マイナス}－）を浄めている修行の姿を表しているのです」と語っています。「－」の上に「＋」を2つ積み重ねると「主」の文字ができあがります。つまり、仏は「主」と「主」は同じ文字であると語っているのです。

これに対して「第22章 2 社会に有毒なもの」のところで天使は『「毒」は「主」と「母」と言う文字から構成されています。「主」は「主」のようで「主」ではないのです』と語っています。Bさん、仏と天使の語っている内容は矛盾しているのではないのでしょうか？

B 明らかに矛盾していますね。

A どうして矛盾したことが書かれているのでしょうか？

B 私の考えで話して良いですか？

A それで結構です。

B 理由は宗派の違いです。

A え！

B 冗談です。理由は、ここで語られている仏の言葉も天使の言葉も真理を一方向でしか捉えていないため、仏と天使の言葉をセットで理解したとき、真理の全体像が観えてくるのです。つまり「主」を「主」

と観ることも観ないこともどちらも可能で、日常目にする光景は、これの応用問題的な側面を持っていると言えます。

A 具体的に説明して頂けますか？

B 「偽物」の「偽」と言う文字は「人の^{ため}為」と書きます。人間の目から見て、その人のためになると思われる行為が、実は神仏の目から観れば決してその人のためにはなっていないと思われる行為があります。一方、人間の目から見たら「有毒」に思えることが、実は神仏の目から観れば、その中に主（神仏）と母の深い愛情が注がれていると思われることがあります。

たとえば母親が、子どもが欲しがると言って我が子のために良かれと思い、食べ物や玩具^{おもちゃ}を際限なく与え続けたならば、子どもはどうなるのでしょうか？ 恐らく子どもは、我慢することも、努力して自ら人生の勝利を^{つか}掴むことも覚えないでしょうから、いつまで経っても、ふにゃふにゃの魂で決して大人には成長できないと思います。このような子どもは不幸で母親に責任があり、母親^{ママ}としても人間としても菩薩としても天女としても女神様としても失格です。したがって、このような母親の愛は、神仏の目から観れば決して子どものためになっていませんから、偽物の自己満足的な愛です。つまり、人の為と思って必要以上に注ぎ続ける愛は、本物の愛ではない（偽物）ということとです。

一方、Cさんが人生の苦しみに^{あえ}喘ぎ、モーゼや釈尊やイエスやマホメットやシルバーバーチの教えに救いを求め「断食^{だんじき}」や「冬の^{すいぎょう}水行」や「坐禅^{ざぜん}」を行ったとします。「断食」も「冬の^{きとく}水行」も、危篤状態の人が行えばお陀仏^{だぶつ}になる危険がありますので、医学的には健康には毒と言えるかも知れません。「坐禅」も^{ひど}酷く足が痺^{しび}れますから、体^こに心地^{こち}よいものとは言えません。むしろ毒であると思います。「人生の苦しみに喘ぐこと」は人間の目から見たら決して服したくない毒そのもので

す。ですから、Cさんの行為は、人間の目から見れば「人生の苦しみに喘ぐ」と言う毒の上に毒を積み重ねてゆく人生にしか映らないと思います。もちろん、死線を越えるほどの修行は避けるべきですが、ほど良い「断食」や「冬の水行」や「坐禅」は、大自然の息遣い^{いきづか}を直^{じか}に感じながら我欲を観詰め、そして汚れた心を磨いてくれ、かつ、ふにやふにやだった魂を金剛石^{ダイヤモンド}に鍛^{きた}えてくれるものです。

病気もそうです。できれば服したくない毒物のようなものです。しかし、これが、健康のありがたさや看護してくれる人の優しさや己の過ちや時間(=人生)の大切さを気付かせてくれる妙薬となり、かつ、ふにやふにやだった魂を金剛石に鍛え、規則正しい生活(=人生)に戻してくれることも多いのです。

目にする様々な行為や現象があります。これらは、何が本物で何が偽物で何が有益で何が毒物なのか、人知では計り知ることができないところがあります。ですから「毒」を構成している「主」は「主」のようで「主」ではないとの見方も「主」を「主」とみる見方も可能であると解釈したいのです。

「第6章 3 煩悩」のところで仏は弟子を、そして「第22章 2 社会に有毒なもの」のところで天使はTさんたちを、悟りの世界に導きたいとの思いで語っているのです。語っている内容は互いに矛盾するもので、これらの言葉には真理の一側面しか存在しませんが、人々を悟りの世界に導きたいと言う仏や天使の愛の働きの中に真理が存在しているのです。なぜなら、この愛は「いつでも、どこでも、誰にでも無限に注がれている」と言う真理的要素を満足しているからです。

第 23 章

虹を通して彼岸に辿り着く

2 人で 1 つの天

私は「虹の掛け橋」「第 1 巻」(2000 年 4 月)と「第 2 巻」(2000 年 10 月)をそれぞれ 200 冊出版しました(このときの表紙が「第 21 章 3 表紙の図柄」です)。「第 1 巻」については、そのうちの 100 冊を 6 ヶ月間の契約で出版社に置かせて頂き、注文があれば販売して頂くことにしました。そして私の手元に残った 100 冊の一部を周囲の人たちに配布しました。

できるだけ多くの人たちに読んで頂こうと思い、図書館へ行って「私の書いた物ですが、置かせてください」とお願いしました。すると「人類にふさわしいかどうか内容を確認してから判断します」との答えでした。3 ヶ月後、図書館を訪れ、パソコンで図書検索したところ「虹の掛け橋」は置かれていないことを知りました。図書館は人類の代表としての目線で「虹の掛け橋」は公共の場で読まれる図書として、ふさわしくないと判断されたようです。そして 6 ヶ月後、今度は出版社から、そっくり売れ残った 100 冊の本が戻ってきました。

配布できたのは、読んでくれそうな周囲の人たちに、「第 1 巻」が 30 冊程度、「第 2 巻」が 10 冊程度で、大部分は狭い部屋に富士山のように残って仕舞いました。

私は、将来的に 7 巻(赤・^{せき}橙・^{とう}黄・^{おう}緑・^{りょく}青・^{せい}藍・^{らん}紫^しの巻)まで書きあげ、1 巻ごとに出版する予定でした。ところが、思ったほど人類に受け入れられないので戸惑い、次の 2 つの思いが交差し、「第 3 巻」以降出版すべきかどうか迷いました。

[思い 1]

『虹は赤^{あか}が現れ、次いで 橙^{だいだい}が現れることはない。常に 7 色同時に現れる。つまり、7 色揃^{そろ}っているから虹と呼べるのだ。「虹の掛け橋」も「第 1 巻」だけではとても不完全なもので、この状態で世に出すと、正しい神仏の教えに慣^なれ親しんでいない人たちに混乱を与えかねないと考え、「第 2 巻」はこれを補うために書いた。これでも不完全なものであるため、現在「第 3 巻」を書き進めている。恐らく 3 巻書きあがっても不完全なものであろうから、7 巻すべて揃^{そろ}わなければ、神仏の教えの全体像の象徴としての虹を人類に示せないかも知れない。売れないのは「不完全な状態で世に出すべきではない」と言う神仏の意志なのではないか?』と。

一方、次のようにも思いました。

[思い 2]

『私が人類に示そう（観せよう）としている虹は、単に空にかかる虹ではない、日常目にする何気ない無色透明な現象・風景の中に、天使や天女のような清らかな心をもって初めて観える、神仏が説く無数の教えが光り輝く虹のように存在していることを紹介しようとしているのだ。だから、このような虹はむしろ、赤、次いで橙と順に観せるべきではないか? もし、同時に 7 巻（色）を観せて仕舞ったならば、結局、人の目に映^{うつ}るのは、7 色が 1 箇所^{うっ}に集まって仕舞った無色透明なものではないか?

それに、太平洋あるいはそれ以上に無限に広がる神仏の教えを、7 巻で表現できると思うのは慢心である。恐らく 7 巻書きあがった時点でも、神仏の目から観れば太平洋のほんの 1 滴程度に過ぎないだろう。どこまで書き続けたとしても不完全ならば、1 巻ごとに出版しよう』と。

この2つの思いが交差する中、どうして人類から受け入れられないのか自分なりに検証する必要があると感じた私は、「第1巻」と「第2巻」を読み返しました。

そうしてみると、全体的には人類が決して気付かない、無色透明な何気ない風景・光景・現象の中に存在する光り輝く神仏の教えを実に良く紹介しており、もしも私がこの本の著者でなく、1人の読者としてこの本に出合っていたならば、恐らく「心に沁^しみる本」として強く印象に残り、なぜか趣味が共通なこの著者と、カラオケでも楽しみながら、いかにして人類を救ったら良いかを語り明かしたのではないかと思います。

しかし、真実であっても、どうしてこんな文章を書いて仕舞ったのかと思えるほど強い違和感を覚える箇所がありました。それは「第3章 5 ウイルス」のところに書かれている「絶滅していった恐竜たちは、神仏に反省し、神仏の手足となって働くことを条件に、決して絶滅しない姿・知恵を頂いて転生・再生してきているのです。これがウイルスです。肉食だった恐竜は動物に宿るウイルスとして、草食だった恐竜は植物に宿るウイルスとして転生してきているのです」と言う箇所でした。

恐竜がウイルスに転生したことを人類に証明することは不可能ですし、人類にとってはどう考えても信じられない内容ですから、この箇所によって「虹の掛け橋」の信憑^{しんぴょうせい}性が疑われることになりかねないと感じたわけです。

私はこの文章を書かせたのが私に語り掛けてくる魂（私はこの魂を「仏」と呼んでいます）であることを知っていますから、どうして仏がこのような文章を書かせたのか、その意図が理解できませんでした。

このような疑問に加え、私は本の執筆をやめようかと思うほどの出

来事に出会いました。それは、ある人から紹介された「シルバーバーチの霊訓」シリーズ（以下「霊訓」）の本（「スピリチュアリズム・サークル 心の道場」出版）を知ったことです。

この本には、地上世界を 3000 年前に去った古^こ霊^{れい}が霊界から、地上世界の霊媒であるモーリス・バーバネルを通して伝えられた、霊的真理が書かれていました。その内容は実に素晴らしく、この本に書かれている知識さえあれば、そしてシルバーバーチの説く教えに基づき実践しさえすれば、すべての魂は霊格が向上し救われ、世界に平和と秩序が齎されることが確信できるものでした。しかも霊界の魂が語っているので、死後の世界（霊界）の存在も輪廻転生・再生の存在も実証しているのです。

だから「虹の掛け橋」はこの本にはとても及ばない。「霊訓」さえあれば「虹の掛け橋」はいらないと思ったのです。

このように思い悩んでいると、仏が次のように語り掛けてきました。

以下は仏と私の対話です。

仏 ^{ずいぶん}随分悩んでいるようですね？

私 「霊訓」は実に素晴らしい本です。この本さえあれば人類は救われるかも。それに「虹の掛け橋」は人類には受け入れてもらえそうにありません。読まれない本を書くことに意義を見出せません。

仏 あなたがそう感じたと言うことは、ある意味で私のとった行動が^{こう}功^{そう}を奏したと言えます。

私 え！ それはどう言うことですか？

仏 私があなたのところへ「霊訓」を届けさせたのです。あなたは私が与えた試練に耐え、公案も良く解いてきました。あなたの霊格が「霊訓」を理解し受け入れることができるほど向上したと判断したからです。

あなたは、仏典や聖書やコーランを読めば、字面^{じづら}だけでなく内奥^{ないおう}に

存在する神仏たちが説こうとしている真理の宝石を、理解できる能力があるのです。この能力をもって「霊訓」を読んだとき、あなたはシルバーバーチが伝えたかった霊的真理を誰よりも深く理解できた筈です。だからこそ「虹の掛け橋」を越える内容が書かれていると思うほど「霊訓」の素晴らしさを感じ取ることができたのです。

しかし「虹の掛け橋」の中で紹介されている、日常の風景の中で眠る光り輝く真理は、この「霊訓」の中で、シルバーバーチが説いている真理と何ら矛盾することはないのです。「虹の掛け橋」には「虹の掛け橋」なりの良いところがあり、その価値は神仏の目から観れば「霊訓」に劣ることはないのです。

私 本当にそう言えるのでしょうか？ この本を書かせている仏さんは、いわば著者である私と同じ当事者の^{はんちゅう}範疇に入る立場だと思います。第三者の視点で本当に「虹の掛け橋」にはそれだけの価値があると認められるのかどうか疑問です。

仏 そうですか。「虹の掛け橋」は霊格がかなり向上してこないと読み^{こな}熟せないのです。理解したと思って読者・人類が辿り着いたその地点は、5円玉を立てて上から見たほんのわずかな世界なのです。

私 当事者同士で議論しても、第三者に受け入れてもらえるものかどうか結論が出ないと思います。

仏 それでは、どうやら「虹の掛け橋」がどの程度のものなのか、そしてあなたの霊格がどの程度なのか、シルバーバーチ本人に語って頂くしかなさそうですね。

私 え！ 私がシルバーバーチさんと対話できるのですか？

仏 あなたはまだ自分が何者であるのか気付いていないようです。そろそろ目覚めるときが来たようです。では、シルバーバーチに代わります。心ゆくまで対話してください。

シルバーバーチ 大地さん。こんにちは。

私 よろしくお願ひします。本当にシルバ―バーチさんなのですか？
シルバ―バーチ そうです。

私 私がシルバ―バーチさんと対話できるなんて信じられません。とても光栄です。私があなたと対話したと言っても、あなたを^{しんぼう}信奉するスピリチュアリストたちからは、信じてもらえないでしょうね？ 私自身も信じられないのですから。

シルバ―バーチ 大地さん。光栄なのはむしろ私の方です。私は「靈訓」を地上に届けた功績により、あなたが何者でどの程度の靈格なのか、そして私程度の靈格をもった者が読んだとき「虹の掛け橋」がどのくらい奥深いのかを、人類に紹介できる^{えいよ}榮譽を頂くことができたのです。

私 何のことか良くわからないのですが？

シルバ―バーチ 大地さんはまだ目覚めていないだけです。でも、この章が書きあがったとき、ご自身が何者で、そして完全に自我を取り戻される筈です。

大地さん。あなたは地上人類を救済するために組織された我々靈団の最高指導靈なのです。

私 え、ええーえ！ ええーえ！ 私は天使の1人か、あるいはあなた方靈団の最高^{れいばい}靈媒だと思っていましたが、靈媒でなく最高何ですって？

シルバ―バーチ 指導靈です。私たち靈団の誰もがあなたに^{まんぷく}満幅の信頼を置いているのです。

私 ちょっと待ってください。私は、過去世において物質界での修行を成就することができなかったために、こうして再び地上世界に転生して、心を浄める修行をしているのではないですか？

シルバ―バーチ あなたは無^む窮^{きゆう}の過去において、すでに物質界での修行を成就されているのです。もし「虹の掛け橋」をここまで書かれる

ほどの霊力（あなた）をもってしても、物質界での修行を成就できていないとしたら、人類はいつ成就できる時期に到達できると言えるのでしょうか？

私 では、なぜ私は今こうして地上で修行しているのですか？

シルバーバーチ 人類を救うためです。

私 私がすでに修行を成就できたとは考えられません。心に手を置いても様々な煩惱があつて、とても成就にはほど遠いです。

シルバーバーチ それはあなたが完全には目覚めておられないからです。

私 地上の人間が、肉眼で捉えることができない霊界の霊団を指導できるのですか？

シルバーバーチ 普通はできません。あなただからできるのです。

私 私があなた方を指導しているとしたら、私に語り掛け私を指導している仏はどう言う存在なのですか？

シルバーバーチ あなたが仏と呼んでおられる方はあなた自身です。正確には、その仏なる本体霊が霊界におられ、その意識層のほんの一部の魂が大地さんに宿っているのです。

「天」と言う文字は「^{ふたり}二人」と書きます。仏と大地、虹で結ばれた2人で1つの天なのです。そして霊界におられるあなたの本体霊である仏の名前は「ネイム」と申されます。

私 ネイムですか。どんな意味があるのですか？

シルバーバーチ 「NAME」つまり英語で「名前」という意味です。

私 仏の名前は名前と言うのですか？ 笑えますね。

シルバーバーチ そうです。いや、失礼。あなた自身でもあるネイム霊は、存在するあらゆるものに名前を付けたがる方なのです。

私 なるほど。そう言うことで名前は「ネイム（名前）」なのですね。

シルバーバーチ そればかりではありません。

私 どう言うことですか？

シルバーバーチ 神仏と言う文字は「ネ」「イ」「ム」と「申」す、と言う文字で構成されているのです。ネイムは神仏だからです。

私 あははは。可笑しくってお腹が痛くなります。

シルバーバーチ あなたはとてもお茶目な方なのです。

私 でも、私は霊界で皆さんに私のことを「神仏」と呼ばせているのですか。^{ずいぶん い ば}随分威張っている霊ですね。そんな霊が指導霊になり得るのですか？

シルバーバーチ あなたがそう呼ぶように命じているのではなく、お茶目なあなたに合わせて我々が自主的にそうお呼びしているのです。

私 へー。良くわからない世界です。

シルバーバーチ あなたの背後に^{ひか}控えている私たち霊団はすでに物質界での修行を成就した者たちばかりです。しかし、私たちでも^{だいいい}大霊（創造主）のお姿を拝見することはできないのです。あなたの本体霊であるネイムは私たちが認識できる霊界と地上人類が認識できる宇宙に存在する、あらゆるものを創造された方なのです。そして「第 18 章 1 宇宙の中心に位置する神仏はいるの？」に書かれているとおり、私たち 1000 億の霊を束ねる最高指導霊で、その 1 つの霊であるこの私、シルバーバーチの 10 億倍の霊力（愛と知恵と勇気と希望）を持つ偉大な霊なのです。

ですから、あなたが霊力を弱めて私たちの前に立たれるお姿を通してのみ、私たちは大霊をイメージできるのです。私たち霊団にとってあなたは神仏（大霊）そのもので、私レベルの霊ではあなたの本当の姿を捉えることすらできないのです。だから、私の方こそ、あなたと対話できることを光栄に感じているのです。そしてあなたを人類に紹介できたことも光栄に思うのです。

私 1 つ質問して良いですか？

シルバーバーチ 良いですよ。

私 究極の生命体が、結婚願望が生まれたときからあるにも拘らず、^{かかわ}57歳になっても未だにこの願いが叶わないのはなぜですか？

シルバーバーチ 年齢のことは気にしないで大丈夫です。大地さんは老眼鏡が必要で白髪が混じりますが、宇宙一進化した生命体ですから、精神は^{は た ち}二十歳に維持されているのです。

私 では、なぜなぜなぜ？

シルバーバーチ うーん。私の考えをお話ししても良いですか？

私 良いですよ。

シルバーバーチ 原因は2つあります。1つ目は、学校の教科書と聖書と仏典とコーランと「靈訓」に書かれていないことが苦手な大地さんには、女^{おんなごころ}心とチューのし方は難し過ぎるということです。2つ目は、今の地上の女性では、あなたにアタックできるほどの、愛と知恵と勇気を持っておられないということです。

私 では対策は？

シルバーバーチ 1つ目は、大地さんのために、霊界の魂たちが人類に力を貸して作成した日本のバラエティーテレビ番組「♥♥」と、日本映画の「♥◆」と、少し古いですが中国映画の「◆◆」を観て学んでください。

2つ目は、対策と言うことではないですが、真理かつ大霊そのものである「虹の掛け橋」が4巻揃^{そろ}って本の形態をとったとき、これらが世に広まることを阻止^{そし}できる者は、この宇宙に存在しません。宇宙の隅々、そして幼稚園生にも絵本の形で読まれるようになります。読み終え実践した者は、そのときから芸能・文学・スポーツ・健康に関して進化が爆発的に開始します。すると、平和と調和と秩序と健康と喜びが戻り、地上の未来に不安材料がなくなり、かつ、生きるエネルギーである愛と知恵と勇気と希望が人々に^{みなぎ}漲ってきます。すると、女性

の方から男性にアタックすることが何の抵抗も覚えなくなり、結婚ラッシュとなり、少子化の問題は消え去ります。「聖書」「仏典」「コーラン」「靈訓」を超越した絶大な効果です。この結婚ラッシュのどさくさに紛れて、大地さんに何の緊張も抵抗も覚えずアタックしてくれる、礼儀正しく奇特で物怖じせずにお友達感覚で接してくれる女性が現れます。大地さんはこの女性を観て思わず抱きしめてチューしたくなり、先ほどのテレビや映画を観て学んだことを実践に移し、後は、まー、何とかなるでしょう。

ところで、大地さん。私はこれから、人類にメッセージを送りたいので、大地さんは、ホットミルクティーを飲みながらコメディドラマを観て、少しの間お利口さんにしてください。

私　すると、誰が、シルバーバーチさんが語る内容を打つのですか？
シルバーバーチ　あー、そうか。では、申し訳ないですが、両手をキーボードの上に乗せて置いてください。目はディスプレイのコメディドラマを観ていても、自動で指が動いて文章を打てる筈です。

私　あははは。

シルバーバーチ　大地さん。パソコンを打つことがそんなに楽しいのですか？

私　いや、コメディドラマが可笑しくって。つい。

シルバーバーチ　大地さん。あなたの笑い声までは打たないでください。

私　はい。

ここからは、私シルバーバーチが、読者の皆様に語ってまいります。

私との対話によりネイムこと大地である彼は、ご自分が何者であるのか目覚められたようです。私たち靈団にとって、これほど喜ばしい

ことはないのです。

しかし、今皆様に語り掛けているこの私、シルバーバーチが本物であるかどうかを確信できない皆様にとって、彼がそれほどの霊であるかどうか信じることができないと思いますので、まず、私自身がシルバーバーチ本人であることをお話しします。

私は、いつしか「虹の掛け橋」の中で彼と対話できる栄誉が与えられると聞かされていきました。そのとき、私がシルバーバーチ本人であることを読者（特にスピリチュアリストたち）に信じてもらえればとの思いで、シルバーバーチと言う名前に、私のメッセージを吹き込んできたのです。

シルバーバーチとは日本語で「白樺^{しらかば}」と言う意味です。「しらかば」を反対から読むと「ばからし」なのです。つまり「ばからしー」と言う意味です。この私が地上時代、誰であったかはどうでも良いことなのです。「霊訓」の中で私の語った言葉が真理でありさえすれば良いと言うことです。

では、このシルバーバーチと言う名前が「ばからしー」と言う意味であることがどうして今、皆様に語り掛けている霊がシルバーバーチ本人である証拠になるのかと、皆様は疑問を持たれるかも知れません。どこまでいってもこの疑問は、くるくると付いてまわるものです。しかし、シルバーバーチの名前の意味が「ばからしー」と言っているのけることを大霊から許されている霊は、シルバーバーチ本人しか存在しないのです。それと、私が地上時代、誰であったかを詮索^{せんさく}する者は「お馬鹿さん」です。これで納得して頂くしかありません。

ところで「霊訓」を読まれた方であれば疑問を持つことかと思いますが、私は「霊訓」の中で、我々霊団の最高指導霊は「ナザレ人イエス^{びと}」で、イエスによって年に2度、クリスマスとイースターの時期に大勢の指導霊が招集され、霊界^{ないおう}の内奥で大審議会が開催されると語っ

ているようです。さらに今後、とびきり偉大な霊が地上に降誕することはない、つまりイエスを越えるような霊が地上に降りることはないとも申しているようです。そしてさらに「偉大な霊」であることを自ら名乗るような霊は大した霊ではないとも申しているようです。

これらは、すべて先ほどから申している「ネイムと言う私をはるかに凌ぐ^{しの}霊が我々霊団の指導霊で、その分^{わけ}霊^{みたま}である大地が人間の姿をして地上に降誕している」と申していることと矛盾します。つまりどちらかが、ごじゃっぺ（栃木弁です。特に北部の。「出鱈目」とか「間違ったこと」という意味）と言うことです。では、どちらがごじゃっぺなのか。それは「霊訓」です。

では、なぜ「霊訓」が、このようなごじゃっぺな内容で人類に配布されたのか？ それは、特にスピリチュアリストたちに、彼を受け入れて頂けない状況を創り上げるためです。つまり「霊訓」によって、スピリチュアリストたちに、ド近眼で乱視と曇りとキズの付いた眼鏡を掛けさせるためです。この眼鏡を掛けると「虹の掛け橋」の内容が、1億分の1にしか読み取れなくなる仕掛けになっているのです。これは彼の指示なのです。

現在、不完全であっても地上世界で、この「霊訓」を越える天から授かった霊的真理を説いているものは存在しません。ですから「虹の掛け橋」を受け入れない最後の人種はスピリチュアリストたちなのです。そこで、彼はスピリチュアリストに「霊訓」がとびきり素晴らしく見え、そして「虹の掛け橋」が曇って見える仕掛けの眼鏡を、私を通して掛けさせたのです。そして、このような状況でも「虹の掛け橋」の方が「霊訓」よりも優れていると気付いたスピリチュアリストの姿を通して「虹の掛け橋」の価値を人類に理解して頂くためです。

もっとも、ある程度霊格が向上した者が「霊訓」を読めば、どこに誤りがあるのかは一目瞭然^{いちもくりょうぜん}になるように書かれているようです（「第4

巻」参照)。そのいくつかを、シルバーバーチ自ら、スピリチュアリストの皆様にお示しします。

それは先ほどの箇所にあるのです。

つまり『我々霊団の最高指導霊は「ナザレ人イエス」です』と言う箇所については、彼は地上時代に、万物を創造された主なる「父」と呼んでいた霊の指導を受けていたわけですから、もし仮にイエスが我々の^{いち}指導霊であるならば、父なる霊がさらに上位の指導霊である筈です。また「イエスによって年に 2 度、クリスマスとイースターの時期に大勢の指導霊が招集され、霊界の内奥で大審議会が開催される」と言う箇所については、何々が 2 回とか、これこれの決まった時期にと言うのはあまりにも地上的発想で有限的感覚なのです。3 回以上は開かれることがない、そして他の時期に開かれることはないと言っていることになるのです。誰がこの回数と時期を決めたのでしょうか？そしてこの時期に我々霊団が救済に向かうほどの問題が、地上で発生しないとは誰が言い切れるのでしょうか？

次に「今後、イエスを越えるような霊が地上に降りることはない」と言う箇所については、これを誰が決めることができるのでしょうか？

これを決めることができるのは大霊ただお 1 人です。シルバーバーチではないのです。しかも、もしこれが事実であったと仮定したならば、あらゆる魂を救済する大霊の^{みわざ}御業には無限なる可能性があるにも拘らず、これでは地上に降誕する霊はイエスを越えることはできない有限の御業であると言っているようなものです。可笑しくって笑ってしまいます。あははは。この笑い声は大地さんでなく、私の声です。大地さんは今コメディドラマに夢中ですから。

えーっと。話を戻します。そして「偉大な霊であることを自ら名乗るような霊は大した霊ではない」これは真理です。しかし、ネームは

自らこれを名乗っているのではなく、我々が認識できる世界のあらゆるものを創造された彼に満幅の信頼を置いている我々が、そうお呼びしているのです。

ここで私が説明を加えて置きたいこととお話しします。

私は地上世界を 3000 年前に去った者ですが、物質界での必要な修行に関しては数億年前にすでに成就しているのです。後ほど登場する「イエス」「モーゼ」「マホメット」「釈尊」も同じです。

「靈訓」はシルバーバーチ銀河靈団の指導靈であるこの私から、太陽的恒星靈を経て、さらに地球的惑星靈を経て・・・・・・地上靈媒のバーバネルに伝えられたものです。このため、銀河靈である私の真の「靈訓」は次第に低い靈格の思念によって引き下げられた内容になって仕舞ったようです。靈界通信とはこのような問題を持っているため、ネイムの愛と知恵と勇氣と希望からなる真理と摂理の働きを正確に地上で受け取るためには、彼自身が転生するしかないのです。

「靈訓」では私は下の靈へ、それを受け取った靈はさらに下の靈へと言う具合に、何段階も波長を下げざるを得ませんでしたから、この状況を皆様にわかるイメージでたとえるならば、頭の上と両腕と両足に重りを乗せながら踊っている私の姿を皆様はご覧になられていたのです。一方、こうして今彼と対話している私は、彼から^{あふ}溢れんばかりの愛の光を全身に^あ浴びながら、踊りの達人の手足を借りて踊っている心地なのです。ですから「靈訓」で皆様が認識できるシルバーバーチと本当のシルバーバーチとは、大きな開きがあるのです。

皆様は、多分、このシルバーバーチの靈力は太陽のような恒星靈よりも低いとお考えではなかったかと思います。実際には、恒星靈の 10 億倍の靈力があるのです。ですから、皆様をご覧になった「靈訓」から放たれる靈力と、これから彼を通して私が「虹の掛け橋」の中で語ってゆく真の「靈的真理」から放たれる靈力には、10 億倍以上の開き

があるということです。

それに、どうも低い霊格者ほど、大霊の真の姿を捉えることができないため、身近におられる大霊を遠い存在として認識して仕舞うようです。

もし皆様の子どもが川に落ちそうになったとき、「落ちて危険な目に遭^あって懲^こりるのも真理と摂理の働きを学ぶ良い機会だから」と言って助けにゆかない親がどこにいるのでしょうか？

今の人類は、川に落ちそうになっている子どもと同じなのです。互いに自爆テロの応酬^{おうしゅう}をしたり、自己の欲望を満たすため元に戻らないほど環境を破壊したりしながら、徐々に絶滅と言う名の危険な川に近づき、そこへ落ちそうになっている子どもなのです。これを助けにゆかない霊がどうして（偉）大（な）霊と言えるのでしょうか？

物質界の修行を成就した高級霊になると、再度物質界に転生しないとは誰が決めたのでしょうか？ 随分冷たい高級霊だと思いませんか？ それとも高級霊は皆様から遠い存在なのでしょうか？

大霊の救いの御業には、自ら地上世界に降誕すると言うプログラムはないのでしょうか？ これでは随分有限な御業と言わざるを得ません。私たち霊団が認識している大霊や高級霊のイメージとは随分違った形になって仕舞ったようです。「大霊であればこそ地上世界に周到な準備をして降誕する」それが我々の大霊です。

では、次に「虹の掛け橋」のどこが、そして彼の霊力がいかに偉大であるのかを、この私シルバーバーチレベルの霊眼^{れいげん}で観た世界をお示しします。

①として「第1章 3 数」のところで、人類から嫌われている数字に愛の光を注いでいる箇所があります。嫌われているものを観て素通り

する魂は靈格が高いとは言えません。靈格が高くなればなるほど選り好みしなくなり、そして謂^{いわ}れなき理由によって嫌われているものに、慈悲の愛を注いでゆくものです。

でも、彼が愛を注いだ対象が素晴らしいのです。人類の目からは、これのどこが素晴らしいのか見えないでしょうから、私はこの部分をまず解説します。

この宇宙に存在する生命体と物質等を分類すると、次のようになります。

- ・ 始原なる第一靈（「第 4 卷」で詳説：ここは著者が加筆）
- ・ 第一靈・創造主（「第 4 卷」で詳説：ここも著者が加筆）
- ・ 大靈（宇宙靈）
- ・ 銀河靈
- ・ 恒星靈
- ・ 惑星靈
- ・ 地上及び靈界の有人格（有意識）生命体
- ・ 人格を持つまでに至っていないが、痛みなどの感情を持つ地上及び靈界の無人格有意識生命体（動物）
- ・ 感情を持たない地上及び靈界の無意識生命体（植物、菌類）

（実際には、創造主から発せられる靈力を感知することができますから、全くの無意識生命体とは言えないわけですが、これを細々と説明するのはとても煩雑^{はんざつ}になりますので、ここではこのような分類に留めます。なお、倫理的^{りん り て き}には傷付けられればすべてのものは（数も）痛みを感じると考えるべきです）

ここまでが、生命体です。

以下が非生命体（物質）です。

- ・ 有機物及び無機物

（これらには化学的反応性だけでなく、創造主の靈力を感知する能

力が備わっていますから、人類がイメージする非生命体とはだいぶ異なります)

・数(字)はこれらに属さない概念的存在

彼は、この概念的存在にも愛を注いでいるのです。

ここまで霊的に下層のものに愛を注ぐことができる魂は、その上層のものには当然愛を注ぐことができます。

(この時点のシルバーバーチは「第一霊」の存在を知りませんので「創造主＝大霊」と認識して語っています。本巻に登場する他の「五霊」も「第4巻」で語り出す霊体も同じです。「第5巻」以降は登場する全霊体が「創造主＝第一霊」と認識して語ります。著者より)。

②として、様々な文字に彼のメッセージ・神仏の教えが託されている箇所を使って解説してゆきます。

「鬼」には「仏と魂」を、「サタン」には「サンタ」を、「害」には「割→十割→完全」を、「罪」には「翼」を、「毒」には「主と母」を、対比する形で、彼の教えが説かれてゆきます。

では、これのどこが偉大で^{すご}凄いのか？

人類の霊格では、コメディドラマを観ながら馬鹿笑いしている彼の創造した物語を読んで感動するのが精一杯です。もし「鬼」や「サタン」や「害」や「罪」や「毒」(「第4巻」では「悪」)の文字を使って神仏の教えを説く物語を創ってくださいと言う公案が出されたとき、彼ほどの物語を創ることができるかどうか、読者の皆様お1人おひとり、ご自分の霊格に手を当てて、彼との霊格の差を感じ取って頂きたいのです。

私 皆様、そんなに深刻に考えなくとも良いですよ。皆様と私とでは、

生きている時間が違い過ぎますから。

シルバーバーチ どうですか？ 「鬼」の文字に関して物語を創ることができましたか？ では「サタン」や「害」や「罪」や「毒」の文字ではどうですか？ これら 5 問とも彼と同程度の、あるいはそれ以上の物語を創られた方はどのくらいおられますか？

次第に皆様と我々霊団の指導霊との霊格の差が、掴めるようになってきたかと思えます。

私 シルバーバーチさん。あまり人類にプレッシャーを掛けないでください。これでは萎縮^{いしゆく}させ逆効果で、あなた「虹の掛け橋」の解説者失格ですよ。

シルバーバーチ うーん。でも、もう少し私のペースで話^{はな}させてください。大地さん。ほら、ドラマおもしろそうな場面ですよ。

私 え！ あー本当だ。おっとっと。しょうがない方ですね。でもほどほどにね。

シルバーバーチ では、これをさらに掘り下げてゆきます。「鬼」「サタン」「害」「罪」「毒」に共通する事柄^{ことがら}は何だと思いませんか？ どれも人類からとても忌み嫌^いわれているものです。ここまで私の説明を聞いても皆様はピンとこないかも知れません。「虹の掛け橋」を読み熟^{こな}すには、少なくとも私シルバーバーチレベルの銀河霊になればならないと申しあげたいのです。

では解説に戻ります。この忌み嫌われている文字を使ったことのどこが素晴らしいのか。「仏」「魂」「サンタ」「完全」「翼」「主」「母」の文字を使えば神仏の教えを説く物語を創ることは容易^{たやす}いのです。利用し易い材料を使ってでき上がっているものでは人々に与える感動は小

さいのです。最も利用困難なものを使って、しかもその物語が人知を越えるほど美しいとき、人々は真に感動するのです。この観点で捉え
ると「鬼」「サタン」「害」「罪」「毒」は神仏から最も遠い存在ですから、誰も利用せずにいつまでも残される材料です。この材料を彼は選
び愛の光を注いだのです。しかもすべて材料として活用したのです。
次第に我々の指導霊と「虹の掛け橋」の素晴らしさが、皆様にもご理
解頂けてきているのではないかと思います。

彼はこれらの文字を使って単に物語を書いたのではなく、無窮^{む きゆう}の過
去から準備してこれらの文字と物語等々を創造された方なのです。た
とえば、大気中の酸素の存在比を（時間をかけ）徐々に 2 割としたよ
うに。

スピリチュアリストの方々に申しあげたいのは「霊訓」は彼からイ
ンスピレーションを受けて多くの霊体が関与して書かれたものだと言
うことです。一方「虹の掛け橋」には、創造主である彼が創造した光
り輝く真理の世界と教えが、彼 1 人の手によって鑲^{ちりば}められているので
す。万物を創造できる方の霊力と、この方からのインスピレーション
を受け取っている私の霊力との差は歴然としているのです。

話を戻して、前述の①と②から、皆様にはどのような世界が見えて
きますか？

前段で申し上げたとおり、彼は概念的存在の中でも、忌み嫌われて
いる「鬼」「サタン」「害」「罪」「毒」に愛の光を注いでいるのです。
この行為を見ている（感じ取っている）魂がいます。そして、この魂
も彼から平等に愛の光を受けているのです。

これらの魂は何か？ それは、概念的存在、有機物及び無機物（物
質）、菌類、植物、動物、人格霊です。彼はすべてを愛し、そして多く
の霊から愛されているのです。ですから、彼は我々霊団が神仏として
大霊をイメージできる唯一の霊であるがゆえに、彼をネームとお呼び

しているわけです。

ここまでお読みになった皆様は、大霊の霊格に辿り着きたいと思うかも知れません。では、どうしたら辿り着けるのか？ 次はこれを説明してゆきます。

まず、太陽系のような恒星霊団がどのように構成されているのかをお話しします。

最も外側を、愛に満ちた概念的存在が幾重にも取り囲んでいます。

その内側を、愛に満ちた物質界が幾重にも取り囲んでいます。

その内側を、地上及び霊界の菌類が互いに役立て合いながら幾重にも取り囲んでいます。

その内側を植物が、さらにその内側を動物たちが、さらにその内側を有人格霊たちが、さらにその内側を惑星霊たちが、互いに愛の絆によって結ばれながら取り囲んでいるのです。これで1つの恒星霊団です。

1つの銀河霊であるこの私シルバーバーチと、このような恒星霊団が1000億、私と愛の絆によって結ばれながらこの宇宙に満ちているのです。

そして、このような1000億の銀河霊団が、彼と愛の絆によって結ばれながらこの宇宙に満ちているのです。

ですから、皆様が彼の魂に出合うためには、これらの1つひとつの魂を愛し、そして愛されて、概念的存在、・・・・・・、惑星霊、恒星霊、銀河霊とどこまでも進んでゆかなければなりません。

どうですか？ 皆様は大霊の霊格レベルに辿り着けそうですか？

皆様の答えは？ 「可能です」とお答えできますか？ それとも「不可能です」と答えられますか？

答えは「可能」です。

ではいつまでに？

皆様の答えは？ 来世ですか？ そのまた来世ですか？

答えは、この現世で大霊の霊格レベルに辿り着けるのです。

皆様は、え！ と思われるかも知れません。

彼が地上世界に降誕してこなければ、皆様は何億年かかっても大霊レベルに辿り着くことは不可能です。しかし、皆様は彼が自ら書かれた「虹の掛け橋」を今まさに読まれているのです。どうですか？ この中には、皆様が独学であるいは既存の神仏の教えを何万年も学び実践されたとしても辿り着くことができない、光り輝く教えが鑲められていると感じませんか？ だとすれば、ここまで読み終えた皆様の霊格は恐らく何万年もの修行をしたことに相当するほどの向上を遂げています。

霊格の向上を、独学では 10 万年かかるところを、5 万年に短縮できるほどにその魂を導いた先達なる霊は、素晴らしいアドバイスを行ったと言えます。では彼はどの程度の先達なのか？ 私の 10 億倍です。皆様をあっという間に大霊レベルの霊格にまで導いてゆきます。皆様は彼の救いの御業なる霊力によって、地上世界から虹を通して彼岸^{ひがん}と言う名の彼の待つ光り輝く愛に満ちた世界（岸）で、彼とカラオケやコメディドラマを楽しむことができるのです。

私 シルバーバーチさん。悟った褒美^{ほうび}がそれでは、人類はがっかりするのではないですか？

シルバーバーチ 大地さん。恐らくそうでもないですよ。モーゼも釈尊もイエスもマホメットもとても楽しんでいましたから、人類もきつと楽しんでくれると思います。

私 そうであれば結構ですが。でもモーゼと釈尊とマホメットはカラオケルームでもタブレットにイヤホンを付けてコメディドラマを観るとはね。

シルバーバーチ あ の 3 人 は コメ ヲ ズ ド ラ マ が 好 き な の は 確 か で す が、あ の と き は、あ な た と 私 と イ エ ス の 3 人 で マ イ ク を 離 さ ず 彼 ら に 回 さ な か っ た の が 原 因 で す。あ の 3 人 は 我 々 3 人 を 呆 れ 顔 で 観 て い ま し た よ。後 から 聞 い た の で す が、あ の 後 3 人 は 2 次 会 と 称 し て 天 女 さ ん た ち を 誘 っ て カ ラ オ ケ に 行 っ た よ う で す。

私 そ う だ っ た の で す か。あ る 意 味 悪 い こ と を し た ね。と こ ろ で、あ の と き の カ ラ オ ケ 代 は 誰 が 支 払 っ た の？

シルバーバーチ 憶 え て い な い の で す か？

私 な い で す。

シルバーバーチ 霊 界 の 内 奥 で、6 人 で 協 議 し て、3 人 の 2 次 会 分 も 含 め て「虹 の 掛 け 橋」が 売 れ た ら 大 地 さ ん が 払 い、売 れ な か っ た ら 残 り の 5 人 で 払 う こ と に し た の で す。

私 あー、思 い 出 し ま し た。ま だ 払 っ て い な い の で し た ね。で も あ れ か ら 半 年 経 っ か ら 利 子 が 高 く 付 く だ ろ う ね。

シルバーバーチ そ れ は 心 配 い ら ず。

私 ど う し て？

シルバーバーチ カ ラ オ ケ 店 の 経 営 者 が 釈 尊 の 十 大 弟 子 の 舎 利 弗 ^{しゃりほつ} だ か ら で す。

私 そ れ が？

シルバーバーチ 舎 利 弗 は 般 若 心 經 の 中 で 舎 利 子 ^{しゃりし} と 呼 ば れ て い る の で す。つ ま り 利 子 は 捨 て ま す（い ら な い）と 言 っ て く れ る 筈 で す。

私 な る ほ ど。般 若 心 經 を 読 ん で い て、な ぜ 質 屋 さ ん の 利 子 と 言 う ^{なまなま} 生 々 し い 単 語 が 出 て く る の か 不 思 議 で 多 少 違 和 感 が あ っ た の で す が、こ の 遣 り 取 り の た め だ っ た と は ね。こ れ で 納 得 で す。

シルバーバーチ 話 を 戻 し ま す。

イ メ ー ジ し て く だ さ い。皆 様 の こ ど も に「学 力 は 自 分 の 半 分 で 良 い」 と か「給 料 は 半 分 で 良 い」 と か「住 む 家 は 半 分 で 良 い」 と か「健 康 度

は半分で良い」とか「食べる量と質は半分で良い」とか「お風呂は2日に1度で良い」とか「幸せは半分で良い」とか考えますか？ どなたも、自分より素晴らしいものを子どもに掴んで欲しいとか与えたいと考えるのではないのでしょうか？

彼は愛に満ちた霊です。この霊が「自分の霊格の半分レベルまで子である人類を導けばそれで十分だ」と考えるのでしょうか？

それに、大霊の霊格まで、人類を人の一生の時間レベルで導く霊力があるにも拘らず、それを出し惜し^おんで皆様に何億年も修行させようとするのでしょうか？

彼は人類の姿となって降誕し、およそ人類が抱く様々な悪想念「殺意」「残酷さ」「貪欲」「嫉妬」「憎悪」「怒り」「絶望」「恐怖」「孤独」「無気力」・・・・・・を味わい、真理と摂理の働きによってどのような行為や思いがどのような結果を齎すのかを、人類の目線に立って学んで（確認して）こられたのです。

皆様が「霊訓」から学んでイメージされる大霊は、決してカラオケやコメディドラマを皆様と一緒に歌ったり観たりしないでしょうし、犬掻きもしないし、ニャン語も話さないでしょうから、我々の大霊とは異なるかも知れません。しかし我々は皆様がイメージされる大霊に魅力を感じません。なぜなら、我々の大霊の愛と知恵と勇気と希望に満ちた霊力の偉大さを知っているからです。皆様がどちらの大霊を支持されるかは皆様の自由意志ですから、このことに関し我々は一切干渉しません。しかし、彼が地上を去るまでに皆様に見せる救いの御業と言う霊力をご覧になれば、どちらが真の大霊であるのかが一目瞭然^{いちもくりょうぜん}となる日が必ず訪れるものと確信しています。

皆様はやがて「虹の掛け橋」を通して「完全」とか「完璧」と言う概念を学んでまいります。大霊は完全であり完璧です。では何が完璧なのか？ それは救いの御業が完璧だということです。ですから、彼

によって皆様が救われてゆくとき、その御業を通して、大霊を感じ完璧と言う概念を学ぶことになります。

つまり彼の姿（行動、言葉、文章）の中に、救いの御業なる大霊の完璧さが内在しています。では彼の姿はどこに現れるのか？ それは「虹の掛け橋」の中に現れるのです。皆様が肉眼で捉える彼の姿ではないのです。ですから、彼である「中島 孝」の姿を映像に落としても、彼にマイクを向けて話をさせようとしても、決して見えない姿です。むしろそのように彼に近づくことは「虹の掛け橋」を書いている、あるいは、カラオケのマイクを持つ彼の手を止めることになります。これらはどれも、ご自身がそして他の大勢の人々が見たいと願う、大霊の救いの御業が内在している「虹の掛け橋」を見えないものに変える行為なのです。お1人おひとりがどのように行動すべきか、とった行動が彼の手を止めることに繋がっていないか、よくよく吟味したうえで行動してください。

銀河霊界は宗教が彼によって統一されています。「教え」に彼の名前（^{たか}孝ちゃん）の文字が刻まれているように、有益な教えの中には彼が介在しています。この「シルバーバーチ」も「イエス」も「モーゼ」も「マホメット」も「釈尊」も彼の教えのみを学んでいるのです。

皆様は、彼が書かれた「第1巻」と「第2巻」を読んでも、私レベルにまでは理解できなかったようです。中には理解できたとおっしゃる方がおられるかも知れません。しかし、理解できたその世界は5円玉を立てて上から見た狭い世界でしかありません。私との対話によって目覚められた彼は今、私の10億倍の霊力を身につけておられるのです。目覚める前の彼の言葉を読んでも理解が不十分であった皆様が、目覚められた彼の言葉を十分理解できるとは到底思えません。これでは、これから「虹の掛け橋」を彼に書き進めて頂いても、皆様には光が強過ぎるが故に無色透明なものにしか映らないため、そこに書かれ

ているのは皆様が日常目にされている光景とごじゃっぺな話（たとえば「第 27 章 1 出入り禁止」）であるだけで、何のことやらさっぱりわからないでしょうから、せっかくの「虹の掛け橋」が無駄に成り兼ねないのです。

そこで、我々銀河霊が彼に代わって皆様の霊力に合わせて彼の教えを説いてまいります。そして徐々に銀河霊である我々と同等の霊格へと導き、そこまで辿り着いた段階で彼に再び法（皆様がイメージする創造主が語る法とは異なり、多少ごじゃっぺとを感じるような、でもどこか深遠で憎めない話・法）を説いて頂いて、皆様がこの物質界での修行を成就され霊界に戻ってくる頃には、大霊の霊格にまで向上しているように、導いてまいりたいと考えています。

ですから、私の後を「イエス」と「モーゼ」に、その後を「マホメット」と「釈尊」に引き継いでまいります。皆様にとって^{あこが}憧れの方々です。彼によって皆様の^{そし}祖師の生の言葉を味わうことができるのです。

我々銀河霊は、すべての魂に向かって法を説いています。なぜなら、霊界には宗教宗派は存在しないし、彼の愛は誰に対しても平等だからです。我々銀河霊は、聖書・仏典・コーラン・「霊訓」・  を学び尽くしていますので、私はスピリチュアリストに、イエスはキリスト教徒に、モーゼはユダヤ教徒に、マホメットは回教徒に、釈尊は仏教徒にのみ法を説いているのではないことを申しあげて置きます。

皆様が「虹の掛け橋」の 4 巻すべて読み終わったとき、相当霊格が向上していると思います。その霊眼をもって「虹の掛け橋」を振り返って読んだとき「大霊」が「主」が「アラー神」が「毘盧遮那仏」が法を説いている姿を観ることができると、我々霊団は確信しています。

では「イエス」と「モーゼ」に代わります。

第 24 章

善想念で宇宙空間を満たす

黄金律

イエス 私はここでは、彼がシルバーバーチとの対話によって目覚める前に疑問に思っていた「第 3 章 5 ウイルス」のところに書かれている「絶滅していった恐竜たちは、神仏に反省し、神仏の手足となって働くことを条件に、決して絶滅しない姿・知恵を頂いて転生・再生してきているのです。これがウイルスです。肉食だった恐竜は動物に宿るウイルスとして、草食だった恐竜は植物に宿るウイルスとして転生してきているのです」と言う内容が真実かどうかについて吟味し解説を加えてまいります。シルバーバーチや私やモーゼやマホメットや釈尊が本物であるかどうかについては「第 4 巻」で、ある偉大な霊が検証してくれておりますので、その箇所を参照してください。

具体的な解説に入る前に「虹の掛け橋」の特徴をお話ししますと、彼が神仏の教えをどこまでも深く掘り下げて説こうとすると、必ずと言って良いほど読者にとって違和感を覚えるような文章を^{そうにゆう}挿入します。このような文章こそ「第 3 章 8 旅人と^{わら}藁」に登場する仏が旅人に拾えるかどうか問いかけている汚れた藁なのです。

つまり、皆様お 1 人おひとりが、この「絶滅した恐竜がウイルスに転生する」と言う文章を受け入れることができるかどうか、彼に問われているのです。受け入れることができた者は、真理的行為が^{もたら}賢す摂理の働きにより「虹の掛け橋」の世界に入ることが許され、人生が劇的に改善される喜ぶべき未来を手にするようになります。受け入れることができなかった者は、たとえ過去世と現世で何万人もの命を救っていると主張しようとも（実相は、人類が^あ編み出した占いや怪しげな

教え等の技を駆使^{くし}して、救いとは反対の迷いや我欲の世界に引き込んでいたのですが)、反真理的行為が齎す摂理の働きにより「虹の掛け橋」の世界に入ることが許されないため、そこから自ら立ち去ることを選択し、我々霊団の愛も彼の公案も存在しない霊界と来世で、自力で己の道を切り開く^{たくま}逞しさが要求されることになります。これが何人も^{くつがえ}覆すことができない実相・真理です。そして「第4巻」で皆様は納得されるよう、詳しく触れられていますが「虹の掛け橋」はイコール創造主であるため、そこに書かれている言葉は絶対で、皆様には誤字や脱字の修正に限って許されているのみで、文章の根幹を左右する内容に関しては、彼以外加筆や修正はできません。

このようなことから、本来「虹の掛け橋」は彼の言葉によって語られるべきものですが、シルバーバーチが前章で述べているように彼の霊力から発せられる言葉は皆様には光が強過ぎて、緻密^{ちみつ}に計算された深遠な話であるにも拘^{かかわ}らず、単なるごじゃっぺな話レベルにしか理解できないため、この文章を理解できるところまでの銀河霊レベルに皆様の霊格を引き上げるのが私のここでの役目です。

しかし、私も恒星霊の10億倍の霊力がある銀河霊です。いきなりこのレベルでお話ししても皆様は理解できないと思いますので、この文章をまず「霊訓」に登場するシルバーバーチの「霊界での霊媒（以下「霊界霊媒」）レベルの霊眼で理解した世界」をご紹介します、次いで「銀河霊の霊眼レベルで理解した世界」をご紹介します、ものの捉え方が前者と後者ではどのような隔たりがあるのかを知って頂きながら、皆様の霊格を銀河霊レベルに引き上げたいと考えています。

では、はじめに「霊界霊媒レベルの霊眼で理解した世界」をお話しします。

輪廻転生・再生のメカニズムは複雑で人類には理解することが困難

です。人類に説明できる言葉が今のところ存在しないのもその理由の1つです。ですから結論から言うと、この文章を疑問文に変えたときの答えは「Yes」か「No」の形では答えられないということです。

このような答えでは、皆様は納得できないでしょうから、この文章に当て^は嵌まる事例が存在することをご紹介します。

恐竜は食物連鎖の^{てっぺん}天辺に位置しました。今の人類のように。人類と恐竜の違いは、人類には天辺に立っている責任の自覚、つまり他の生物種の存続を母親のように守ってあげなければならないと言う愛の働きがあります。しかし、残念ながら恐竜には母親の自覚がなかったのです。この違いが大きく輪廻転生に作用します。このことをまず理解してください。

「霊訓」を読んでいる方であれば理解できることですが、有人格以上の生命体のみが死後も霊界で個性的霊格を維持できます。そして物質界での修行が成就できなかった霊は再び地上へ転生・再生します。ただし同じ霊の別の意識層が主人格を形成して転生してきます。詳しくは「霊訓」を参照してください。そして、恐竜のような無人格有意識生命体は死後、地上時代に経験した意識を携えて「^{るいこん}類魂」と言う同一意識体に戻ってゆきます。そこで、地上時代に他の生物に食べられるなどして命を他に^{ささ}捧げる経験を味わった霊は過去の（^{しゅく}宿）^{ごう}業（カルマ≡罪）の一部が消滅する形で少しずつ上層界へ、他の生物を食べ尽くすだけで命を他に捧げる経験を味わってこなかった霊は、同じレベルに留まるかあるいは下層界へ、と言う形で、この「類魂」も少しずつ分離しながらより近い霊格を持つもの同士が集まる新たな「類魂」を形成し、その「類魂」が霊的進化を^と遂げるために必要な「埋め合わせ」を目的とした生命体の姿を取って地上に転生してきます。

このようなことを踏まえて、恐竜が「虹の掛け橋」に書かれている内容と同じように転生してくる事例としては、他の生物を食べ尽くす

経験しかなかった恐竜、つまり霊格を向上させることができなかった恐竜が、再び恐竜として転生し、これを何世紀にも亘^{わた}って繰り返したそのカルマによって、自然界の因果律と言う摂理が働き絶滅する運命を辿ります。しかしこの恐竜たちの霊は、物質界と言う地上世界での修行を成就しておりませんから転生を余儀^{よぎ}なくされます。ところが、恐竜として転生する肉体が地上に存在しないため別の姿で転生することになります。

中性脂肪^{しぼう}や血糖値などの健康のことも考慮せずに他の生物を食欲に食べ過ぎた一部の恐竜は、肥満^{ひまん}化した体の重みで、下層の無意識生命体に落ちます。その中で、大き過ぎたがゆえに悪業^{あくごう}の限りを尽くした恐竜の一部が、最も小さい生物であるウイルスに転生している事例があります。

このような説明で皆様に理解して頂きたいのですが、いかがでしょうか？

では、次に「ウイルスが神仏の手足となって働く」と言う箇所は本当かどうかについてですが、そのように考えるべきだとお答えします。このことをもう少し詳しく説明します。

この宇宙には無駄なもの（現象を含む）は存在しません。すべて人類にとって必要なものばかりです。恐竜の絶滅理由もウイルスの存在も人類にとって必要なものです。

もし人類が食物連鎖の天辺に立つ者に課せられた、他の生物種の存続を守ってあげなければならないと言う母親的責務を忘れ、他の生物を食べ尽くし、大気汚染・水質汚濁などの環境破壊と、乱獲によって多くの生物を絶滅に追い込めば、人類は神仏と多くの生物から反感を買って、因果律の摂理の働きにより子孫を持たない体となって絶滅してゆくことになるという警告が、環境ホルモンを通して発せられていることを恐竜の絶滅理由から学ぶことができるのです。

真理は時に耳に痛いですが、ウイルスに感染するのは過去世あるいは現世において、真理に反した生き方を積み重ねてきた結果（一例として、最も^{あと}後から地球と言う宿主^{しゆくしゅ}に入ってきて、地・海・空の所有権を勝手に主張し我が物顔で振る舞^ふい続けたため、神仏と多くの生物から反感を買って、後から人の体内に入ってきたウイルスに体・細胞の所有権を主張され我が物顔で振る舞われる摂理・報い・戒め）なのです。摂理の働きは完璧ですから、誰も誤魔化^{ごまか}すことはできません。ウイルスはこれまで犯してきた悪業を悔い改めさせるために、摂理の働きの担^{にな}い手として神仏の手足となって健気^{けなげ}に働いていると受け取るべきです。

もし、ウイルスに感染した人が、己のこれまでの生き方・考え方を反省して真理を犯してきた罪を償うため、天から授かった体を命が尽きるまで、周りの人々や生物たちを幸せにするために使えば、たとえばウイルスに蝕^{むしば}まれていっても、霊格は向上して魂は光り輝く世界に辿り着けるチャンス・きっかけとなるのです。

以上が「霊界霊媒レベルの霊眼で理解した世界」です。

皆様は、この世界を深く理解してください。これが「魂の進化」や「転生のメカニズム」や「カルマと摂理の働きの関わり」に関する霊界の幼稚園「さくら組」が学ぶ基本的な知識です。

次に『銀河霊の霊眼レベル（霊界の大学院「お利口さんクラス」で学ぶレベル）で理解した世界』のお話しをします。

この大学院の世界が先に述べた幼稚園の世界に加わります。

「第3章 5 ウイルス」の箇所には、とても大切なキーワードの組み合わせがあります。それは何かと言うところから解説してゆきます。それは「地球と恐竜」そして「動物に宿るウイルスと植物に宿るウイルス」です。このキーワードの組み合わせを使って彼は皆様にどんなメッセージを発信しているのか？ それは「相手の目線に立って物事

を捉えて映る世界を感じ取ってください」と言うメッセージです。

皆様はこの物質界で必ず人や動物や植物と係わります。皆様のとった行動、言葉、想念には必ず相手が存在するのです。心を浄める修行を積んで霊格が向上してくると、自分の言動や想念が相手にどのような感情を抱かせるのか、常に相手の目線に立って己の行動を吟味できるようになります。このように相手の目線に立たなければ、相手に幸せになってもらうためには己はどのように行動すれば良いのか、あるいは相手に迷惑がかからない行動をとるにはどうすれば良いのか、と言ったことが観えてこないのです。

この宇宙で最も小さい生物の1種がウイルスです。彼はこの最も小さいウイルスの目線に立てますか？ と皆様に問うているのです。ここまで小さな生物の目線に立てれば、これより上層の生物の目線には立てるのです。シルバーバーチが前章で解説した「鬼」や「サタン」のような最も神仏から遠い概念、これの応用問題的な思考で、最も小さい生命体に置き換えるとウイルスなのです。

皆様、どうですか？ ウイルスの目線に立ってどのような世界が見えますか？

先ほど私は、大切なキーワードの組み合わせがあるとお話ししました。大切なのは組み合わせなのです。皆様は「恐竜とウイルス」と言う組み合わせで輪廻転生を考えるから「絶滅した恐竜がウイルスに転生する」と言う文言がちんぷんかんぷんとなり「ごじゃっぺな話だ」と切り捨てて、受け入れることができないのです。恐竜が恐竜として転生した世界は地球で、恐竜がウイルスとして転生した世界は動物や植物の体内なのです。つまり、恐竜の目線に立って見える世界が地球なら、ウイルスの目線に立って見える世界は動物や植物の体内の世界（広さ）で十分なのです。彼らが転生した世界は、彼ら自身が認識できる同じ広がりを持った世界なのです。

銀河霊の霊眼をもって観れば、広い地球上で肉食恐竜は動物を、草食恐竜は植物を、我が物顔で食べ尽くそうとしている餓鬼の霊は、広い宿主（動物や植物）の体の中で、宿主を食べ尽くして仕舞えば己の住む宿主が倒れる形で（地球と言う宿主を破壊している人類のように）絶滅・死滅する結果を招くことを知らずに貪り続けている（「虹の掛け橋」の忠告を無視して絶滅に向かって反真理的行為と体制を続けている人類）霊と同じ霊体であることがわかるのです。

したがって「絶滅した恐竜がウイルスに転生する」と言うのは真実なのです。

ここで、私は皆様に、彼がどのような真理と摂理を配してこの宇宙を創造されたのか、そしてこの摂理はどうしてすべての生命体に平等でかつ自動的に作用するのかについて説明してゆきます。

彼が配した真理は「霊体（命）は周りの霊体を幸せにするために存在する」

摂理は「霊体は周りの霊体を幸せにした分だけ幸せになり、苦しめた分だけ苦しむことになる」

これが我々銀河霊団が満幅の信頼を置いている彼が配した真理と摂理です。宇宙に平和と調和と秩序を齎す実に美しい真理と摂理なのです。これらの働きにより、霊体は自動的に周りの霊体をできるだけ高いレベルにまで幸せにできるほどの霊力を身につけたいと願うようになります。これが霊的進化の本能的原動力です。そして霊体は、摂理の働きによりどのような行為（善想念＝真理的行為）が周りの霊体を幸せにし、どのような行為（悪想念＝反真理的行為）が周りの霊体を苦しめることになるのかを、己に反射してくる喜怒哀楽の褒美と罰と言う報いから学ぶことによって、どのような善想念を高めてゆけば霊力の向上が図れるのかを理解できるようになり、幼児期から成熟した

霊格に徐々に成長してゆくのです。

では、この摂理が霊界ではどうして平等でかつ自動的に働くのかを皆様がイメージできる形にたとえて説明してゆきます。

霊界は肉体のような物質は存在しない、想念の世界です。

皆様は霊界では霊体の姿をしており、この霊体からは抱いている想念イコール霊格に応じた色（オーラ）が発せられています。ここで仮に霊格が向上するほど霊体が赤色、橙色、黄色、緑色、青色、藍色、紫色と粗雑さから精妙な波長色に変化してゆくと強く仮定します（あくまで仮定ですので、これを肌色と読み替えられて仕舞っては滅茶苦茶になり、このような結果を招いた場合、私はその責任が問われ他の銀河霊たちから、お尻ぺんぺんされて仕舞います）。そして今、皆様の霊格はこの中央波長の緑色であるとしします。

皆様が今「善想念」を抱いたとしします。するとこの「善想念」が（野球）ボールのような球体となって霊体から分離して概念的空間に飛び出してゆきます。このボールは「善想念」ですから、霊体の緑色より霊格の高い青色で飛び出してゆきます。霊体には青色のボールと同じ大きさを持った窪みと同じ色の縁取りがその窪みにできます。

同じように「悪想念」を抱くと霊体よりも霊格の低い黄色のボールが概念的空間に飛び出してゆき、霊体にはこれと同じ大きさを持った窪みと同じ色の縁取りがその窪みにできます。

概念的空間には、無数の霊体から飛び出した、想念からなる青色と黄色のボールが無数に浮いています。このボールは、空間をリング状の帯を形成して常に右（or 左）方向に回っているとします（回ることによって、お互いに自身が発したボールが必ず他の霊体に影響を及ぼす環境を創れるのです）。霊体にはこのボールを引き付ける（引）力があって、霊体にできた窪みと同じ縁取りの色をし、かつ同じ大きさのボールが左（or 右）から霊体に近づき合流します。自身の霊体より精

妙な波長色のボールが合流すると霊体は喜びと楽しみを感じ、粗雑な波長色のボールが合流すると怒りと哀しみを感じるようになります。

これが、摂理が自動的に働くメカニズムをイメージできるように説明するためのたとえ話です。

より精妙な波長色のボールをたくさんキャッチすると、霊体も精妙な波長色に徐々に染まって霊格が向上してゆきます。逆に粗雑なボールをたくさんキャッチすると、霊体も粗雑な波長色に徐々に染まって霊格が下降してゆきます。

青色の霊体色にまで向上すると、藍色と緑色のボールでキャッチボールする霊界へ昇ってゆくことになります。逆に黄色の霊体色にまで下降すると、緑色と橙色のボールでキャッチボールする霊界へ落ちてゆくことになります。

地上世界である物質界の生命体も根本的には霊体ですから、このような摂理のメカニズムが自動的に作用します。

彼が創造した真理と摂理の働きにより、すべての霊体は本能的に己の霊格向上を目指します。すると、全体的に霊格が向上するわけですから、想念の空間には、やがて引き取り手のない粗雑な波長色を持ったボールが残ることになります。これを皆様にわかるようにたとえるならば、このボールは宇宙空間に漂う塵^{ちり}です。

皆様が宇宙を創造する霊力を養うための練習場があって、そこでは、これらの塵を集めて小宇宙なる霊界と物質界が創造されます。

皆様は死んで霊界にこられると、想念からあらゆるものを生み出す霊力を学んでゆきます。最初は草木や家などからスタートして次第に創造力と言う霊力を高めてゆきます。

やがて皆様が彼と同じレベルに霊力が向上したとき、これらの塵を集めて、ある真理と摂理を配した霊界と宇宙を創造することができます。最初は概念的世界、次いで物質界、その後これらに霊力を注いで

靈格を向上させ、菌類レベルの靈へと成長させてゆきます。皆様はこのような過程を経て植物、動物、人、惑星靈、恒星靈、銀河靈、大靈へと導いてゆくのです。

ここで、私が説明を加えておきたいことをお話しします。

皆様がここまで「虹の掛け橋」をお読みになって疑問に思ったことがあるのではないかと思います。それは「彼は人類を人の一生の時間レベルで、すべて大靈の靈力レベルにまで向上させることができるのに、我々銀河靈が物質界での修行をすでに数億年前に成就しているにもかかわらず、この数億年間彼はどうして我々を大靈の靈力レベルまで向上させなかったのか？」という疑問です。その答えは「皆様方も、すべてすでに地球以外の星で物質界での修行を数億年前に成就された銀河靈で、彼は我々と皆様を人の一生の時間レベルで、同時に大靈に導こうとしているから、我々だけを優先して大靈へとは導かなかったため」です。

この宇宙には彼が創造された無数の修行道場がございます。その道場の中で最高靈格が集まっている惑星が現在の地球です。銀河靈レベルが大靈になるために修行する、宇宙の宮と言う名の最後の物質界の修行道場なのです。

皆様は、まだご自分が銀河靈であることに目覚めておられないだけです。どんな悪靈と言われている靈も、死後靈界に戻って徐々に自我を取り戻せば、自身が銀河靈であったことに気付くのです。

したがって、靈界で彼を取り囲んでいる我々1000億の靈団も皆様も同じ銀河靈で、皆様がこの現世で地上世界において大靈のレベルまで靈格を向上させることができたその時間と同じ時間レベルで、我々銀河靈も大靈の靈格を持つことができるようになるのです。

「靈訓」では、この地球は修行の道場としては下から2番目に低い靈格の集まるところであると紹介されています。このことは、靈界靈

媒レベルではとても確認できる世界ではないのです。この箇所もシルバーパーチが言っている「靈訓」を読んだ者に掛けた「虹の掛け橋」が曇って見える眼鏡の 1 つなのです。

また靈界靈媒は「進化が永遠に続くと言う、なぜそう言うお終いの^{しま}ない計画を大靈がお立てになったのか、そのところがわかりません」と語っております。

私はこのところを説明してまいります。

皆様に質問します。この現世での物質界の修行は楽しいですか？

銀河靈から大靈になる最後の修行ですから、多くの苦難に出合う筈です。恐らくこのような修行が数億年続くかと思うと気が重くなるのではないかと思います。この感情が皆様に残っているようでは、彼が皆様を大靈レベルまで引き上げても心が晴れないのではないのでしょうか？ これでは皆様が救われたと言う実感を味わえないと思います。ここで皆様には、先ほど私が説明した下線部（p. 76 ~ 77）を思い出して頂きたいのです。皆様はすでに銀河靈ですから、靈界に戻られたら 1000 億の恒星靈を統率できる靈力の持ち主である自我を次第に取り戻します。そしてその銀河靈団の指導靈として、概念的存在と、・・・・・・・・、惑星靈と、恒星靈を、大靈に成長させるために彼から学んだ靈力（「虹の掛け橋」で彼が観せている愛と知恵と勇氣）を注いでゆきます。すると、たとえば惑星靈が恒星靈に、恒星靈が銀河靈に成長する形で靈団が広がり皆様は大靈になることができるのです。その後は、恒星靈が銀河靈に、銀河靈が大靈に、そして皆様はこれら 1000 億の大靈を束ねる超偉大な靈となられるのです。皆様が自ら靈団を広げるのではなく、各靈体が彼によって創造された（組み込まれた）自己向上欲と言う真理と摂理の自動的な働きによって、皆様の愛と知恵と勇氣からなる靈力を受けている子等^{こら}である概念的存在、・・・・・・・・惑星靈、恒星靈、銀河靈が皆様の靈団を自動的に広げてくれるのです。

皆様にはこのことをイメージして頂きたいのです。このような未来が皆様に待っているのです。このような未来を創造した彼に向かって「いつまでも救われない」と苦言を零す^{こぼ}銀河霊を私は知りません。

また、皆様の地上時代の全行動全想念は、皆様の弟子である恒星霊、惑星霊・・・・・・概念的存在（以下「弟子たち」）がDVDを見るように観賞し、記録しています。が、これを聞いて恥ずかしがる必要はありません。弟子たちが最も感動するシーンは、彼の教えに出会う前とその後の皆様の変容ぶりで、そのギャップが大きいほど感動を呼ぶからです。それに神仏の教えに出会う前の彼自身、あまり褒められた行動はとっていませんから。

なお、皆様が、どのような心の文様で、どのような行動をとり、その結果、周囲の人たちや動物たちが、どのような感情を持ったのかを記録した、このようなDVDがあるからこそ、皆様の霊界での生活・^{しよ}処遇と来世が公正に決定され、誰も（全霊体）が安心できるのです。

ですから、たとえば、①自首しなかったり、②部下（秘書）のせいにしたりするのではなく、現世で犯した罪は現世のうちに償い切った方が^{けんめい}賢明です。なぜなら、この2つの罪の報いが軽かったならば、①は罪を犯しても逃げることを、②は法廷で、罪の報いから逃れるための偽証を^{じょちょう}助長し、社会の秩序は崩壊します。と同時に、^{そうさ}捜査経費・労力が膨大になってしまいます。なので、これらの罪は皆様が考えているより^{はる}遥かに重く、この者たちの霊界での生活・処遇と、来世（掛かった捜査経費・労力を支払う人生）は^{ひさん}悲惨です。・・・・・・、ここで、誤解を恐れず私が皆様に真に言いたいことは、神仏の教えに出会う前の彼は、罪を犯しても多分自首しないし、平気で他人に^{ひと}責任^{せきにん}転嫁^{てんか}するような霊体だったのです。神仏の教えに出合い、血と涙の修行を通して生き方を修正し、^{こんにち}今日（「虹の掛け橋」をここまで書けるまで）に至っているのです。

ですから、上記①と②のような人であっても、彼の教え（真理と摂理の働き）を学んで実践できるよう努めていれば、弟子たちに感動を与える行動をとれる霊体に、地上で生まれ変われる^{やがて}→天国での生活と素晴らしい来世が待っている、ということです。

次に、私は皆様に、様々な病気が発生する根本的な理由は、真理と摂理の働きによるものであって、真理にしたがった生き方さえすれば、これを克服することができることをお話ししてまいります。霊界の大学院「お利口さんクラス」レベルの究極的解決方法については「第4巻」以降で、徐々に詳説されますので、ここでは霊界の幼稚園「さくら組」レベルの基礎的知識に関する説明に留めさせて頂くことをご了解ください。

人類は医学の進歩によって、ペスト、天然痘、結核、チフス、コレラと言った、これらの伝染病を克服してきました。最近では臓器移植や遺伝子治療によって、これまでであれば奪われていたであろう多くの命が救われるまでになりました。医学が果たした功績がとても偉大であることは誰の目にも明らかです。我々霊団も医学の進歩を微笑ましく思っているのです。

しかし、特定疾患と言った難病のように、現在の医学では原因もそして完治させるための治療法もわからない病気もあるのです。あるいは、薬によって一旦克服したと思える病原菌が、薬に対する耐性を持った病原菌に変化してくるケースもあって、薬（医学）が進歩すればするほど、病原菌も進化してゆくように、人類の医学と彼が人類を絶滅させない程度に毒性を緩和したレベルに創造した病原菌との、果てしない攻防が繰り返されているのです。

このように、どんなに医学（人知）が進歩したとしても、すべての病気を完全に克服したと言い切れるときが訪れることは、人類が「虹

の掛け橋」全7巻を読み終えるまでは決してないのです。なぜなら人知には限界があり、創造主の^{じんち}神知を越えることができないからです。銀河霊の霊眼をもって観たときに初めてウイルスの本当の姿を捉えることができたように、病気になる本当の原因を銀河霊の霊眼をもって探る必要があります。

では病気になる原因を霊界の幼稚園「さくら組」レベルの霊眼で捉えたとき、何か？

人は食べ過ぎればお腹を壊します。思いどおりにならなければ物事や周りの人に対して怒りを覚え、眠れない夜を過ごすこともあります。医学に関する知識が全くない人は、体に毒な煙を食べたり、健康を害する生活を続けたりして体を壊して仕舞います。

これらの正体は、^{とん}貪・^{じん}瞋・^ち痴と言う心の^{さんどく}三毒なのです。

貪とは「食べ物や愛情やお金や地位や名誉や領土やエネルギーや権力や知識や幸せ・幸福感などを^あ飽くことなく^{むさぼ}貪り^{ほつ}欲する心」です。「第19章 2000年の初夢」で語られているように、持っているお金（人々に^{えこう}回向せずに蓄えた財産）は、背負っている罪の重さとイコールなのです。地震や台風で家を失った者たちや職を失い飢えで苦しんでいる者たちがいるにも^{かか}拘わらず、形だけの^{みま}見舞いの言葉で、^{ぜいたくざんまい}贅沢三昧の日々を過ごしている、^{ぎぜんしや}偽善者や^{だいふごうか}大富豪家たちが天国に入ったならば、真理と摂理がそうでないことになります。誰かが言っていましたよ。「金持ちが神の国に入るよりも、^{らくだ}駱駝が針の穴を通る方が、まだ楽だ」と。つまり、これらのものを周辺国の人々と分かち合う実践ができる霊格レベルに向上するまで転生・再生を繰り返すことになるのです。これが、世の中に平和と調和と秩序を取り戻すために必要な、転生・再生の法則だからです。

^{しん}瞋とは「怒りの心」です。

痴とは文字どおり知の病で「物事の道理に暗いお馬鹿な心」です。

この三毒が何人も否定することができない、人の体と心を滅ぼす原因・病です。ですから、この三毒を克服することが、あらゆる病気を克服することに繋がっているのです。つまり、貪らない心、怒らない心、物事の道理にお利口な心を身につけることができれば、あらゆる病気を克服できるのです。ですから、病気を医薬品のみで治す道を歩み続けるのは創造主への挑戦で成就できないばかりか、薬に強く依存する肉体に退化し、かつ霊格の向上も霊体の進化も停滞します。そして薬の安全性を確認するために動物実験等の反真理的行為の道を選択することになり、平和と調和と秩序を乱す結果を招くことになります。なぜなら、犠牲になった動物たちは、人類に苦しめられた霊体たちと共に、人類滅亡を目指して活動することになり、病原菌たちを、人類を倒してくれる救世主と考え、病原菌たちの進化をお手伝いする強大な（病原菌たちの守護）霊団を形成するからです。鎮魂祭等の儀式は、人類の自己満足的儀式で動物たちには届きません。

何かを（たとえば動物たち）を犠牲にしたり、敵と思えるものたちを次々に滅ぼしたりして、平和な世界が築けてしまったならば、戦争を促してしまうことになり世の中は滅茶苦茶です。戦いで滅んだものたちは、霊界で生き続けていますので、（勝者は）このものたちから憎しみを受け、やがて必ず（現世 or 霊界での生活 or 来世）地獄が現象化するのです。人類は、このような実相・摂理の働きの存在を知るべき時期にきているのです。

しかし、これから私が話すとおりには皆様が実践され、かつ「第4巻」以降を読まれ実践すれば、誰もが必ず、三毒に冒されない心と体（免疫力）を身につけた、とても進化した生命体になることができます。

仏典の中に「我昔所造諸悪業、皆由無始貪瞋痴、從身語意之所生、一切我今皆懺悔」と言う「懺悔文」が書かれています。これは、「私が

昔^{むかし}から造^{つく}ってきた諸々^{もろもろ}の悪業は、すべて遠い過去から心が貪・瞋・痴の三毒に冒されていたがゆえに、この心にしたいが行い^{しん}（身）と言葉^ご（語）と心^い（意）によって生じたものです（つまり、三毒に冒された心によって、やってはいけないことをしたり、言うてはいけないことを言ったり、意地悪な心を抱いたりして、多くの人たちや生き物たちを苦しめたり傷付けたりしてきました）。私は、今、犯した過ちのすべてをここに懺悔^{さんげ}いたします」という意味です。

人は誰も必ず罪を犯し、そして周りの人々を傷付けたことがある筈なのです。ですから、己のこの姿に気づき、懺悔^{さんげ}することが心の修行を始める、そして健康になる出発点なのです。己の罪を自覚できたならば、これからは行いや言葉や心によって悪業を積まないように努めるべきです。そして、徐々に善行を積んでゆくことです。傷付けてきた周りの人の役に立とうとする善行や、常に大きい方・好ましい方・楽な方を人に譲り続ける善行もまた立派な懺悔^{さんげ}の仕方なのです。このような心の修行を経て、やがて三毒に冒されることのない心へと成長してゆきます。

そして、三毒に冒されることのない心になれば本当にあらゆる病気を克服できることを、彼は文字の中に吹き込んできたのです。

それを説明してまいります。

医学の「医」と言う文字は「矢」と「匚^{ほう}」から構成されています。一方、知恵の「知」は「矢」と「口^{こう}」から構成されています。「矢」は貪・瞋・痴の三毒の矢を表します。「口」は（あらゆる病気や苦難を克服することができる）知恵（や忍耐）の袋を表します。「匚」は、この知恵の袋が破れていることを表します。

つまり、人知を結集して作り上げて来た医学によって、一旦は病気を克服したとしても、患者が再び暴飲暴食（貪）の生活に戻ったり、怒りに満ちた心（瞋）の紋様で生活を続けたり、病気から学ぶことな

く同じ過ち(痴)を犯したならば、これらの三毒の矢によって医学が築き上げてきた知恵の袋が突き破られ、患者の体や心は再び串(＝矢)に刺さった病に冒されることになる。「医」と言う文字を通じて彼は警告しているのです。

また、薬を飲んで治れば人生に楽しみが齎されますが、効能が大きい薬ほど「クスリ」を反対から読むと「リスク」の文字になるように、効能が反転して副作用(副反応)と言う「リスク」も大きくなることも併せて彼は警告しているのです。

一方、三毒の矢で突かれても知恵の袋は決して破れることがなく、このような心を身につけた人はあらゆる病気を克服できることを「知」と言う文字を通して彼は伝えているのです。

そして、彼が創造しようとしている世界は、すべての人(や生物)の霊格・霊力が大霊レベルに向上した世界＝病気や怪我をする者(物・もの)も、させる者(物・もの)も存在しない世界＝医療(薬：動物実験等々)を必要としない世界＝❶医療費ほぼゼロの世界＝健康体を身につけたこのような霊格者・霊力者に憧れ、誰もが「虹の掛け橋」を真摯に学び実践する世界＝他の国や惑星に攻撃する者が存在しない世界＝❷軍事費ほぼゼロの世界＝❶と❷により赤字財政問題が解決した世界＝❸浮いた予算を、貧しい地域や国々に、地球環境問題や少子化問題解決のために回した世界＝❶と❷によって職を失う人たちが❸の仕事等に転職されることによって、誰もが食べてゆける世界＝調和と秩序が齎された、平和で平等な成熟した世界です。

では、どうやって？ その方法は「虹の掛け橋」「第1～7巻」を通して、皆様の理解度と魂の成熟度、それと「虹の掛け橋」の広がり、続編を読みたいと言う要望の強さに応じて、ごじゃっぺ話を交えて説明されてゆきます。

ここで、私からスピリチュアリストの皆様（以下、単に「皆様」）にお話ししたいことがございます。スピリチュアリスト以外の方は読み飛ばしてくださいと言いたいところですが、^{びと}以外人も意外に参考になる箇所があるかも知れませんのでお付き合いください。

「霊訓」では、私は人類救済のために組織された霊団の最高指導霊に祭り上げられて仕舞ったようです。ここまで「虹の掛け橋」を読み進められた皆様であれば「霊訓」によって掛けられた曇った眼鏡も少しは晴れてきているでしょうから、私が最高指導霊でないことはご理解頂けるものと思います。彼と私とでは霊力が違い過ぎますから。

では、なぜこのような誤った内容で「霊訓」が地上に伝わって仕舞ったのか、このことを掘り下げながら説明してまいります。

「霊訓」の中で「今後イエスを越えるような霊が地上に降りることはない」と誤った内容が記載されている箇所がございます。このような内容を書かせるに至った霊界および地上の霊媒（以下「霊媒たち」）の想念がシルバーバーチの真の「霊訓」を^{ゆが}歪めた根本原因です。シルバーバーチも指摘しているように、どのような霊が地上に救済に向かうのかを決定することができるのは大霊だけです。霊媒たちは、自分たちにはその決定権がないにも拘らず、知らず知らずのうちに自ら大霊のつもりになって仕舞ったのです。これは慢心です。この慢心が「霊訓」を貫いて仕舞っているのです。皆様は「ご自分にはそのような慢心はない」と反論されますか？

では、皆様にも納得して頂けるよう、これに説明を加えてまいります。

「霊訓」は英語で書かれているものです。ですから、日本の皆様は^{ほんやくばん}翻訳版を読まれているわけです。「霊訓」の訳者は「霊訓」の「訳者あとがき」の中で次のように語っています。「(地上の霊媒であるバーバ

ネルが他界して仕舞った今となつては、いかなる人が) 三顧^{さんこ}の礼を尽くしてお願いしても、シルバーバーチはもう2度と出てこないことを、私がここに断言して置きます」と。これを読んで皆様は「その通りだ」と心の中で拍手喝采^{はくしゅかつさい}を送ったのではないのでしょうか？ もしそうであるとすれば、皆様にもこの訳者と同じ想念が働いていると申しあげます。しかし、冷静になって良く考えてください。これを決めるのは一^{いつ}体誰^{たい}でしょう？ シルバーバーチただ1人だと思いませんか？ この訳者もいつの間にか、シルバーバーチのつもりになってしまっているのです。

では、このような想念を招いた、霊媒たちの心の内奥^{ないおう}に存在する更なる根本原因は何かを説明してまいります。

それは、三毒の矢のうち2つの毒によって知恵の袋が病んでいるのです。まず1つは痴です。ここでは、彼とシルバーバーチの愛に満ちた心を真に理解していないということです。つまり、絶滅と言う名の危険な川に近づき、そこへ落ちそうになっている人類を救うために自ら降誕する愛（善想念）を、まさか創造主自ら降誕することはないと考え、彼が地上を去ってからでないと理解できないということです。また、シルバーバーチはできるだけ多くの人類と通信したいと考えているのです。ですから、シルバーバーチと通信できるだけの霊格に人類が向上したとき、速やかに通信してくるのです。このようなシルバーバーチの愛（善想念）を知らないということです。

もう1つは瞋^{ほこさき}なる怒りの心です。この怒りの矛先はどこか？ それは悪や偽物や「霊訓」に敵対する者に向けられる怒りです。この怒りも悪想念イコール反真理的行為で、これが「霊訓」を串のように貫いているのです。

これを更に掘り下げてまいります。

皆様に質問します。どうしてウイルスなどの病原菌は摂理の証とし

て彼の手足となって働くのでしょうか？

答えは、彼はウイルスなどの病原菌を優しく抱きかかえ、愛と知恵と勇気の霊力を注いでいる（真理的行為：以下同じ応用問題）からです。

では、どうして人類はウイルスなどの病原菌が引き起こす病気をなかなか克服できないのでしょうか？

答えは、人類は医学によってウイルスなどの病原菌との戦いに勝ってこれを克服（支配・管理・排除）しようとしている（反真理的行為：以下同じ応用問題）からです。

ではどうして、鬼やサタンや毒は摂理の証として彼の手足となって働くのでしょうか？

答えは、彼はこれらの悪しき概念を優しく抱きかかえ、愛と知恵と勇気の霊力を注いでいるからです。

ではどうして、地上から戦争がなくなるのでしょうか？

答えは、人類は正論とか大義名分たいぎめいぶんと称するものを振り翳かざして、自分や自国にとって鬼やサタンや毒と思える敵との戦いに勝って、これらを征服したり排除したりしようとする道を選択しているからです。

ではどうして、我々霊団は彼の手足となって働くのでしょうか？

答えは、彼は我々を優しく抱きかかえ、愛と知恵と勇気の霊力を注いでいるからです。

では、皆様はどうして、我々霊団の指導霊になれないのでしょうか？

答えは、皆様にとって、悪や偽物や敵と思えるものを愛せない形で、愛を注ぐ対象を選び好みしているからです。

ではどうして、彼は煩悩をコントロールすることができるのでしょうか？

答えは、彼は煩悩と言う名の悪想念を優しく抱きかかえ、愛と知恵と勇気の霊力を注いでいるからです。

では、皆様はどうして煩惱をコントロールできないのでしょうか？

答えは、煩惱と言う名の悪想念との戦いに勝ってこれを征服しようとしている or コントロールすることを断念しているからです。

ではここで視点を変えて皆様に考えて頂きたいことがあります。

皆様に戦いを挑んでくる者あるいは征服しようとする者と、愛と知恵と勇気の善想念で優しく包み込む者と、どちらのために働きたいと考えますか？

どなたも、後者を選択すると思います。

これこそが、^{おうごんりつ}黄金律なのです。

この黄金律を正しく理解して愛と知恵と勇気からなる善想念で宇宙空間を満たしたとき、地上で起こっている人対人、人対動物、人対雑草等の植物、人対病原菌、人対悪想念、人対〇〇、□□対△△のすべての争いが創造主の前で終焉^{しゅうえん}に向かうのです。

なお、ここでお断りして置きますが、黄金律とは、現在の地上の概念で最高の真理と摂理の働きを言います。つまりこれは私が現在認識できる最高の真理と摂理の働きを皆様にお話ししたということです。究極の生命体である彼が認識しているものとは異なるということです。皆様は「虹の掛け橋」を通して彼の教えを学びながら次第に靈格が向上してまいります。すると、黄金律→^{りよくごんりつ}緑金律→^{せいごんりつ}青金律→^{らんごんりつ}藍金律→^{しごんりつ}紫金律が理解できるようになります。そして最後に^{はくごんりつ}白金律が理解できるようになります。これは皆様が^{せきごんりつ}大靈になったときです。理解できたのは、白金律は日常の何気ない風景の中にすでに皆様の前に置かれているからです。しかし、これは今の私でも理解できないように今の皆様にも理解できないと思います。この白金律は、^{せきごんりつ}赤金律、^{とうごんりつ}橙金律、黄金律、緑金律、青金律、藍金律、紫金律を正しく実践してやっと到達できる境地(理解し自分のものになる)、愛と知恵と勇気の結晶です。つまり、白金律は「虹の掛け橋」が7巻揃ったとき、皆様はこの全巻

から発する彼の霊力からなるプリズムを通して初めて理解できるのです。したがって今の皆様には白金律よりも、まず赤金律や橙金律が何であったのかを「虹の掛け橋」を繰り返し読んで悟り実践して、その上で黄金律をいかなる状況でも正しく実践できるようになれば十分ではないかと考えます。

ここまでの、私の説明を聞けば、悪や偽物や「靈訓」に敵対するものに向けられる怒りも排除心も悪想念で、これとの戦いに勝って征服しようとしても、この行為が反真理的行為である以上、真理と摂理の働きにより、人類とテロとの戦いのように永遠に成就点は訪れないのです（「第4巻」以降でさらに詳説されます）。

そして「悪や偽物や敵対するものを優しく抱きかかえるような真理的行為を選択し、愛と知恵と勇気の霊力を注ぐ」、このような心の紋様にならない限り、地上の様々な問題（テロ、領有権、民族・宗教紛争、差別・いじめ、病気、貧困、環境汚染等々）は、（彼を意地悪と思うかも知れませんが）何1つ解決できないよう、彼は真理と摂理を配ってきているのです。理由は皆様の霊格を大霊レベルに向上させるために計画された、皆様への試練と言う名の彼の愛です（このことについても「第4巻」以降で詳説されます）。

次に、私は「靈訓」の地上霊媒であったバーバネルが現在どうしているのかを述べてまいります。

バーバネルはこちらの世界にきてシルバーバーチから創造主自ら地上に降誕していること、真の「靈訓」は彼が書いている「虹の掛け橋」であること、そして人類は本来、銀河霊であることを知らされます。そして、これらのことを何とかしてスピリチュアリストの皆様に伝えたいと思っているのですが、皆様も太陽の光を直視できないように、現在のバーバネルレベルの霊格では、彼の前に立って彼と語り合うこ

とは彼の光が強過ぎるが故にできません。このため、バーバネルの肉声を、彼を通して皆様に伝えることができないのです。そして、現在のバーバネルと皆様の霊格を比較すると、バーバネルは皆様の数億倍ですから、これまた波長が違い過ぎて通信できないのです。

ちなみに、(2000年10月1日)現在、銀河霊で彼と自由に語り合うことができるのは「シルバーバーチ」「モーゼ」「マホメット」「釈尊」「私(イエス)」(以下「五霊」)だけです。「語る」の「五」はこの五霊を表しています。しかし「話す」という文字を良く見てください。

「五」のところが「千」に変わっているのです。これは、彼が1000億の銀河霊すべてに(地上の皆様もここに含まれます)、対話の門を開いていることを表しているのです。霊界の銀河霊は、私たちを五大銀河霊と呼んでいます。私たち五霊と同じように黄金律を正しく理解し、いかなるものに対しても善想念で接することができるようになれば、どなたでも想念の世界で彼と対話することができるのです(「第4巻」で出される「公案1」をクリアーした五霊レベルの者だけが「公案2」の答えを添えて彼とEメールで質疑応答の形で対話することができます)。霊界にいる現在のバーバネルは、彼と対話し一緒にカラオケできるところまで霊格を向上させて、そしてこのような素晴らしい霊界と宇宙を創造し、この世界に輝く無限の命を付与して、有意識生命体として誕生させてくれた彼と心ゆくまで対話したいという強い念に駆られて、彼の教えを主にシルバーバーチとモーゼから精力的に学び実践し、そして霊界に住む恒星霊や惑星霊や人レベルの霊に法を説いて回る大導師として活動しているのです。

私は、この章でスピリチュアリストの皆様、特に「霊訓」の出版に携わった方々に対してかなり厳しい苦言を述べさせて頂きました。私としては、シルバーバーチが前章で述べているように、スピリチュア

リストの皆様が彼を最後まで受け入れない方々になって欲しくないからです。

だからこそ、私は今の私が認識している最高の黄金律を皆様にお話ししたのです。ここで皆様の慢心を助長するようなことは申しあげたくないのですが、皆様は平均的な人類の霊格とは比べものにならないほど向上しています。

しかし、前述したように慢心も比べものにならないほど強いのです。



富士山

shutterstock_1346329283

皆様が慢心を覚えたとき、次のようにイメージしてもらいたいのです。

皆様は、富士山（日本以外では「エベレスト山」）の頂上に立って、地上に立てたご自分の10階建ての家と周りの平屋建ての家を比較して、どれだけ高いと主張

できるのか、ということです。

皆様が「霊訓」から高級霊レベルの霊的真理を学んで他の人々を大きく引き離して辿り着いた霊格界、実相は、そこは迷いの地^{じ ばくれい}縛霊たちの世界であることが「第4巻」を読み終え納得されたとき「霊訓」によって掛けられた曇った眼鏡が外れ「虹の掛け橋」の価値が輝きをもって理解できるものと信じます。

次は「モーゼ」に代わります。

第 25 章

罪深き者たちが救われる

1 救いの御業^{みわざ} その 1

モーゼ 私とイエスで、彼の救いの御業を語ってまいります。

① 地上は石で覆われていた。天（＝創造主）は雨を降らせ海を創った。海の潮が引き陸地が現れた。天は再び雨を降らせた。陸地に川が流れた。その河川敷に天は無数の木を植えた。やがて木は成長し繁茂^{はんも}して森ができた。

天は森を観ていた。森の中央に若木^{わかぎ}が立っていた。

若木は天に祈った。「私の周りの大木^{たいぼく}を皆切り倒してください。なぜなら、私が十分に太陽の光^{あお}を仰げないのも、自由に根を伸ばすことができないのも、周囲の大木のせいだから」と。

天はこのお馬鹿な願いを叶えてやった。

若木は自由に手足を伸ばせるようになったと喜び天に感謝した。

やがて雨が降ってきた。周りに根がないため石が流された。

風も吹いてきた。若木は忽ち^{たちま}倒れ、川に流されていった。

若木は、周りの木が地盤を安定させ、そして強い風を防いでくれていたことに気付き天に祈った。「お馬鹿でした。1人では生きてゆけないことを悟りました。どうかお馬鹿な私を救ってください」と。

天は、流されていた若木を優しく抱きかかえ河川敷に戻した。

こうして、お馬鹿な若木が救われた。

天は地上に土の子を送り、愛と知恵と勇気からなる虹で土の子を育てた。やがて土の子は河川敷を覆い大地へ成長した。

若木は大地に根を下ろし、愛と知恵と勇気からなる養分を吸収して成長し枝を張り葉を茂らせた。

天は土の子を象^{かたど}って人を創った。人が地上に溢れていった。

やがて若木は花を咲かせ 200 個の赤金色の果実を付けた。

若木の傍^{そば}を人が通った。それを仏陀^{ぶつだ}の使いである蛇が観ていた。蛇は人に言った。「その赤金色の果実を食べると目が開け、創造主の愛と知恵と勇気を身につけることができます」と。

これを聞いて人々は笑った。「これは禁断の赤い（赤金色の）果実。そしてお前は不吉な姿をした邪教の使いだ」と。

こうして、執着していた教えと、醜^{みにく}い姿に捕らわれて人々は躓^{つまず}いた。

実はすべて大地に返っていった。

若木は天に祈った。「果実を遠くへ運んでくれる鳥を送ってください」と。

天はこの願いを聞き入れずに、心を痛めながら、若木の葉を食べる青虫を送った。

若木は試練を受けた。

青虫は若木の葉を食べて成長し、愛と知恵と勇気を吸収して天使の翼を持った。

青虫は若木の葉を食べ尽くそうとしていた己の姿を反省して天に祈った。「私は罪を犯しました。名前を葉に付く虫「蝶^{ちょう}」と名付けてください」と。青虫（蝶）は若木の受粉の手伝いをするものに転換した。

こうして、青虫（蝶）が救われた。

やがて若木は 200 個の橙金色の果実を付けた。しかし、人々は実の存在に気付かなかった。

実はすべて大地に返っていった。

5 年の年月が流れ若木は大地から栄養を吸収し黄金色の果実を付けた。この果実を観て蝶が天に祈った。「この果実を運ぶための大きな羽を持った大天使^{だいてんし}にしてください」と。

天はこの願いを聞き入れずに、心を痛めながら、青虫と蝶を食べる鳥を送った。

青虫（蝶）は試練を受けた。

鳥は青虫と蝶を食べて、愛と知恵と勇気を吸収して成長した。

やがて目が開けて、受粉の手伝いをしていた蝶を食べていた己の姿に気付いた。そして天に祈った。「私は罪を犯しました。名前を「鳥」ではなく「鳥^{からす}」にしてください」と。

こうして、鳥（鳥）が救われた。

そして鳥は黄金色の果実を遠くへ運び始めた。

この果実を受け取り食したものは幸いである。彼らは創造主の愛と知恵と勇気を受け継ぐだろう。

② 天は沈んでゆく「タイタニック」を観ていた。

風（己の心）が囁いた。「高貴^{こうき}なお方たち。あなた方は天から選ばれた人々。さあ、天が用意してくださった、この救命ボートにお乗りください。これはノアの箱船です」と。

そこへ黄金色の果実を運んでいた鳥が通り掛かった。鳥は言った。「高貴なお方たち。本当のノアの箱船は、目には決して見えないものです。天から与えられた偽^{いつわ}りのノアの箱船に最初に乗ってはいけません。その船にはまず弱い方から順に乗って頂いて、まだ乗るスペースがあったならば、最後に乗せて頂くのです」と。

これを聞いて人々は驚いた。鳥の言葉に真理があったからである。しかし水の冷たさに負けて答えた。「暗闇に立つ不吉な鳥。お前はサタンの使い。黙れ」と。そして鳥を撃ち殺した。鳥は黄金色の果実と共に海に落ちた。天はこの鳥を優しく抱きかかえ祝福した。鳥が再び黄金色の果実を持って飛び立った。

鳥の声を無視して彼らは我先に救命ボートに乗った。

天は、人類の霊格レベルのお馬鹿さを象徴する、霊界では考えられ

ない、この地獄絵の光景を観て哀れ^{あわ}んだ。

こうして、天から選ばれた者たちが躓いた。

貧しき者たち、持ち場を離れなかった乗組員たちがタイタニックに残され、やがて冷たい海の底に沈んでいった。

天は白金色に輝く本当のノアの箱船を現し、彼らを優しく抱きかかえてその船に乗せた。

こうして、ノアの箱船（命の綱）を譲った者たちが救われた。

救命ボートに乗った人たちがこの様子を見ていた。

彼らは涙を浮かべて天に懺悔した。「私たちは多くの人々を見殺しにして罪を犯しました。どうか罰してください」と。

天は彼らの涙を優しく拭^{ぬぐ}い許した。

こうして、罪深き者たちが救われた。

ここからはイエスに代わります。

2 救いの御業 その2

イエス 続きを語ってまいります。

① 初めに言葉があった。言葉は創造主であった。万物は言葉によって成った。言葉は無限であり、成ったもので、言葉によらずに成ったものは何1つなかった。言葉のうちに愛と知恵と勇氣に満ちた光り輝く命があった。命は人類を照らす光であった。言葉は暗闇の中で創造主の教えを説きながら輝いていた。しかし、人類は言葉が発する光を理解しなかった。創造主は人類が光を理解できるようにプリズムとなる虹を天と地を繋ぐ契約の証として自ら描いた。この虹を観た者は愛と知恵と勇氣に満ちた命を得て輝いた。

② 天はぶどう園（天地宇宙）を創り、農夫たち（人類）に貸した。収穫のときになったので、ぶどうの収穫税を納付させるために、僕を農夫たちのところへ送った。ところが農夫たちは税を納付することなく、この僕を袋叩きにして、何も持たせないで追い返した。そこでまた、他の僕を送ったが、農夫たちはこの僕も袋叩きにし、侮辱して何も持たせないで追い返した。さらに 3 人目の僕を送ったが、農夫たちはこの僕を牢に監禁した挙句首を刎ねて殺した。

そこで、天は愛する息子を送った。この子ならたぶん敬ってくれるだろうと考えたからである。農夫たちは息子を見て、互いに論じ合った。「これは跡取りだ。殺して仕舞おう。そうすれば、相続財産は我々のものになる」と。

そして、息子をぶどう園の外に放り出して散々侮辱した挙句、鞭で打ち茨の冠を載せ、十字架に懸けて殺した。

天は農夫たちに貸したぶどう園を返してもらおうと考え、虹を歩いて自ら地上に降りた。農夫たちは天を見て驚いた。思ったよりも見た目が若かったからである。そして言った。「お前がこの広いぶどう園すべて創造し管理していると言うのか？」と。

天は答えた。「そうです。私は地盤を創り、そこに光と水を与え、木を植え、葉を茂らせ、肥沃な大地を創ってきました」と。

農夫たちは言った。「その若さでいつ大地を創ったと言うのか。証拠を見せろ」と。

天は答えた。「証拠は私がこれまでに描いた虹の中にあります。天のものは天へ、大地のものは大地へ返してください」と。

この言葉に農夫たちは威厳を感じ怯えた。しかし、まさか天が降誕する筈はないと思いながら虹を見上げた。その虹は農夫たちの目には、日常の有り触れた光景であったため天のメッセージを理解できなかった。曇った（偽りの教えで毒された）眼鏡を掛けていたからである。

農夫たちは相談して言った。「天の名を語り、世を惑わすサタン。お前のようなやつは私たちが天に代わって成敗^{せいばい}してやる」と。そして袋叩きにして殺した。

天から多くの血が流れ大地を赤く染めていった。

こうして、農夫たち（人類）が躓いた。

農夫たちは、天に無断で、お馬鹿さの象徴である貪欲さ丸出しで、思い思いに国境と言う名の線を引き、醜^{みにく}い餓鬼の如き形相で領有権を主張し合った。やがて反真理的行為の報いである摂理の働きにより自動的に争いが起こり多くの血が流れ、大地を赤く染めていった。

天はお馬鹿な行為を繰り返しながらも己のお馬鹿さに未だに気付かない人類を憐れみながら、争いで傷付いた魂たちを優しく抱きかかえ虹を通して帰った。

こうして、お馬鹿な争いで傷付いた魂たちが救われた。

③ 土の子は、天から授かった虹の本を出版社と図書館に送った。図書館職員らは「公共の場で広く読まれる図書としてはふさわしくない」と判断した。創造主が描いた虹を彼らは見ることはできなかった。まるで神仏の教えに出会う前の土の子の如^{ごと}き農夫たちだったからである。

やがてこれらの本は忘れられ、その中の 1 冊がゴミ箱に落ちた。

この本を貧しき男が拾った。男は新しい本であったので、これは売ることができると思い、中を開いた。そこには宗教的な内容が書かれていたので、宗教団体なら買ってくれるだろうと考え、まず教会へ行った。そして言った。「私は今日 1 日分の食べ物もないのです。どうかこの本と引き換えに食べ物を恵んでください」と。神父（牧師）は哀れに思い、男に食べ物を与え本を受け取った。

神父が本を開くとそこには仏教の法華経の教えが書かれていた。天の目にはそこが神父に必要な教えであったからである。しかし、神父は「異教徒の教えだ」と言ってこれを忘れた。やがてこの本がゴミ箱

に落ちた。

この本を再び貧しき男が拾った。次に、男はこれを法華經の信徒のところへ持ってゆき同じようにして食べ物を受け取った。

信徒が本を開くとそこには禪宗の教えが書かれていた。天の目にはそこが信徒に必要な教えであったからである。しかし、信徒は「異教徒の教えだ」と言ってこれを忘れた。やがてこの本がゴミ箱に落ちた。

この本を再び貧しき男が拾った。次に、男はこれを禪宗の僧侶へ持ってゆき同じようにして食べ物を受け取った。

僧侶が本を開くとそこにはキリスト教の教えが書かれていた。天の目にはそこが僧侶に必要な教えであったからである。しかし、僧侶は「異教徒の教えだ」と言ってこれを忘れた。やがてこの本がゴミ箱に落ちた。

こうして、神仏の教えを学び、法を説く者、自分こそ修行者であるが故に確実に天国に入れると思っている慢心者^{もの}たちが^{ことごと}悉く躓いた。

この本を再び貧しき男が拾った。本はぼろぼろに破れていた。宗教的な内容が書かれているにも拘らず、すべての宗教宗派から嫌われ捨てられたこの本を男は哀れに思い中を開いた。そこは「第9章 7 悪い人」の箇所であった。天の目にはそこが男に必要な教えであったからである。男は、己が悪い人であるにも拘らず、この本が何度も食べ物に代わる形で天が養ってくれていたことに気付き涙を浮かべた。

天は男の涙を優しく拭い許した。

こうして、悪い人が救われた。

④ 地上は様々な怪しげ^{あや}な宗教宗派で溢れていた。

やがてそれらの怪しげな宗教を説いて仕舞った祖師^{そし}たちが死んで霊界へ戻ってきた。

祖師たちは天の分霊^{わけみたま}である土の子が地上に降誕していることを知

って驚いた。そして、天に^{ひざまず}跪いて言った。「彼を我が教団の^{きょうしゅ}教主としてお迎えします。是非我が教団で法を説いてくださるよう天から彼に伝えてください」と。

天は祖師たちの願いを聞き入れ土の子を教団に送った。土の子は教団の門を叩き言った。「霊界におられるあなた方の祖師からの依頼を受けて、この教団の教主として法を説くためにまいりました」と。

応対した教団長は言った。「証拠を見せろ」と。

土の子は1枚の絵を渡した。それは「高価な^{みずがめ}水瓶が割られ、水が溢れ、そこから泣き叫ぶ子どもと^{おもちゃ}玩具が飛び出してきていた。その脇には、父親が頭から血を流して死んでいた」そんな絵であった。

これを見て教団長は言った。「父親が死に、子どもが泣き、高価な水瓶が割られた不吉な絵だ。お前はこの教団を滅ぼすために来た悪霊だ。とっとと立ち去れ」と。

土の子は、次の教団を訪れ、同じように言い、絵を見せた。しかし、その教団長も、彼を受け入れずに追い返した。このとき、土の子は人類の霊格の低さを正確に把握した。このことが天の真の目的であることを悟り、教団の門を叩いた経験を通して「無駄な修行は存在しない」と^{つぶや}呟き、9年間のカラオケとコメディ映画（DVD）^{ざんまい}三昧の生活に入った。大霊界で有名な「面^{めん}ディスプレイ^{くさい}九歳」の^{ほうとう}放蕩生活で、土の子は10kgも体重が増えてしまった。

ここで、読者の皆様に公案をお出しします。

禅宗で有名な絵を少しアレンジして、土の子（＝人の子）が描いた、この絵の真意を読み解いてください。

答えがわかったと思う方は、以下を読み進めてください。

土の子と教団長たちの遣り取りを霊界の祖師たちが見て悲しんだ。

祖師たちは地上に降り、土の子に跪いて言った。「あの絵には次のようなことが描かれていたのです。水瓶の周りを子どもが遊んでいた。そして誤ってその中に玩具を落とした。子どもはそれを取ろうとして中に落ちた。それを父親が観ていた。水瓶がいかに高価なものであっても子どもの命には替えられない。しかし、これを割るための道具が周りにない。道具を取りにゆく時間もない。そこで、父親は己の体の中で一番硬い自慢の石頭を叩き付けて水瓶を割り、子どもを救った。子どもは人類、父親は石（頭）、つまり土の子であるあなたです。あなたは溺れている人類を救うために、あらゆるもの、そして自慢の石頭も出し惜しむことがないほどの愛を絵に示しておられたのです。道具を取りにゆく時間がないとは、人類の絶滅を止めるのは今がタイムリミットと言うことで、溢れる水はあなたの愛が溢れていることを示していたのです。しかし、我々が地上に残した教団の弟子では、私たち（祖師たち）に責任があるのですが、未だに正しい教えに出合っていないため、あなたの深遠な教えを理解できませんでした。あなたの光が強過ぎ、かつ弟子たちの頭も硬かったからです。いかに修行を積んだ地上のあらゆる宗教宗派の指導者クラスであっても、あなたの法を直接聞く資格はありません。弟子たちの過ちは私たちの過ちです。私たちの過ちの起源は五霊の不完全な教えです」と。そして涙を浮かべた。

土の子は彼らの涙を優しく拭い許した。

こうして、教団の祖師たちが救われた。

⑤ 土の子は大地に成長し、やがて自身が天（第一霊）であることに目覚めた。そして虹の「第3巻と4巻」を世に送った。本は多くの人々に広まった。しかし、まさか創造主が降誕する筈はないと思い、ある者は彼を黙殺し、ある者は悪想念に満ちた言葉で罵^{ののし}ったり約束違反のEメールを送ったりして彼を不愉快にさせ、そして彼が天でない証

抛と言う名の釘^{くぎ}で打ち付け袋叩きにした挙句、カラオケルームに監禁した。

やがて彼は歌い疲れ、虹を通して第一霊界へ帰った。

国王制^{など}等を残している人類に、「霊界と、物質界の宇宙と、生命体の創造方法^{つな}に繋がる白金律を伝授するのは危険である」と、判断した彼は、紫金律（第7巻）までしか地上に残さなかった。

彼を受け入れなかった者たちは言った、「白金律まで書くと思っていたのに、時間がありながらカラオケとハイキングに^{うつ}現を抜かす毎日で、書き残さないとは、彼が天でない証拠だ」と。

しかし、心がとても清らかな者たちが、『各^{ごんりつ}金律の中に7色の虹（＝白金律の要素）が、各巻・章・節の中に7色の虹が、「悪」の^{ひと}一文字の中に輝く虹が描かれていたこと』を知って真理（と摂理の働き）に目覚めた。

この者たちによって、彼の教えは世界中に広まり、彼の救いの御業は成就した。

次章で、再度「モーゼ」に代わります。

第 26 章

善想念の世界で引かれ合う

1 救いの御業 その 3

モーゼ 皆様に質問します。

霊格向上を図るために、次の (1) と (2) のケースを比較した場合、どちらが、霊格が向上すると思いますか？

(1) として、彼に無数の質問をして答えてもらった場合。その代わり「虹の掛け橋」を読むことが許されなかったとします。

(2) として、質問は許されなかったが「虹の掛け橋」を読んだ場合。どうですか？ (2) の場合だと思いませんか？

「虹の掛け橋」は霊格が必ず向上するよう見事な配列で物語が並んでいるのです。ですから質問する必要はないと思いませんか？ それに (3) として質問も許され「虹の掛け橋」を読むことも許される世界がどのような世界か皆様には想像できますか？ 彼に質問が殺到して、彼が「虹の掛け橋」を書く時間がとれずに、皆様は「虹の掛け橋」を読むことが許されない状況を作りあげることになるのです。ですから (3) の状況を作ることは不可能だと申しあげたいのです。また、皆様がイメージしている質問を覗^{のぞ}かせて頂き、銀河霊の目から観て判断すると、神仏の教えの神髄を引き出すような質問は皆無^{かいむ}で、むしろ霊格向上には繋がらない品のない芸能レポーター的観点のものが多く彼を不愉快にするだけでなく、質問者自身とても惨^{みじ}めな思いに苛^{さい}まれ、霊格が急降下します。

皆様に質問します。

皆様が「虹の掛け橋」をここまで読み進められて、ご自分の霊格がどの程度向上したと思われますか？

私たち霊界の魂は皆様の霊格が観えますから、皆様の代わりに私がお答えします。

答えは1億倍です。

この答えからどのような世界が観えてきますか？

皆様が、この「虹の掛け橋」「第1～4巻」を周りの人に薦めたとします。これを受け取り4巻まで読んで実践を開始された方は、霊格が1億倍以上向上しているのです。なぜなら、読まれた方の魂の琴線^{きんせん}に向かって彼から無上の愛と知恵と勇氣に満ちた霊力がふんだんに注がれるからです。するとこの方は、受精した卵子が一気に数10億年に亘る進化の過程を10ヵ月あまりで、人類として誕生するが如く^{ごと}、やがてご自分が銀河霊であったことに目覚め、生きながらにして毎日輪廻転生・再生が繰り返され、精神と肉体は急速な進化を遂げ^と、生きる力と希望が漲^{みなぎ}ってきます。誰もが銀河霊にふさわしい言葉を語り行動し思いを抱くようになります。そして、真理と摂理の働きに逆らって悪事を働くことが、現世と来世を棒に振る、いかに愚かな行為であるのかを悟るようになります。

皆様に質問します。

4巻すべて読まれて、周りの人々をいじめたり、傷付けたり、騙^{だま}したり、罵^{ののし}ったり、人生を占ったり占ってもらったり、麻薬を売ったり買ったり、ギャンブルや2号さんに走ったり、他国に戦争を仕掛けたり、テロを起こしたり、目くじらを立てて領有権を主張したり、罪を犯しながら反省しなかったり逃げ回ったり、法廷で嘘^{うそ}をついたり、絶望し自殺したり、カラオケやコメディドラマがつまらないと言ったり、冗談を言わなかったり、笑わなかったり、死後の世界を恐れたり、贅沢^{ぜいたく}三昧^{さんまい}の生活を送ったり、彼に品のない質問をして不愉快にしたりする人がいると思いますか？ いない筈です。

「虹の掛け橋」が「聖書」「仏典」「コーラン」「霊訓」を超越し、光

り輝く微笑^{ほほえ}ましい光景に包まれる地上世界の到来を、皆様は必ず観ることができると我々霊団は確信しています。

皆様は世界中の人々が銀河霊となって蘇^{よみがえ}った社会で生活するようになります。このような社会から逃げ出したいと考える人がいるのでしょうか？ 皆様はあらゆる分野にこのイメージを広げていってください。どんな気分ですか？ 幸せな気分になりませんか？ これが、彼の愛と知恵と勇気からなる霊力のエネルギーです。皆様はこのエネルギーを「虹の掛け橋」を通して、今、受け取っているのです。

このような社会は、今が楽しい、明日が楽しい、1年後2年後あるいは老後が楽しい。寝て夢観る時間も楽しい。死んでからゆく霊界も楽しい。家庭で過ごす時間も楽しい。職場で過ごす時間も楽しい。仕事が終わってから同僚と過ごす時間も楽しい。恋人^{すきなひと}と過ごす時間は今まで以上に楽しいのです。

このように愛する者たちに囲まれて過ごす世界、すべて楽しいのです。

これ以上の救済があるのでしょうか？ 人類が救われた姿・社会をこれほどイメージできた人はいるのでしょうか？

さらに皆様にイメージを膨^{ふく}らませて頂きたいと思います。

彼の善想念は私の10億倍です。彼が想像したことは必ず実現するのです。でなければ創造主とは言えません。と言うことは、私の話を聞いて皆様がイメージした楽しさの10億倍の生き甲斐^{がい}のある光り輝く愛と知恵と勇気と希望に満ちた世界を彼は想像している筈です。

皆様に彼の想像する世界が観えますか？

これをイメージしてください。霊界の私たちがそのイメージをキャッチしますから、どうぞ精一杯理想的な世界をイメージしてください。

・
・

・

彼のイメージは今まで私が語ってきた世界の「銀河霊」を「大霊」に置き換えた世界なのです。これが、彼が想像し、創造する世界です。彼にとって想像も創造も同じだと言うことです。

皆様はこのような世界で、今日も楽しい、明日も楽しいと心躍るような光り輝く日々の中で楽しみながら銀河霊としての最後の物質界での修行を成就されて、皆揃って大霊となられるのです。

大霊レベルまで霊格が向上した皆様が霊界に戻れたら、宇宙を創造されるのです。

ではどのようにして？ この説明に入る前に皆様には思い出して頂きたいことがあるのです。

私が前章で、彼の救いの御業を語った箇所です。聖書には確かに美しい文章が並んだ神の天地創造の世界が描かれています。

彼が実際に創造されたのは真理と摂理の働きにより、愛と知恵と勇氣に満ちた光り輝く世界にまで皆様の魂を救う彼の御業が完璧な形で成就される、希望に満ちた霊界と物質界の宇宙なのです。

言葉を変えてお話しするならば、聖書の天地創造は物質界のどこか影・争い・嫉妬・傲慢・悪想念のある世界で、私が語った彼の世界は光と希望に満ちた微笑ましい精神の世界なのです。いずれが神の天地創造の意志を反映した物語であるのかは、皆様が「第4巻」まで読まれたとき判断がつくものと思われます。

では先ほどの話に戻ります。

皆様は、彼を見習って霊界と宇宙を創造されるのです。そして、真理と摂理を配し、この精神の世界で、混沌と漂う悪想念に満ちた魂を大霊レベルにまで救ってゆくのです。救われた膨大な魂から感謝され喜びに満ちた日々を皆様は過ごすことになるのです。「誰が、こんな苦しみに満ちた世界を創ったのだ」と。霊界で彼に文句を言っている銀

河霊を私は知りません。^{なに}何しろ毎日が楽しいのですから。そう「^{たの}楽」
しいのです。「^{らく}楽」の文字は前章の若木が「^{しろ}白金^{いろ}色＝白金^{りつ}律」の果実を
^{つい}遂に実らせた様子を彼は文字に表現しているのです。皆様は『この果
実は単なる「^{しろ}白色」ではないか？』とおっしゃるかも知れませんね。
でも彼はお茶目なのです。良く観てください。「^{しろ}白」の文字は四方に光
を放射しているのです。だから「^{しろ}白金^{いろ}色」です。笑えますよね。いや、
彼は恐るべき生命体・知者です。

皆様は「虹の掛け橋」をここまで読まれて、悪想念とは決別して、
^{おだ}穏やかで優しい気持ちで、そして^{りき}力まず（^{たの}楽な気持ちで）、趣味を楽し
みながら、^{すきなひと}恋人や家族や友人たちと共に輝く未来へ向かって、今スタ
ートされたのです。

次は「マホメット」に代わります。

2 桜の花

マホメット 地上世界はどうも争いごとが未だに絶えないようです。
そこで、皆様に次のような「^が欲^り深い^が我利^り我利^{もうじゃ}亡者と^や嫉妬^{もちや}深い^や焼き^{もちや}餅屋の
物語」をお話しします。その後、これを解説してまいります。

では、その物語は次のような内容です。

＊

あるところに、欲深い我利我利亡者と、嫉妬深い焼き餅屋が並んで
住んでいた。この2人は、とても仲が悪くて些^さ細^{さい}なことから良く喧嘩
していた。

その様子を空の上から観ていた天使が、喧嘩を治めようとして2人
の前に降りてきた。そして2人に向かって言った。「もう喧嘩は止め
なさい。そうすれば、あなた方の欲しいものを何でも差しあげますか

ら」と。しかし、天使は、これに次のような条件を付けた。それは「最初に欲しいものを言った者には、^{もちろん}勿論そのものを差しあげるが、後の者には、初めに求めた者がもらった 2 倍のものを差しあげる」と言うもの。

これを聞いた我利我利亡者は、欲しくてたまらないものをすぐに思い付いた。しかし、焼き餅屋よりも先に「これをください」と言うのを躊躇^{ためら}った。なぜなら、欲深い我利我利亡者であるから 2 倍のものを受け取りたかったからである。

一方、焼き餅屋の方も、先に欲しいものを言うのを躊躇った。理由は、嫉妬深い焼き餅屋であるから、相手が自分よりも 2 倍のものを受け取っている姿を見ることが、彼には耐えられなかったからである。このため、2 人とも黙って仕舞うことになった。

しかし、とうとう我慢できなくなった我利我利亡者は、焼き餅屋の首を絞め「お前が先に言わなければ絞め殺してしまうぞ」と怒鳴った。焼き餅屋は苦しさから「私が先に言うから離してくれ」と叫^{さけ}んだ。これを聞いて我利我利亡者は安心して手を緩^{ゆる}めた。すると、焼き餅屋は天使に向かって「私は片目を失いたいと思います。これが私の願いです」と言った。

その結果、後の者は先に言った者の 2 倍をもらうことになっていたもので、欲をかき過ぎた我利我利亡者は、両目を失って見えなくなってしまった。

＊

では、この物語に解説を加えてまいります。その前に、もしも、皆様の中で「これから自爆テロに向かう」と言う方がおられたら、その方にご質問したいのです。

(1) として「我利我利亡者」と「焼き餅屋」のどちらが好きですか？

恐らく「そんなこと決まっています。どちらも好みのタイプではあ

りません」と答えられると思います。

では、続けてご質問します。

(2) として「我利我利亡者」と「焼き餅屋」のどちらの人生を歩みたいとお考えですか？

恐らく「しつこい方ですね。好みでない者の人生を選択する者がいるのでしょうか？ ですから、どちらの人生も歩みたくありません」と答えられると思います。

今、ご自分がお答えになったことを記憶して置いてください。

では、説明に入ってまいります。

皆様にお話ししたいのは、この物語には、世の中で起こっている様々な争いに対する戒めが説かれているのです。

ではどのような戒めかと言いますと、1つは、皆様は周りの人よりも豊かで楽な暮らしを求めがちですけれども、この我利我利亡者のように度を越して欲張るような反真理的行為を選択すると、周りの人や国と利害が衝突して争いになったり、あるいは恨みを買ったりして、摂理の働きにより必ず不幸になりますよと戒めているのです。

もう1つは、自爆テロと言うのは、人類には信じられないと思いますが、まさに焼き餅屋と同じ感情が働いているのです。つまり「自分の片目（1つの命）を捧げますから、敵の目（命）を2つでも3つでもできるだけ多く奪ってください」と天使にお願いしているようなものです。しかし、こう言う心を持っている人は、自分も命を失ったり体の一部を失ったりして、かつ大勢の人々を不幸にしていますから、決して幸せにはなれないように真理と摂理ができあがっているのです。そうでなければ、世界の平和と調和と秩序が維持できないからです。この真理と摂理の働きは完璧で、何人も覆せませんと言う戒めです。

「これから自爆テロに向かう」と言う方は、ご自分が最も嫌う嫉妬深い焼き餅屋的生き方を知らず知らずのうちに選択しながら歩まれて

いると申しあげたいのです。

自爆テロのように「自国の平和な世界」を求めて正しいと判断して選択した道を、命を懸けて進まれていっても、そこに敵対意識のような悪想念があったのでは「平和な世界」には辿り着けないのです。なぜなら、このような悪想念は「霊体は周りの霊体を幸せにするために存在する」と言う真理に反しているからです。この真理こそが（私が説いたイスラムの教え）宗教の神髄だからです。

ここで、宗教について少し掘り下げて考えてまいります。

宗教とは神仏の教えを説くものです。大霊や銀河霊は地上の概念で言えば神仏です。皆様が銀河霊であることに目覚めるためには、そして銀河霊から大霊になろうとしたならば、神仏の教えを説く宗教を学ばなければなりません。宗教によって、己がいかに悪想念に満ちた日々を過ごしてきたのかを知らされるのです。そして、これを善想念に変えてゆかなければ、己も周囲の人も決して幸せにはなれないのです。道徳レベルが示す善行では真理や摂理のレベルまで踏み込んで悟ることは困難です。

では霊界に住む我々はどのような宗教（教え）を選択して学んでいるのか？

シルバーバーチも申しているとおおり、銀河霊界は彼（孝^{たか}ちゃん）の教えで統一されています。

確かに地上に存在する宗教によって人々が今の霊格レベルにまで引き上げられてきたわけですから、これらの宗教が成し遂げた功績は偉大であることは認めます。「虹の掛け橋」を読むとき、これらの教え（各教典・霊訓の知識）がベースになっていることも認めます。しかし、銀河霊である我々は、敵を愛することを説いていても、これをいかなる状況においても実践できるレベルまで人々を導くことができていな

いが故に、戦争を止めさせることも平和で秩序ある世界を創造することも未だにできていない地上の宗教には興味が持てないのです。

ですから、自爆テロで自爆した方、その犠牲になった方は、すべて霊界で彼の教えを学んでいると申しあげたいのです。彼の教えを学べば、あっという間に敵を愛することができますし、かつ敵と思えるような人たちがそもそも存在しない世界ができあがるのです。

ここまで申しあげても自爆テロに向かうと言う方はどうぞ、その道を選択してください。我々では皆様の自由意志を止めようがありませんから、これ以上申しあげても意味がないと思いますし、時間の無駄でもありますので、ここでは、自爆テロを行って死んで霊界にこられた方々のお話しをしたいと思います。

皆様が霊界にこられると、そこで待っている魂がございます。それは誰だと思いませんか？ 「霊訓」では何と書かれていますか？ 「霊界通信」では何となっていますか？ 身近な親族ですか？

答えは創造主である彼自身です。

皆様は創造主を遠い存在とお考えですから、このような光景を思い描くことができないのです。彼は、私の善想念の10億倍なのです。皆様も想像してみてください。皆様の子どもが死んで霊界にきたとき出迎えたいと思いませんか？ 彼はこの思いを誰よりも強く持っているのです。「霊訓」に書かれているように『霊界に住む我々霊体は「イギリス」と「南アフリカ」に同時に立つ』ことが可能です。彼は究極の生命体ですから、彼は地上の人間の形態を取りながら、霊界のすべての階層に立って、霊界入りして間もない霊体を癒すことも法を説くことも裁くことも可能です。目的は？ すべての霊体を天使 or 天女に変えるためです。

ですから、自爆テロで亡くなった方の傷付いた魂は彼の^{あたた}かな愛に包まれて、自分が銀河霊であったことを自覚できるレベルにまで急速

に回復します。同時にこのテロの犠牲で傷付いた魂も急速に回復します。

自爆テロリストたちは「敵」であると認識していた「相手」が、実は、その素は「とても素敵^{すてき}な仲間」であったことを誰もが納得する形で彼から知らされるのです。そして、銀河霊同士が引かれ合う愛の絆で結ばれます。そこには憎しみなどの悪想念は存在せず、善想念のみが空間を満たしている、そんな世界なのです。

ここで、皆様には疑問があるのではないかと思います。

それは「なぜこのようなことを霊界通信でキャッチできなかったのか？」と言うことです。

その答えは、銀河霊として目覚めていない皆様と、死んで霊界にきて彼の愛に包まれて急速に銀河霊にまで回復した魂の波長の違いによって、このことまで霊界通信では受信できないからです。

目覚めていない皆様の霊格は人レベルです。惑星霊がこの 10 億倍だと考えてください。恒星霊がこの 10 億倍です。目覚めた銀河霊はさらに 10 億倍なのです。

私 「第 4 巻」で触れますが、ここで表記された 10 億倍は、正しくはすべて 1000 億倍と読み替えてください。

マホメット 皆様は他の無数の惑星で修行されて、惑星霊、恒星霊レベルの修行をすでに卒業している魂ばかりなのです。皆様が「虹の掛け橋」を読んで銀河霊レベルにまで霊格を取り戻されたとき、この内容が霊界通信でキャッチできる筈です。

次に私は、愛と知恵と勇氣に満ちた彼の霊力を受け取った霊体が、どれほどの愛を実践しているのかを説明してまいります。

我々霊団が何度も申しあげているとおり、彼はすべての霊体を分け^{へだ}隔てなく愛し霊力を注いでいます。今彼はこの文章を「栃木県さくら市」の桜の花を観ながら書いています。いや、正確には「さくら市」

の桜の花の^{そば}でコメディドラマを観ながらと表現すべきですね。いやいや、正確には、これに「馬鹿笑いしながら」という言葉を付け加えると彼の今の状況がより皆様にイメージできるかも。

私 マホメットさん。何か私のこと言いましたか？

マホメット いや、別に。もう少しで私の語りも終わりますので、それまでお利口さんにしていてくださいね。

私 でも、マホメットさん。変なこと言ったら、私、あなたに干渉するかも。

マホメット そうはさせません。

私 強気ですね。でも、どうやって？

マホメット 私、そのコメディドラマ、先日大地さんたちと行った例のカラオケルームで観ていますので、結末知っているのです。

私 それが？

マホメット あなたに干渉されそうになったら、その結末、教えちゃいますから。

私 それはまずいです。

マホメット でしょう。だからお利口さんにしていてください。

私 はい。

マホメット それに、皆様が地上での修行を終えて霊界の入り口を潜^{くぐ}られると、そこで皆様お1人おひとりの霊格に合った柔らかな光で包もうとして待っている彼と対面する場所が、無数の桜が満開に咲き誇る輝く世界ですから、ここでは彼の霊力を受け取った桜が、どの程度の愛と知恵と勇気を実践しているのかについてお話しします。

先ず皆様に質問します。

(1) として、桜の花は美しいと感じますか？

(2) として、その花から愛と知恵と勇気を感じることができますか？

(1) についてはどなたも「美しいと感じる」と答えられると思います。問題は(2)です。この質問に対して「愛と知恵と勇気を感じる」と答えられた方に更に質問します。

(3) として、どの程度の愛と知恵と勇気を感じますか？

(4) として、桜の花が美しい理由がわかりますか？

皆様には、この(3)と(4)の質問を(一種の)公案として答えを探って頂きたいのです。

ちなみに、この公案は何気ない風景を素材にしたものですが、釈尊が一輪の花を翳し迦葉に伝授した「拈華微笑」の悟りとは比較にならないほど奥深いと申しあげます。なぜなら、我々五霊であっても地上時代の霊格ではこの公案が解けなかったのです。解けるようになったのは霊界に戻って彼の教えを学んでからです。ですから、我々が地上時代に説いた教えが書かれている「聖書」「コーラン」「仏典」「霊訓」を学んで実践したレベルでは解くことが困難であると申しあげます。

もしも「聖書」「コーラン」「仏典」「霊訓」「❤️❤️」こそが最高の教典であると主張される方は、この公案が解けてからそうおっしゃってください。もし皆様が学んでいる教典がそれほど素晴らしいものであるならば、この公案はものの1分ほどで解ける筈です。

この公案が解けた方に申しあげます。解けたのは、ここまで「虹の掛け橋」を読んで彼から受け取った霊力によるものか、あるいは偶然彼の退職時のあいさつから答えの大部分を聞いて仕舞ったかのいずれかです。なぜなら「虹の掛け橋」に出合っていない時点に遡^{さかのぼ}って、

この公案が解けるレベルの霊格であったのか、あるいはこの公案の答えが示す桜と同程度の想念をもって、桜の花を観賞したことがあったのかを、お1人おひとりご自分の霊格を検証されれば、おわかり頂けると思うからです。

皆様はこの公案を通して、観える世界が一変して本当の美しさと本当の宗教と彼に質問したり接したりする者が身につけるべき品格を理解できるようになります。そうなったとき、皆様は何気ない日常の風景は、皆様の霊格を大霊レベルに引き上げるための法話の素材として創造されたもので満ちていることに気付く筈です。

皆様なりの答えに辿り着いちゃったと思われる方は、以下を読み進めてください。

では、答えを解説してゆきます。

桜の花は葉が出る前に咲くことは皆様ご存知のとおりです。実はここに、桜が人類に示している偉大な愛と知恵と勇氣に満ちた善想念が放射されている実相の姿を観ることができるのです。

もし、葉が出てから花が咲いた場合を考えると、葉が花を覆い隠して仕舞って、これでは例年皆様が見ている桜の花の美しさが半減してしまうのです。そこで桜は健^け気^{なげ}にも、最も美しい状態で人類の目を楽しませようとして葉が出る前に花を咲かせているのです。これが桜の愛と知恵です。

ではこれをさらに掘り下げて解説してまいります。桜の花が咲く時期はいつなのかを考えて頂きたいのです。「春です」と答えられてしまってはアウトで話が終わって仕舞い、思考が停滞した状態です。ここは「厳しい冬に耐えて最も栄養不足になっている時期です」とお答え頂きたいのです。すると皆様は実相の彼の思考の世界・満開に咲き誇る桜の世界に入ってゆけます。つまり、このとき桜は渾^{こんしん}身の力を振り

絞って見事な花を咲かせているのです。普通であれば、葉を茂らせ光合成を行って十分栄養を蓄えてから花を咲かせる道を選択するのです。でもこれでは先ほど申しあげたとおり、花の美しさが半減して仕舞うのです。桜は最も栄養不足の時期に、我が身が枯れて（死んで）しまう危険があることを承知の上で、人類に最上の美しさを観せようとして、葉が出る前に花を咲かせる道を選択したのです。ここに人類に命を捧げている桜の偉大な勇氣と愛が示されていたのです。

ですから（3）の答えは「命を捧げるほどの愛と知恵と勇氣」です。

そして（4）の答えは「第 24 章 黄金律」のところでイエスが語っている「愛と知恵と勇氣からなる善想念で宇宙空間を満たす、と言う黄金律を桜は立派に実践しているから美しい」のです。

このことを知ると、皆様も、来年からの桜の花観が楽しみになってくるのではないのでしょうか？ そして桜たちもきっと皆様を歓迎して、これまで以上に美しい花を見せてくれると思います。来年は恋人や家族であるいは職場の同僚と、ちょっとした桜と言う大自然との対話ですね。彼の教えに出合った効果の 1 つで未来が楽しみになるのです。

自爆テロによる命の使い方ではなく、桜のような命の使い方を選択される方が「アラー神」や「主」の御心に適っているのです。

植物レベルの桜でさえ、彼（大地）から靈力を受け取ると、このように善想念で心を満たし、周囲に命を捧げるほどの愛と知恵と勇氣を示すようになるのです。皆様は本来 1000 億の恒星靈を束ねる銀河靈ですから、皆様が「虹の掛け橋」を通して彼が放射している靈力を受け取ったならば、自爆テロにはゆかず、桜以上の健気な愛と知恵と勇

気に満ちた善想念を周囲に放射される偉大な霊体によってゆきます。

次に、私は彼が創造した言葉の無限性について説明してゆきます。

言葉には音声と文字が表現している形の 2 つの要素があり、この音声と形の中に彼は神仏の教えを吹き込んできたのです。彼の創造力は無限ですから、言葉に付与した音声と形が織りなす表現力をもって彼が説く神仏の教えは無限です。

そして、言葉にはもう 1 つの構成要素があります。それは想念です。彼が法を説くとき、言葉は愛と知恵と勇気からなる善想念で満ちています。したがって彼が創造した言葉は、無限性を持った善想念に他なりません。

地上時代の五霊も含めてですが、彼によって地上に^{つか}遣わされた預言者たちは、言葉が持っている無限性を自分のものとして吸収しきれていなかったため、彼から学んだ高遠な教えを^{とぼ}乏しい言葉でしか表現できなかったのです。

釈尊でさえも、草花が示す愛と知恵と勇気の偉大さを言葉で表現できなかったのです。そしてこれらの、言葉で表現することができない天地の教えを「天地不書の教典」と名付けたのです。これが今までの預言者たちが人類に示した救いの御業・霊力の有限さです。彼との決定的な違いはここにあるのです。

彼によって、これまでの預言者たちが言葉で表現できなかった高遠な教えが、誰でも理解できるたとえ話と易しい言葉で説かれてゆきます。人類にとっては無限性を持った概念的なイメージでしか認識できない「白金律」も、彼の無限なる霊力（究極の善想念）を持った言葉によって説かれてゆきます。

このようなことから、霊界の魂は彼の教えを選択して学び実践していると言うことが、皆様にもご理解頂けるものと信じます。

ここまで、我々銀河霊である「シルバーバーチ」「イエス」「モーゼ」「私(マホメット)」によって皆様を「人レベルの霊格」から「銀河霊」の幼稚園「さくら組」レベルにまで向上させてまいったつもりです。

このあとは「釈尊」と「迦葉」に少し補足してもらって、その後、彼に皆様を大霊レベルの魂にまで向上させて頂こうと考えています。

ここまで「虹の掛け橋」を読まれて、この本に出会う前のご自分と比較して頂きたいのです。

- ・どの程度霊格が向上したのか？
- ・どの程度愛が芽生えたのか？
- ・どの程度神仏の知恵を身につけられたのか？
- ・どの程度勇気が頂けたのか？
- ・どの程度生きる喜びが湧いてきたのか？
- ・どの程度善想念が膨^{ふく}らんできたのか？
- ・どの程度意地悪な心や憎しみなどの悪想念が小さくなってきたのか？
- ・どの程度カラオケ（冗談）が上達したのか？
- ・どの程度コメディドラマの楽しさ（ユーモアのセンス）が理解できるようになったのか？
- ・どの程度、家庭や職場や学校で笑いが増えたのか？

・
・
・

このように皆様をあっという間に変えたのは何ですか？

それは、彼の救いの御業なる霊力です。彼の御業が完璧だと実感されませんか？

ここまで読まれても、彼を受け入れられない方に、釈尊から彼が創

造した公案を出して頂きます。

もし、人類レベルでは手も足も出ないこの公案を、完璧（釈尊レベル）に正解されるほどの驚くべき超高級な霊格者・霊力者の中で「彼は^大霊ではない。自分は彼よりももっと素晴らしい公案を、天地を動かして創造できる」と、そうおっしゃられる方がおられたら、どうぞ我々霊団に向かって、その念を送信してください。

我々は、彼を幾重にも取り囲んでいる無数の魂たちに道を開かせ、その方を我々1000億の銀河霊が総出でお迎えし、彼に代わる我々の最高指導霊として、その御座へご案内いたします。

では「釈尊」と「迦葉」に代わります。

3 ひび割れた水瓶（前段）

迦葉 前節でマホメットが説いた「桜の花」に関する公案は実に見事です。このことを通して「拈華微笑」と言う禅の究極の境地を言葉で表現して仕舞ったわけですから。まさか、このようなときが訪れるとは思っていませんでした。

釈尊、私の後ろには達磨、慧可、慧能、馬祖、百丈、南泉、潯山、趙州、徳山、雲門……と言う禅の高弟たちが控えています。私たちは五霊の1人であるマホメットから、禅の究極の境地は善であること、つまり状況がどのように変化しても、善想念で心を満たして実践すると言う黄金律であったことを伝授されました。

釈尊 迦葉よ。これはあくまでも黄金律であって白金律ではないのです。つまり禅の究極の境地ではないということです。しかし、黄金律は今の我々銀河霊が認識できる最高の境地ですから、これが実践でき

れば十分です。

迦葉 釈尊。善想念で心を満たして実践することよりも、さらに偉大な境地が存在するのでしょうか？

釈尊 今の私レベルではこれ以上の境地を語ることはできません。ですから、これは私を含めた五霊が認識している大霊への道であり神仏の教え・宗教であり白金律（実際には黄金律）です。しかし、これと彼が認識している白金律はどうして異なるのかと言うと、我々の善想念は黄金の輝きレベルであるのに対して、彼の善想念にはこれとは比較にならないほど高遠な白金の輝きがあるからです。

迦葉 ところで「第 10 章 7 仏との対話」のところで書かれている「仏から授けられたヒントがなぜ 5 円玉でなければならなかったのか？」と言う公案も「第 13 章 1 仏との対話」のところで書かれている「コップに太平洋のすべての水を注ぎ入れる」と言う公案も、実に見事です。

釈尊、これと同等の公案をご存知ありませんか？

釈尊 私は彼の公案を数多く解いてまいりましたから、その素晴らしさについては誰よりも知っているつもりです。しかし、彼が私のために創ってくださったその公案をここでお出ししても、これを読まれている方が理解できるかどうか疑問なのです。

彼の光が強過ぎて、わけがわからなくなる世界に読者の皆様をお連れしたのは、折角^{せっかく}「シルバーバーチ」「イエス」「モーゼ」「マホメット」が、ここまで読者の皆様を音響の良いカラオケルームと画像の美しいコメディドラマの視聴覚室まで導いてこられたのに、それが水の泡に成り兼ねない結果を招いてしまうのではないかと心配なのです。

迦葉 意外です。釈尊が心配性だったとは？

釈尊 いや、誰でも少しはね。ですから、時には心配性で時にはそうでないこともあると言うのが私の実相の姿に近いです。

迦葉 不思議です。釈尊が語るとすべて悟りの境地の響きがあります。

釈尊 今、音響効果抜群のカラオケルームで語っていますからね。

迦葉 あははは。そんなリアルな響きの意味ではないのですが……。では、話を戻します。釈尊レベルの公案ではなく、この迦葉レベルに光を落としたものを出して頂けませんか？

釈尊 そこまでおっしゃるのであれば公案をお出しします。ではどのような公案をご希望ですか？

迦葉 どのようなとは？

釈尊 公案にはそれぞれ彼の意図が隠されています。ちなみに「5 円玉」では、公案が解けたと言って有頂天になっている修行者の慢心を戒める彼の偉大な知恵を味わって頂くことによって、この音響効果の良い世界（の硬貨）は、彼が司っていることを確認して頂くためのものです。

そして「コップに太平洋のすべての水を注ぎ入れる」という公案は、広い視野で物事を捉えることを学んで、時にはスケールの大きな人間に、またある時にはそのスケールの大きさに捉われずに、魂を成長させて頂くためのものです。

迦葉は公案を通してどのようなことを学んだり味わったり、あるいはチョメチョメしたいと考えているのですか？

迦葉 できれば両方の要素を併せ持つ公案を希望します。

釈尊 あははは。欲張りですね。

迦葉 釈尊の教えでは、これは「大欲^{たいよく}」と呼ばれ、多くの人々を幸せにするための欲望で許されるものですよね。

釈尊 そんなこと言いましたか？

迦葉 釈尊が忘れられるのも無理ありません。私も霊界にきてからは専^{もっぱ}ら彼の教えばかりですから、ここ 2300 年ほど仏典は読んでいませんが、真言密教の理趣^{りしゅきょう}経の中に、確か？

釈尊 言った言わないの話は、まあ良いでしょう。このことが真理であればね。でも欲の強さに関しては程度問題を含みますので注意してくださいね。誰かが言っていましたよ、「中道^{ちゅうどう}」って。

迦葉 あははは。懐かしい響きです。いや、言葉です。

釈尊 では、次の公案を解いてください。

初めに、インドに伝わる「ひび割れた水瓶^{みずがめ}」と言う民話をお話します。内容は以下のとおりです。

＊

インドに1人の水汲み男^くがいました。彼の仕事は、天秤の左右の大きな水瓶に水を汲んで、丘の上にある主人の館^{やかた}まで運び上げることでした。

ところが館に着いたとき、左側の水瓶には並々^{なみなみ}と水が入っていたのですが、右側の水瓶にはひびが入っていたために、水は半分しか残っていませんでした。

それで、水瓶は「自分はひび割れていて役に立たないから取り替えてくれ」と男に頼みました。しかし、男は何も言わずに水を運び続けたのです。

やがて2年あまり経ったとき、たまり兼ねたひび割れた水瓶が「自分のようなでき損^{そこ}ないを使っていたのでは、あなたの努力が報われなから、完全な水瓶を使って欲しい」と、また男に頼んだのです。

そこで、男はゆっくりと、丘の上から振り返ったのです。すると、（帰り）道の右側には美しい花々が咲き誇っていたのです。

水汲み男は、ひび割れた水瓶に優しく次のように言ったのです。「最初から水漏れには気が付いていたのだよ。それで、お前のひび割れを役立てようと考え、私は道の右側に花の種を蒔いて置いたのだ。お前のひび割れのお蔭で雨の降らない土地なのに、こんなに見事に花が咲いた。ご主人様は、毎日、新鮮な水と咲き誇る花の美しさをとても喜

んでおられるのだ」と。

＊

これが民話の内容です。

迦葉 とても素晴らしい民話ですね。

釈尊 私もそう思います。

では、公案です。

この民話に最も相応^{ふさわ}しい日本の1文字を、イメージしてください。

迦葉 これが解けたとき、この音響効果の良い世界は、彼が司っていることを確認できるのですね？ そして魂も成長できるのですね？

釈尊 はい。できます。

迦葉 わかりました。心を浄める実践を通して、この公案を解いてきます。

読者の皆様もこの公案にチャレンジしてください。

大自然と対話しても良し。

「虹の掛け橋」を何度も読み返されても良し。

尊敬する先達^{せんだつ}と共同でこの公案に当たっても良し。

霊界通信で答えを探っても良し。

1年でも2年でも許される常識的な時間レベルで心ゆくまで、ただし熱中し過ぎて交通事故を起こさぬように気を付けながら考え、この公案の素晴らしさを味わって、考えることを楽しんでください。

なお、音響効果の良い視聴覚室で、彼から退職のあいさつの中で「もののけ姫」と「栃木県民の歌」の調べと共に、この答えを聞いて仕舞った40人ほどの方は「この公案にチャレンジできないではないか」

と鬼怒川^{きぬがわ}のような形相^{ぎょうそう}で怒らないでください。この後も公案はいくつ

も登場しますので、それにチャレンジしてこの憂^うさを晴らしてください。それに彼が語った答えは 100 点満点中 50 点までですから、残りの 50 点部分について答えが示す文字を良く観て頂いて、彼から人類にどのようなメッセージが語られているのか、この部分を公案として探ってください。それと、これでも不満であれば、彼がこの 40 人ほどの方々にだけ特別にお出しした『え！ どうしてあの人に「もののけ姫の歌」をプレゼントするの？ 「〇〇の歌」が良いところよ』と言う、素敵な公案が解けたのかな？ と言う私からの問い掛けに対する各自の答えをもって納得してね。

答えが分かったと思われる方は「第 30 章 1 ひび割れた水瓶（後段）」をご覧ください。（釈迦^{しゃか}より）。

第 27 章

^{じゅうなん} 柔軟に対応する

1 出入り禁止

とある温泉宿^{やど}のマッサージ師の D 先生と E 先生とそのお客さんで私の知人で作家の F さんの会話です。

F D 先生。先日はお世話になりました。マッサージの効果は絶大です。血の巡りと頭の回転が良くなって文章を書くスピードもアップしました。なので、今日は時間を延長して 60 分コースでお願いします。

D 効果ありましたか。それは良かった。それでは、今日は E 先生にお願いしましょう。

それと、マッサージ中は静かにしてくださいね。

F え！・・・はい。

では E 先生よろしくお願いします。

E こちらこそよろしくお願いします。それでは、こちらのベッドにうつぶせになってください。

F はい。・・・こんな感じで宜しいですか？

E 結構です。特に凝^こっている箇所はどこですか？

F 前回同様、肩と首裏です。

E では、最初にそこを解^{ほぐ}してゆきます。・・・力^{ちから}加減はどうですか？

F ^{ほか}他のお客さんは、多少の痛みには耐えているのでしょうか？

E 人それぞれです。と言うと力強過ぎますか？

F すみません。正直に言うとうつ痛いです。

E ではこのくらいでは？

F まだ痛いです。

E ではこのくらいでは？

F まだ。

E では？

F まだ。

E お客さん。私全然力加えていないのですが。

F そうでしたか。体格の素晴らしい先生から発せられる目に観えない威圧で首裏を押さえられていた感じがして、それが痛みとなっていたようです。

E そんな。・・・おふざけは止めて^や真面目^{まじめ}にゆきましょう。

F わかりました。では 3 番目の力加減でお願いします。

E このくらい？

F 4 番目で。

E このくらい？

F 5 番目で

E このくらい？

F 6 番目で

E お客さん。私全然力加えていないのですが。

真面目に答えて頂かないとあつと言う間に 60 分きちゃいますよ。

F わかりました。では、3 と 4 番目の中間の力加減でお願いします。

E 今度は実に細かい指示ですね。

F 一度言ってみたかったのです。

E え！ どう言うことですか？

F 先輩と神戸牛のステーキを食べに行った時のことですが、焼き方加減を私は「ミディアム」と注文したのに対し、先輩は「ミディアムレア（ミディアムとレアの中間）」と注文したのです。このとき、もし女性がいたら私はアウトだと思い、いつか私も「ミディアムレア」と言ってみたかったわけです。そしてその場面が今日とうとう訪れた

ので言ってみました。

E 訪れたって？ ここに牛肉はないですよ。

F 在り来り^{あきた}の場面で言っでは、言葉の無限性は引き出せないのです。
それに先輩の猿真似^{さるまね}はできません。作家の意地です。

E ほー。では、言ってみた感想は？

F 快感です。

D 2人とも静かに。

E・F はーい。・・・怒られてしまいましたね。

E お客さん静かにしましょう。

F 周りにお客さんが居なくとも静かにしないとダメなのですか？

E そうです。

F 理由は？

E 話していると手元が狂うからです。私はご覧の通り体格が良いものですから、マンモス級の力を発揮できるのです。それに引き替え、お客さんの首は細いですから、私は手元が狂わないよう、最大級の注意を払っているのです。

E もし手元が狂うとどうなります？

E お客さんの場合即死です。

F わぁーお。それはまずいです。まだ好きな娘^ことチューしていないので。

E と言うことは好きな娘はいるの？

F 女性^{ひと}を好きになったことはあります。

E 付き合いは長かったの？

F 一度会っただけです。

E それで好きになった？

F ええ。

E 美人さんなのですね？

F それが顔は観えなかったのです。

E 後ろを向いていたの？

F いえ。正面でした。

E それでは、覆面でも付けていた？

F まさか。

E ではなぜ？

F 彼女、目にゴミが入ったのか、あるいは眼鏡が曇ったのか理由はわからないのですが、私の目の前で眼鏡を外したのです。

E え？ お客さんが眼鏡を外したわけではなく、彼女が外した？ そのことと彼女の顔が観えなかった理由とどう繋がってくるのですか？

F 作家を希望していて現在「虹の掛け橋」を書いている私の知人がいるのですが、この者によると「他人の目線に立って行動すると幸せになれる」と言うので、最近この言葉を信じて実践していたのです。それでこのときも実践中だったのです。つまり彼女の目線で世の中を観ていたのです。なので、彼女が眼鏡を外した途端、私の視力が奪われ彼女の顔が観えなくなったわけです。

E あははは。お客さん。おふざけモード継続中ですね。

F 先生。そんな。私、いたって真面目に話しているのです。

E え？ そうなの？

F そうです。

E では彼女のどこが気に入ったの？

F 「大丈夫」と言う 3 文字をととても流暢に話されたところですよ。

E 3 文字？ 平仮名では、倍の 6 文字ですが？

F 平仮名では感じが出ないのです。

E あははは。お客さん。この話フィクションですね。

F 私は作家ですから、先生がそうおっしゃるのであればそう言うことで。でも先ほどの知人の話では、想像したことは創造されるそうです。

D 2人とも静かに。

E・F はい。・・・また、怒られてしまいましたね。

E お客さん静かにしましょう。

F わかりました。私は修行を極めていますので 30～40 分間黙っているくらい、へいちゃらです。

E 随分スケールが小さいですね。修行を極めている人は 30～40 年間と言うのではないですか？

F 鋭いですね。実は皆さんには内緒にしていたのですが、私は超が付くくらい社交的でかつお喋りなのです。周りに人が居るケースで黙っていた最長時間は 5 分間なのです。ですから、6 分以降は未知の世界なのです。

E では、8行^{ぎょう}前に言った「30～40 分間黙っているくらい、へいちゃらです」と言ったのは？

F 嘘です。無理ですね。

E では、お客さん。このマッサージルームへの出入り禁止第 1 号と言うことになりますね。

F これから週 2 回のペースで来ようと思っているのですが、私のような、お得意様でも出入り禁止になるのですか？

E お得意様だからこそ出入り禁止になるのです。

F ほー。理由は？

E お得意様とは頻^{ひん}繁^{ばん}に来店される方です。出入り禁止になる方は迷惑^{たひ}行為をされる方です。つまり頻^{ひん}繁^{ばん}に来店され、その度^{たび}に迷惑行為を

される方は、もはやお得意様でなく、出入り禁止になるのです。

F あははは。先生、もしかして理論武装して、私を言い負かそうと
していますか？

E えへん。そうかも。

F 面白いです。私を唸^{うな}らせたなら、先生は私を越える大作家になれる
ことを保証します。実はこれも内緒にしていたことですが、私は単な
るお喋り屋ではないのです。大雄弁家でもあるのです。ですから、私
がもし出入り禁止になった場合、この雄弁家の才能で先生も道連れで
す。

E え！ どうして私まで出入り禁止になるのですか？

F 先生との遣^やり取りをすべて文章に書き記^{しる}しました。本書がその証
拠になります。つまりお喋りには必ず相手が必要で、本書は、私のお
喋り相手が E 先生であることを示しているのです。ですから、私が出
入り禁止になるときはイコール先生もそうなるということです。しか
も私の場合単なる出入り禁止で済みますが、先生の場合職を失うこと
になり深刻です。

E それは困ります。

F ちなみに出入り禁止の決定権者は誰ですか？

E D 先生です。

F なーんだ。だったら安心です。D 先生は私たちを出入り禁止にで
きませんから。

E それはどうでしょう？

F 大丈夫。できません。

E 理由は？

F 私は観音菩薩だからです。

E え！ いきなり何を言い出すのですか？

F まー。続きを聞いてください。観音とは「音を観^みる」と書きます。

今、私、目隠しをされてマッサージを受けていますが、この状態のとき聴覚^{ちょうかく}は最も研ぎ澄^とまされているのです。私はこの状態で、ある方を注意深く観察していたのです。

E それは誰ですか？

F D 先生です。

E え！ お客さん。目隠しされた状態で、部屋の外の廊下^{ろうか}に立っている D 先生の姿が観えるのですか？

F 先ほど言ったように、観音ですから D 先生の音を観ていたのです。

E お客さんは何が言いたいのですか？

F まー。続きを聞いてください。社交家は社交家を、お喋り屋はお喋り屋を、雄弁家は雄弁家を正確に観抜きます。私も D 先生もお互いにお喋り屋であることを観抜いているのです。私はいつも大きなバッグを持ち歩いています。このバッグはドラえもんのお腹^{なか}のポケットと同じでいろいろな物が入っているのです。私はここからストップウォッチを取り出して、お喋り屋の D 先生がどのくらい黙^{もく}っていられるのかを測定したのです。結果は最長で 5 分間です。私と同じです。D 先生は廊下の通行人に「いらっしゃいませ。ごゆっくりどうぞ」と声を掛けています。この声掛けはお客様への接待の気持ちの他に目的があります。それはお喋り相手を探していたのです。私の観察結果では 50 人に 1 人くらいの割合でお喋り相手が見付かっていたようです。この相手も実はお喋り相手を探していた通行人なのです。ですから、超お喋り屋が出合ったわけですから話が弾^{はず}まないわけがないのです。

E なるほど。で、これがなぜ D 先生は私たちを出入り禁止にできないことに繋がるのですか？

F それは、先ほど言ったドラえもんのポケットなる私のバッグから騒音測定器を取り出し密^{ひそ}かに室内に設置して、(室内の) 私たちの会話と廊下で話す D 先生の音量を測定したのです。結果は私たちが 75 デ

シベルで少し煩^{うるさ}いですが、D 先生の場合、良く「あははは」と笑いますのでこのとき、100 デシベルに達し、とても煩いと言う結果でした。

ですから、もし D 先生が「2 人とも出入り禁止」と言ったら、私、この測定データを D 先生にお見せして「先生も一緒です」と言おうと思います。

E これは驚きました。では証拠はバッチリですね。

F はい。

E お客さん。少し気になることがあるのです。

F 为什么呢？

E 2 つあるのです。1 つ目は、お客さんスケールが大きな話をする割には、施術後のスタンプ（ある程度溜まると 40 分のマッサージが無料になるもの）を押し忘れると、走って戻ってきて押ししてもらっていますが、この光景、笑いを誘い、スケールが大きい人のイメージと異なるのですが？

F あー。そのことですか？ スケールが大きくなり過ぎると、庶民感覚とかけ離れてしまって、良い文章が書けないのです。スタンプは私を庶民感覚に引き戻してくれるのです。

E へー。庶民感覚がないと良い文章が書けないのですか？ 初めて聞きました。

F そうでしょう。私も初めて言いましたから。

E あははは。では、2 つ目です。私はこの物語の中でとても、お喋り屋さんとして登場しますが、実際の私はもう少し寡黙^{かもく}なのです。ですから、もう少しこの寡黙さを含んだ青年として書き直してもらえませんか？

F その必要はありません。

E それはなぜ？

F 私は^{おおかみ}狼男だからです。

- E** いきなりなぜそうなるのですか？ 驚かされます。
- F** あー。これはたとえ話です。
- E** どうな。
- F** 狼男は感染性が高い生き物として有名です。
- E** 有名って。存在していればね。
- F** まー。続きを聞いてください。私と 60 分間話をした者は、知らないうちに私の^{きば}牙に^か噛まれ、超社交家で超お喋り屋で大雄弁家に変身するのです。カラオケルームに私が入れば、そこの人たちは同じように変身します。この物語を読み終わった人たちも同じです。これが理由です。
- E** お客さん。丁度時間です。お疲れ様でした。
- F** あーう。お世話になりました。先生のマッサージがとても気持ち良くて、ずーっと。^{いびき}鼾^かを掻いて寝ていました。
- E** あははは。お客さんの鼾。正確な日本語になっていて、私と対話していましたよ。
- F** 先生。それは気のせいです。では、また来週お世話になります。
- E** お待ちしております。もし、お客さんが出入り禁止になっていなければ？
- F** 先生。会話のような音、あれは鼾ですから。
- E** であれば、出入り禁止はないです。

2 長生きできるタイプの人

私はある人から「長生きできるタイプの人はどういう人だと思いますか？」と質問を受けたことがあります。そのとき「生き甲斐^{が い}を持っていて、健康で体力のある歌の^{う ま}上手いコメディ映画^ず好きの人」と答えたのです。ところが、その人が言うのには「生き甲斐」とか「健康」

とか「体力」とか「歌の上手さ」とか「コメディ映画好き」よりも、もっと大切な条件があると言うのです。「それは何か？」と尋ねたら。

「激変する環境に柔軟^{じゅうなん}に対応できること」 この条件を満たす人こそ、最も長生きできるタイプだと言うのです。

これを聞いて最初はピンとこなかったのですが、良く考えて吟味してみると「健康」とか「体力」とか「カラオケとコメディ映画好き」の象徴的な恐竜でさえも、激変する地球環境に対応できなかったが故に絶滅していったわけです。これに対して、それまでは恐竜の餌食^{えじき}になっていたひ弱な小動物でも、環境の変化に柔軟に対応できた物は今でも地球上で生き続けているわけです。ですから「激変する環境に柔軟に対応できる人」が長生きできるタイプだと言うのは真理です。

そしてこの真理は人生の様々な場面において試され、長生きできるかどうかは、これらのすべての場面で合格点を取る必要があります。

私たちは、様々な環境に身を置いて生活していますが、大部分は職場(広義に捉^{とら}えて刑務所でのお勤^{つと}めを含む)と家庭で過ごしています。ですからここで上手^{うま}く対応することが長生きの秘訣^{ひけつ}です。

たとえば職場に関しては、今まではとても過ごし易かったのに気難しい上司や部下や刑務官に出合ったような場合や、お客様や面会者が急に怒り出した場合、あるいは会社が倒産して職を失ったり刑期を終えて出所したりした場合、これらはどれも職場環境が激変したと言えます。このような様々に変化する場面にも柔軟に対応できる人間に、自分も、かつ狼男のように周囲の人々も変えてゆくことが長生きに繋がるのです。

また家庭に関しては、いつもは天使のように優しい奥さんや旦那さんが怒り出して鬼のように変わった場合、あるいは今までは素直だった子どもが家庭内暴力を振るうようになった場合、これらはいずれも家庭環境が激変したと言えます。このように激変した環境・状況にお

いても柔軟に対応できる人、つまり奥さんや旦那さんや子どもの怒りを、^{カラオケ}歌などで和らげて、元の^{へいおん}平穏な家庭に戻せる人が長生きに繋がるのです。

でも、これはかなり難曲、いや、難問です。具体的対応となると、ここでは『皆様が「虹の掛け橋」を読まれる、そう言う環境が整って、この家庭環境問題に関わる全員の^{か しょうりょく}霊格と歌唱力が向上した後に、全員の心の^{ハーモニー}修行として取り組んで頂くしかない』と答えるしかなさそうです。

しかし、この問題が解決できた^{あかつき}暁には「激変する環境に柔軟に対応できる人」が長生きできるタイプだと言うのは真理ですから、この真理とセットで働く摂理により、このような（問題解決に^{こうけん}貢献した）方々は「とても素晴らしい人生（職場・家庭・学校・健康・恋人・友人・財産・才能・未来・霊界での生活・来世等々）が天からプレゼントされる」のです。これを^{はげ}励みに希望を捨てないでください。それに、付け加えるならば、人生を閉じるとき、楽しかった日々と共に、思い出として輝くのは、苦難に耐えた涙の日々なのです。



天女

Shutterstock_8715164

天女たち キー、素敵な言葉。いつでも呼んでね。^{かみさま}紙様でお尻拭いてあげるから。私 は一い。

第 28 章

罪を代わりに背負ってくれている人の存在を知る

1 「人」の文字に託された仏の境地

H さんは、とても優秀な成績で、ある会社の本社に入りましたが、3 年後、医学では治癒できない病気にかかって仕舞いました。そして、この年に 2 回入院しました。退院してからも 2 週間に 1 度の頻度で通院が欠かせない状態でした。元々、ひ弱で痩せ形^やだった H さんは更に痩せてゆきました。

このような健康状態では本社の激務に耐えられないと判断した H さんは、会社側に配置転換を申し出ました。その結果、支社の工場の製品管理部勤務となり、倉庫内の製品を管理することになりました。

そこでの仕事は、50kg の製品を移動する肉体労働が中心で、本来、本社の激務とそう変わらない仕事量でしたが、H さんの健康状態が配慮されて、専ら^{もっぱ} 50g の書類整理の仕事が H さんに与えられました。

このような周りからの温かい配慮によって、H さんの健康状態は少しずつではありましたが改善に向かい、通院は月に 1 度が変わっていました。

やがて発病から 6 年が経過しました。しかし病巣^{びょうそう}は依然として残っており完治するまでには至っていませんでした。H さんは次第に「この病気から一生逃れることはできないのだろうか？」と不安になってきました。

このような時期に、H さんは仏の教えに出会いました。このことがきっかけとなって H さんは、今までの己の生き方がいかに仏の教えに反するものであったかと言うことに気付きました。そして「もしかしたら、この体の病気は心の病が原因で、清らかな心が変わったときに

治るのではないか？」と期待が湧いて、Hさんは仏の境地を目指して心の修行を始めることにしました。

1年が経過しました。

Hさんは、ふと思いました。「私が目指すべき仏の境地とは、どのような境地なのだろうか？」と。Hさんは、己の心の汚れた部分と対面しながら、心が清らかな紋様となるよう努めてはいたものの、具体的にどのような心の紋様になれば良いのか、その手本がないことに気付いたのです。

そこで、Hさんは先輩の仏道修行者であるIさんに尋ねました。

H Iさん。私は仏の境地を目指して心の修行をしているところですが、仏の境地・心の紋様とはどのようなものなのかわからないのです。もしIさんがご存知でしたら教えて頂けますか？

I 「第22章 1 仏と菩薩」のところに書かれているように「仏とはその人が理想とする人間像」ですから、人によって仏の捉え方は異なると思います。したがって、必然的に目指すべき「仏の境地」も人によって異なってきます。「仏の境地とはどのようなものなのか？」と言う問い掛けを「私が目指している仏の境地」に置き換えてお答えしてよろしいですか？

H え？ あの一。Iさんではなく、私が目指すべき境地ではないのですか？

I それだと「第22章 1」と同じ流れになってしまって、話の発展性に欠けますので。

H Iさん。まるで著者の視点で語っていませんか？

I そうですよ。この本の登場人物はすべてその視点なのです。

H はあ一。ではIさんにお任せします。

I 私は、大きい方、好ましい方、楽な方を人に譲ると言う実践を通して心を浄める修行を行い、この過程で己の心の醜みにくさと何度も出合いま

した。そして、気付いたのです。

H 何に気付いたのですか？

I なかなか実践できない境地の存在です。この境地は、これが実践できたならば仏の境地に辿り着いたと言えるほどの境地なのです。

H 具体的に教えてください。

I 「第 1 章 8 風が手本」のところで、次のように書かれた箇所があります。

＊

私たちは風が吹くように流れ（行動す）れば、神仏の働き（真理的行為）と一致するのです。つまり、

- ① より貧しい人（国）へお金・水・食糧・医薬品・衣服・学用品を流し、均一（平等）に^{くまな}隈無く行き届くようにする。
- ② 片腕がない人の腕になろうとする。足の不自由な人の足になろうとする（手足の機能が平等になるように動く）。
- ③ より血を必要とする人のために献血に協力する（血の濃度が均一になるように動く。誰もが平等に健康を味わえるように動く）。
- ④ より忙しい人の仕事を手伝う（仕事量が平等になるように動く）。
- ⑤ 愛されていない人・数字・方角・動物・細菌等の生命体に愛を注ぐ（すべてに愛・光・温もりが平等に行き渡るように動く）。
- ⑥ 先生から生徒へ知識・技術が流れる。参考になった本を人に貸す（誰もが知識・技術を等しく共有できるように動く）、と。

＊

上記の①～⑥は「自分よりも弱い人、困っている人」に対して同情し、彼らを^{いつく}慈しむ感情から生まれた愛の実践であると思います。これはある程度心が浄化されれば実践可能です。私もこれが実践できる境地には辿り着きました。

しかし、現在の自分が持っていないものを完全に満たし、そして自分よりもすでに遥かに幸福な状態にいる人、たとえば「両親や恋人や妻（夫）や子どもたちや素敵な友人たちの愛に囲まれ、健康でそして裕福で、家族全員が幸福感に満たされながら楽しい日々を過ごしている」人に、さらに可愛い子犬ができたり、子どもが受験に合格したり、新しく立派な犬小屋を建てたり、楽しそうに海外旅行に出掛けたりしている姿を見て、彼らを心から祝福できる境地には、なかなかないのです。

私は「自分よりもすでに幸せな人が、更に幸せになってゆく姿を心から祝福できる境地」になったときに、初めて仏の境地に辿り着けたと言えるのではないかと思います。これが、私が目指している仏の境地です。

なお、この境地の究極的シーンをイメージして、実践難度を補足説明するならば、タイタニックが沈むとき、救命ボートに乗った裕福な人たちを観て、冷たい海の中で溺れながら、己の命の綱を譲りつつ、自分を見殺にしている彼らを心から祝福できるほどの境地で、人間業では不可能で、神仏の世界の境地なのです。ですから「実践できます」と言う方の言葉には、命の重みはありません。

H なるほど。できるかどうかわかりませんが、これからは私もそのような境地を手本にして心の修行を続けることにします。

更に3年が経過しました。

病巣は依然として残っており完治するまでには至っていませんでしたが、心の修行が進むに連れてHさんの健康状態は更に改善に向かい、いつしか通院の頻度も2ヵ月に1度に変わっていました。Hさんは「己の病気は心の病が原因であった」ことを確信しました。そして目標とした境地に辿り着けるように更に心の修行に励みました。

しかし、この境地は先輩の I さんが「辿り着くことが非常に困難」と言っただけに、仏道修行を始めてから 4 年しか経過していない H さんには辿り着ける筈ありませんでした。

更に 1 年が経過しました。

H さんの健康状態は更に改善に向かい、あまり負担の掛からない重さの製品であれば移動することができるようになり、H さんの仕事は、いつしか 50g の書類整理から、現場での 50kg の肉体労働へと変わってゆきました。

更に 1 年が経過しました。

健康な人と同じレベルに仕事ができるまでには至っていませんでしたが、周囲の同僚たちは、まめに働く H さんの姿を見ているうちに、いつしか H さんが難病を抱えていることを忘れて仕舞いました。

そんなとき、不況の波を受けて会社の経営規模を縮小する事態になり、H さんが勤務している工場が閉鎖対象になりました。やめてゆく社員への退職金を捻出^{ねんしゅつ}するために、安かろうが少しでも製品を売ってお金に換えなければならない状況になり、H さんの所属する製品管理部は大変忙しくなりました。

ところが、H さんの同僚たちは、新しい職探しに気持ちが向いていて欠勤する者が続出し、真剣に仕事をする者は H さん 1 人になってしまいました（実際には、後に H さんのお嫁さんになられる素敵な女性がもう 1 人残ってくれていたのですが、話を単純化するために残ったのは H さんだけとさせていただきます。著者より）。

このため、H さんは 1 人で重い製品を移動させなければならなくなりました。くる日もくる日も、製品管理部全体の仕事を 1 人で熟し^{こな}続けたため H さんの疲労は頂点に達していました。

そんなとき、疲れからよろめき、その拍子^{ひょうし}に製品の山にぶつかり崩

れてきた製品の下敷きになってしまいました。倉庫内には H さん 1 人しかいなかったため、誰もこの事故を知らず助けに来てくれる人はいませんでした。H さんの意識は次第に薄らいでゆきました。

そのとき仏が現れ、H さんを優しく抱きかかえて次のように語りました。

仏 H さん。良くここまで耐えた。同僚たちが自分の職探しに躍起^{やつき}になっているときに「製品をいくらかでも多く売れば彼らの退職後のカラオケ代が豊かになる」との思いで、救命ボートに避難した彼らを非難することもせずに、冷たい海の中、倒れるまで良く 1 人でタイタニックの「製品管理部」を守ってきました。今あなたはあなたを見殺しにした人たちに、命の綱を譲り、心の修行は成就しました。

H 本当ですか？

仏 本当です。「人」と言う文字を思い描いてください。この文字は互いに支え合っている姿を表しています。しかし良く観ると小さな人が下になって大きな人を背負っているのです。大きな人が小さな人を背負うことは容易にできます。だから、神仏の教えに目覚めさえすれば「第 1 章 8 風が手本」のところに書かれている①～⑥のことは実践可能です。地上世界は、誰もがこれだけでも実践できれば今よりも平和な世界を築くことができます。しかし私は、仏の境地を目指す菩薩たちには、このレベルに留まって欲しくはないのです。たとえば、次の①～③のように小さな人が大きな人を背負える境地に辿り着いて欲しいのです（読者の方はこれを読んで笑わないでください。なぜなら、これが、大霊たちが集まる大霊界の姿なのですから。^{ネイム}仏より）。

① 貧しい人が、お金・水・食糧・医薬品・衣服・学用品をより裕福な人へ流し、彼らが更に豊かになるよう願う。

② 片腕のない人が、足の不自由な人が、健康な人たちがさらに幸せ

になることを願ひ彼らの手足になろうとする。

③ 最も忙しい人が、自分の仕事を後回しにして、まず同僚の仕事を手伝うように行動する。

これが、私が「人」の文字に託した境地なのです。

あなたは、病気を抱える最も小さい者でありながら健康な同僚すべて背負ってきたのです。ですから今のあなたであれば、自分よりもすでに幸せな人が更に幸せになってゆく姿を觀ても心から祝福できる境地に辿り着いている筈です。

仏はそう言って姿を消してゆきました。

Hさんはすっかり意識を取り戻し、体の上に^の押し掛かっている製品を横に^の退けてゆっくりと立ち上がりました。不思議なことに体を觀回しても^{かす}掠り傷1つ負っていませんでした。仏が守ってくれたことをHさんは感謝せずにはいられませんでした。

それから数ヵ月が経過しました。

いよいよ、工場を閉鎖する日を迎えました。

同僚たちは、職探しの^{かい}甲斐あつて皆新しい職に^つ就けることになりました。Hさんだけが、まだ職が決まっていなかった。しかし、Hさんは、今、彼ら1人ひとりの手を取って彼らの幸せを我がことのよう^のに心から祝福しました。

それから、1年が経過しました。

Hさんに新しい仕事が觀付かったのです。それは、同僚のカラオケ代を作ったその福德による因果律と言う摂理の働きによって、カラオケが安く手に入り、これで歌を練習して、プロの歌手になることがで

きたのです。そして、その祝いとして仏から病巣のない健康な体とお嫁さんをプレゼントして頂いたのです（決して女性を物として観ていませんので、このような表現をお許してください。もし、お許し頂けない方は、Hさんは「女性」、そしてお嫁さんは「お婿さん」と読み替えてください。著者より）。

2 ^{さんず}三途の川を自力で渡れなかった人たち

PさんとQさんの会話です。

P Qさん。「第19章 2000年の初夢」で、此岸の世界から抜け出せずにいるIさんたちを彼岸の世界へ導くために此岸の世界へ戻ってきたHさんがIさんたちに「以前私が差しあげた傘、（塗り）薬、杖、水筒、弁当はどうしたのですか？」と尋ねる場面があります。

HさんがIさんたちに傘や塗り薬を譲ったのは2千年前です。これらの物はどれも2千年も持つことなどあり得ない物ばかりです。そしてこのことは、悟ったHさんであれば^{いちもくりょうぜん}一目瞭然だった筈です。

Hさんは、現世で犯した罪を償い、そして悟り、彼岸の世界へ渡って行った人です。と言うことは、Hさんはとても^{おだ}穏やかな人になっている筈です。ところが、Iさんたちに尋ねたこれらの質問は、とても意地悪なものであったと思います。しかもIさんたちが、恐縮しながら言い訳する姿から、Hさんの質問がとても厳しい口調であったことが^{うかが}窺えます。

Qさん。私には悟ったHさんが、どうしてこのような質問をIさんたちにしたのかわからないのです。もし、Qさんがわかっているのであれば教えて頂けますか？

Q 実は私も、この箇所を読んだときに、Pさんと同じように「Hさ

んは随分意地悪な質問をするなあ。」と感じました。しかし『「虹の掛け橋」では「第〇章 〇〇〇」で・・・・・・・・と書かれています、〇〇さんはどう思いますか？』と先輩の修行者や友人に尋ねる場面が良く現れます。そして、この遣り取りの中で、深い神仏の教えが少しずつ紹介されてゆく設定になっています。つまり読者が疑問に思ったところが、実は悟りの世界への入り口なのです。

「虹の掛け橋」は、表面上の字面を辿っているだけでは悟りの世界は観えてこないのです。そこで、誰もが疑問に思う文章を故意に挿入して、読者自身にその答えを探って頂きたいという著者の意図を感じるのです。そして、読者が十分考え込んだであろうという時期を観計らって「□□と△△の会話です」と言う遣り取りを通して、更に深い神仏の世界へ読者を導いているのではないかと思えるのです。

また、その疑問に対する自分なりの答えを得たとき、読者1人ひとりの心の中に悟りの世界や天国の世界が現れるのではないかと思います。ですから、悟ったHさんが、此岸の世界で迷い続けているIさんたち全員に同じような質問を繰り返すからには、ここにも何か深い意味があるのではないかと思ったのです。そして、この疑問に対して自分なりに納得できる答えを得たとき、人々は彼岸の世界へ渡ることのできる切符を掴むことができるのではないかと思います。私は、このような観点で「なぜHさんがIさんたちに意地悪な質問をしたのか」を考えたとき、理由がわかったのです。

P その理由を教えてくださいか？

Q まず、Hさんがどうして三途の川を渡ることができたのか確認してゆきます。

Hさんは、閻魔さんから頂いた傘をIさんに譲ります。傘を譲ったときは心を浄めるための修行の道を歩み始めて間もなくのことでしたから、修行の道を更に進んでゆく上で再び傘が必要な場面が訪れるの

ではないかと言う思いが過^{よぎ}ったことと思います。傘はこれからの H さんの修行を支える命の綱のようなものだった筈です。しかし、雨に濡れた I さんが気の毒に思えてならなかった H さんは、傘を譲ります。このことから、I さんに対する愛（利^り他^た愛^{あい}）の方が自らを守るために傘を使うと言う自身に向かう愛（自己愛）よりも上回っていたことがわかります。H さんは、塗り薬を J さんへ、杖を K さんへ、水を L さんへ、弁当を M さんへ、閻魔さんから頂いた物を次々に人に譲ってゆきます。これらも、修行の道を更に進んでゆく上で必要な命の綱だった筈です。そして最後に、自らは膝を痛めているにも拘^{かかわ}らず、道に座り込んでいる N さんに扮^{ふん}した閻魔さんを背負います。これらのことから、H さんの周囲の人たちへ向かう愛がいかに深いかを窺^{うかが}うことができます。このような心の紋様であったからこそ、H さんは三途の川を渡ってゆくことができたのです。

閻魔さんは、修行者 1 人ひとりの利他愛がどのくらい深いのかを観ていたのです。

次に、2 千年もの間、I さんたちがどうして三途の川を渡ることができずに迷いの世界である此岸に留まっていなければならなかったのかを観てゆきます。

I さんたちを彼岸の世界へ導くために此岸の世界へ戻ってきた H さんは、雨が降っているにも拘らず傘を差さずに木の下で雨宿りをしている I さんに出合います。そこで H さんは尋ねます。「以前私が差しあげた傘はどうしたのですか？」と。I さんは答えます。「頂いた傘は大切に使わせて頂いたのですが、何年も使っているうちに、何度も風に飛ばされてきた枝に当たって、ぼろぼろに破れて使えなくなってしまったのです」と。

H さんと I さんのこの遣り取りの中に、どうして I さんが三途の川を渡ることができなかったのか、その理由が書かれているのです。

Hさんは、傘を使いましたが、これを必要とする人（Iさん）が現れたとき譲ったのです。Hさんは、利他愛の手本をIさんに示し、Iさんはこれを見て（経験して）いたのです。しかしIさんは、Hさんから頂いた傘を最後まで自分で使い、呼吸のリズム（吸って吸ってでは苦しくなるので、吸ったら（頂いたら）吐き出す（周りの方にお返しする））のように人に譲ることはなかったのです。傘を自らのためにのみ使うと言う自己愛に執着していたために、Iさんは迷いの此岸の世界から抜け出せずにいたことがわかるのです。

Jさんは塗り薬を、Kさんは杖を、Lさんは水を、Mさんは弁当を、自己愛に執着していたために、人に譲ることなく最後まで自分で使ってしまったことが三途の川を渡ることができなかった理由なのです。つまり、閻魔さんが、心を浄める修行の道で学び取って頂きたいと、1人ひとりの修行者に与えた「利他愛を深めてゆく」と言う課題を、Iさんたちは、2千年^た経っても全く学び取ることも実践することもできていなかったからなのです。

Iさんが傘を持っていないことは木の下で雨宿りしている姿を観ればわかります。Hさんが知りたかったのは、傘をなくした理由だったのです。HさんがIさんに傘を譲ったように、Iさんも他の修行者が雨に濡れていて気の毒に思い、これを譲ったのか、そうではなく自ら使い切ってしまったのかを聞きたかったのです。

Hさんは悟った人ですから、Iさんが依然として此岸の世界に残っている状態を観れば、Iさんが傘を人に譲ることなく自ら使い切って仕舞ったことを観てとることは容易だった筈です。

ではなぜ「以前私が差しあげた傘はどうしたのですか？」と意地悪な質問をしたのか？

それは、どうして2千年もIさんが三途の川を渡れなかったのかと言う理由を、私たち読者の目線に立ってHさんが質問する形でIさん

自身に語って頂くためだったのです。ですから、Hさんのこの質問は「Iさん。なぜ、あなたは三途の川を渡ることができないのかわかりますか？」と言う問い掛けであったのです。

P なるほど。でも少し疑問が残るので、1つ質問して良いですか？

Q 良いですよ。

P Hさんは、傘を必要とするIさんが、塗り薬を必要とするJさんが、杖を必要とするKさんが、水を必要とするLさんが、弁当を必要とするMさんが現れたから、これらの物を人に譲る修行ができたのです。私は、もしかしたらIさんたちも、Hさんから頂いた物を人に譲って、そして己の罪を償い悟りの世界である彼岸へ渡りたいと言う気持ちにはあったのではないかと思います。しかし残念ながら、傘や塗り薬を必要とする人たちが現れなかったために、Iさんたちはこれらの物を人に譲る機会がなく自ら使わざるを得なかったのではないかと思います。

Q Iさんたちが犯した罪を自ら償ってもらうために、そして利他愛を身につけてもらうために、閻魔さんは、この修行の道（道場・人生）を彼らに歩かせている訳ですから、彼らが持っている物を必要とする人を、閻魔さんは必ず彼らの前に連れてくるでしょうから、人に譲る機会がなかったとは考えにくいのです。そして、もし、Iさんたちが「私たちは人に譲る機会がなかっただけです」と言い訳するならば、閻魔さんは「傘や塗り薬を必要とする人たちが現れ、この方々が譲ってくださいと願い出たとしても、あなた方には譲ることはできなかったでしょうね」と答えると思います。

P それはどうしてですか？

Q Hさんに導かれて彼岸の世界を目指し始めてからのIさんたちは、1つの傘で雨を^{しの}ぎ、同じ薬で傷口を癒し合い、1つの杖を互いに譲り合い、同じ水筒の水を飲み、弁当を分け合いながら食べ、互いに助

け合うことを学び徐々に心が浄められていったことは確かです。しかし、これ（道徳レベルの善行）だけでは利他愛は不十分で三途の川を自力で渡ることはできないのです。だから、I さんたちが舟に乗った時点でも、I さんたちの罪の象徴である H さんに背負われた石が消えずに残っていたのです。

仏の目から観れば、I さんたちが舟に乗ったとき、傘も塗り薬も杖も水も弁当も必要とする人が現れたのです。

その人は誰か？

それは、I さんたちの目の前にいる H さんなのです。傘や塗り薬や杖や水や弁当は、厳しい修行の道を歩むために必要な物です。ですから、I さんたちの代わりに背負っている石が消えるまで此岸の世界で修行しなければならない H さんには必要な物だったのです。一方、修行を終えて舟に乗り阿弥陀如来の待つ彼岸の世界へ向かう I さんたちには必要ではなかったのです。

ところが、I さんたちは、彼岸の世界へ辿り着くまでどのくらい舟の上で過ごさなければならないのかわからないため、不安になったのでしょう。結局 I さんたちはこれらの物を H さんはおろか、人に譲ることが最後までできなかったのです。

P なるほど。I さんたちは、閻魔さんが与えた「利他愛を深めてゆく」という課題を学び取ることも実践することもできないまま彼岸の世界へ渡って行ったわけですね。

Q そうです。

P ということは、そんな彼らを受け入れた阿弥陀如来の慈悲心はとても深いと言えますね。

Q そうです。『第 20 章 4 「ぶどう園の労働者」のたとえ』のところでは「人類は最も後からきて働きもせずに、プランクトンや魚たちが長い時間を掛けて秩序あるものに整えてきた地球環境を散々破壊し

ているにも拘らず、最初に天国へ入ることを神仏から許されているのです」と言う趣旨のことが書かれています。このとき（地上時代）のイエスがここまで進化論を極めていたのかどうかは疑問ですが、このイエスの愛もとても深いと思います。私は、ここに阿弥陀如来の慈悲心とイエスの愛に共通するものを感じます。

P 悟った H さんがなぜ「以前私が差しあげた傘はどうしたのですか？」と尋ねるのか、と言った疑問をきっかけにして、私は Q さんからいろいろなことを学ばせて頂きました。しかし、学ばせて頂いたにも拘らず、はっきり言って H さんのように、傘や塗り薬の生活必需品など、これらを必要とする人が現れたとき、快く譲り続ける自信は私にはないです。

Q 私もできません。

P え！ Q さんでも実践できないのですか？

Q 私には不可能です。今まで、著者の指を借りて偉^{えら}そうに解説して申し訳ありません。私は、最後まで人に譲ることができないために自力では三途の川を渡ることができずに舟に乗って仕舞った 5 人の 1 人ではないかと思っていますのです。しかしこの物語を読んで、このような罪深い私であってもイエスや阿弥陀如来は、必ず私を天国や彼岸の世界へ受け入れてくれるのではないかと思えるようになったのです。そしてその陰には、私の罪を代わりに背負ってくれるイエスや H さんのような人（神仏や犬掻き名人）がいることも知ったのです。

第 29 章

人を愛した人こそ愛に包まれた 人生を送ることができる

1 牛乳を配達する人

私はホットミルクティーを飲みながら、のんびりとインターネットの名言集のサイトを旅していたとき、次のような西洋の^{ことわざ}諺に出会いました。

「牛乳を飲む人よりも、これを配達する人の方が健康だ」

この諺は、^{ほのぼの}仄々とした中にセンスの良い逆説的なユーモアが含まれていて、笑えると思いました。しかし良く考えてみると、配達人は、朝早く起きるために夜は早く休んで規則正しい生活を心掛けるでしょうし、また自転車に乗ったり、アパートの 2 階や 3 階の部屋に配達するため何度も階段を^{のぼ}上り^お下りしたりするでしょうから、牛乳を飲んでいる人よりも配達人の方が健康になると言うのは当たっているな—と思いました。しかも、これは神仏の^み御^{こころ}心・真理を伝える素晴らしい諺なのです。

私は次のように解釈しました。

「自分自身の健康のために牛乳を飲む人よりも、人々が健康になることを心から祈りながら朝早くから起きて牛乳を配達している人の方が、神仏から祝福されて本当の（心と体の）健康を頂けるのだ」と。

そして、この諺の中の「牛乳」はいろいろな物に読み替えることができます。たとえば、次の①～⑦のように。

① 「自分自身の知識を深めるために学んでいる人よりも、誰もが知識を共有できるようにと心から祈りながら持っている知識のすべてを人々に伝えている人こそが、神仏から祝福されてより深い知識を頂け

るのだ」と。

② 「自分自身が^{おい}美味しい料理を食べようとしているレストランのお客さんよりも、多くの人々に美味しい料理を食べて頂きたいと願い腕を磨いて一生懸命に料理を作っているコックさんこそが、神仏から祝福されてより美味しいものを頂けるのだ」と。

③ 「自分自身が綺麗な花々に囲まれながら過ごしたいと願って世界中の花々を集めている人よりも、多くの人々に綺麗な花々を観て楽しんで頂きたいと願いながら一生懸命に花々を育てている人やこれをお客さんに届けている人や公園の花々を整備・管理している人たちこそが、神仏から祝福されて綺麗な花々に囲まれながら過ごすことができるのだ」と。

④ 「自分自身が良き友人をたくさん持ちたいと願っている人よりも、多くの人々の良き友人になりたいと願い、そのように努めている人こそが、神仏から祝福されて良き友人をたくさん持つことができるのだ」と。

⑤ 「自分自身が周囲の人たちから日々優しい言葉を掛けて頂きたいと願っている人よりも、周囲の人たちに優しい言葉を掛け続けている人こそが、神仏から祝福されて優しい言葉に包まれながら日々を過ごすことができるのだ」と。

⑥ 「自分自身が豊かになるために財産を蓄えている人よりも、誰もが豊かになることを心から祈りながら持っている財産を多くの人々と分かち合う生活を送っている人こそが、神仏から祝福されてより多くの財産（神仏の目から観た本当の財産。たとえば、健康や知恵や勇気や希望や^{へいおん}平穏な家庭など）を頂けるのだ」と。

⑦ 「自分自身が幸せになろうとしている人よりも、多くの人々が幸せになることを心から祈りながらそのお手伝いをしている人こそが、神仏から祝福されて本当の幸せを頂けるのだ」と。

私は、今まで神仏の教え・愛と言う名の「牛乳」をたくさん頂いて



サンタクロースとトナカイ

Shutterstock_542827612

きました。これからは、その恩返しとして多くの人々が天国(彼岸)へ辿り着けることを願いながら

「虹の掛け橋」にこの思いを託して賞味期限もなく、そして室温での保存も可能な「牛乳」を歌の調べに乗せて、皆様に、トナカイの引くソリに乗って煙突の上り下りも厭^{いと}わず、お配りできたらと思っています。

2 キューピッドの矢

Lさんは、ローマ神話の本を読んでいました。

やがて、Lさんは神話の世界へ引き込まれるように眠りに入ってゆき、夢を観ました。

愛の天使キューピッドと、その母である愛の女神ヴィーナスが会話していました。

キューピッド お母さん。他の天使たちは皆大人に成長してゆくのに、私だけいつまで経っても子どもの姿のままなのはどうしてなの？

ヴィーナス 天使たちは神から与えられた使命を果たしながら成長して(大人になって)ゆくのです。あなたは愛の天使です。ですから、地上の人々に愛の種を蒔^まき、それを育てるのがあなたの使命です。しかし、あなたが地上に蒔^まいている愛はとても情熱的な愛ではあるけれ

ども、飲めば飲むほど喉の渴きを覚えて仕舞う塩水のように決して満たされることのない愛です。しかもこの愛は、醒めると深く愛し合った者ほど憎み合う者に変えて仕舞うのです。このような愛は、神の目から観れば心が成熟していない「子どもの愛」なのです。およそ、神が地上の人々の心に植え付けようとしている心が成熟した「大人の愛」とはほど遠いのです。だから、あなたの姿は子どものままなのです。

キューピッド それでは神の目から観た「大人の愛」を地上の人々に植え付ければ、私も大人の姿に変われるのですね？

ヴィーナス そうです（ただし、読者の皆様が許せばね）。

キューピッド それではお母さん。私が地上に植え付けるべき「大人の愛」とはどのような愛なのでしょうか？

ヴィーナス キューピッドよ。それを地上へ下りて心の目で確かめてきなさい。

キューピッド どのようにして確かめるのですか？

ヴィーナス あなたには神から与えられた 2 種類の矢があります。第 1 の矢は黄金の矢です。この矢で射抜かれた 2 人は燃えるような情熱的な愛で深く愛し合うようになり結ばれます。第 2 の矢は鉛の矢です。この矢で射抜かれた 2 人は、激しく憎み合います。

この 2 種類の矢を使って「大人の愛」を探すのです。つまり、地上を隈なく探しあなたの目から見て「大人の愛」で深く愛し合うようになるだろうと思われる 2 人を探し出しなさい。そして、この 2 人をまず黄金の矢で射抜き結ばせるのです。2 人が深く愛し合いチューするのを見届けてから、今度は鉛の矢で 2 人を射抜いてみなさい。鉛の矢で射抜かれても別れることのない愛に出合ったとき、あなたはどのような愛が「大人の愛」なのかを知ることができます。

キューピッド わかりました。それではお母さん。地上世界へ行ってきます。

キューピッドは「大人の愛」を探すために地上世界へ下りてきました。



キューピットの矢
shutterstock_2111147906

母から受け継いだ、人の心を透視する力を使って、キューピッドは、まず人々の心の中にある愛の深さを1人ひとり調べて歩きました。そして、キューピッドの目から見て、この者たち

こそ「大人の愛」で愛し合うようになるであろうと思われる2人を探し出しました。

それは、MさんとM'さんでした。この2人の結婚相手の理想像は互いに一致していました。しかも2人とも、理想的な人が現れたならば持っている愛のすべてをその人だけに注ぎ込む（「1人の人だけを愛する愛」）と言うとても情熱的なタイプでした。ですから、キューピッドには、この2人であれば鉛の矢で射抜かれても決して別れることなく深く愛し合うであろうと思われました。

しかしキューピッドには、この2人とは別に、とても気になる2人に出会いました。

それは、NさんとN'さんでした。この2人は、天使の目から観てとても美しい姿と心を持っている代わりに、キューピッドには理解しがたいことでしたが、結婚相手の理想像を持っていませんでした。互いに結婚相手は神が与えてくれるものと信じていたのです。しかも2人とも、出会う人々に持っている愛のすべてを注ぎ込むタイプでした。つまり2人は、選り好みすることなく世界中の人々を平等に愛する人

たちだったのです。

情熱的な愛しか知らないキューピッドには、初めて出合うこの 2 人が持っている「すべての人々を愛する愛」にとっても興味を抱き、そして、とても美しい姿と心を持つこの 2 人を何としても結ばせてみたいと言う愛の天使の本能を^{くすぐ}擦る強い^{しょうどう}衝動に^か駆られ、こちらの 2 人も鉛の矢で射抜かれても決して別れることなく深く愛し合うであろうと思いました。

そこで、キューピッドは「1 人の人だけを愛する愛」と「すべての人々を愛する愛」のいずれが「大人の愛」であるのかを知るために、互いに遠く離れていた M さんと M' さん、そして N さんと N' さんを引き合わせ、それぞれ黄金の矢で射抜き 2 組を結ばせました。

1 年が経過しました。

キューピッドによって結ばれた M さん夫妻と N さん夫妻は深く^{チュー}愛し合うようになり、誰が見ても決して別れることはないであろうと思われるほど仲の良い夫婦でした。

キューピッドは、心を痛めながら 2 組の夫妻を鉛の矢で射抜きました。

すると結果はたちまち現れました。M さん夫妻は憎み合うようになり別れてゆきました。一方、N さん夫妻は変わることなく仲の良い夫婦生活を続け、やがてお利口な面とお馬鹿な面を併せ持つ子どもたちに恵まれ笑顔が絶えず幸せにくらしたのです。

キューピッドは^{さすが}流石に愛の天使ですから、この結果を観て、心が成熟した「大人の愛」とはどのような愛なのかを悟ったのです。悟った内容は次のとおりです。

M さん夫妻は相手が理想そのものでしたから、黄金の（偽りの）矢

で射抜かれ相手のすべてが一層好ましく思え、互いに相手の欠点が映らなかったのです。しかも 2 人は、1 人の人だけを愛するタイプでした。ですから、2 人は理想像に合致する人しか愛せないタイプであるとも言えます。つまり M さんは、理想からずれる（M'さん以外の）人に対しては、その人の持っている欠点を受け入れることができないために決して愛を注ぐことができないのです。M'さんも同じなのです。

鉛の（真実の）矢で射抜かれ相手の欠点が観えてきて互いに理想像からずれてくると、その欠点に対し、受け入れることができないほどの嫌悪^{けんお}を感じ、憎み合って結局別れていったのです。

一方、N さん夫妻は、結婚相手に関して理想像を持たず、そして選り好みすることなく世界中の人々を平等に愛する人たちでした。つまり、人の持っている欠点を受け入れどんな人にも愛を注ぐことができたのです。したがって、鉛の矢で射抜かれ、相手の欠点が観えてきても、それを受け入れ別れることなく互いに変わらぬ愛を注ぎ続けることができたのです。

人は、1 日の中でも心は様々に変化します。ときには別人ではないかと思われるほど、変わるものです。ですから、生まれて老い一生を閉じるまでには、それこそ、天使の愛に満ちた心から悪魔^{そうお}の憎悪に満ちた心まで、人の心の紋様は様々に変化します。

地球には現在 80 億人ほど住んでいます。もしこれらすべての人の心の紋様を透視して調べたならば、きっと天使の愛に満ちた心から悪魔の憎悪に満ちた心まで並べることができる筈です。つまり、人は一生の中で、世界中の人の心の紋様に変化すると言えるのです。

さらに、人によっては、世界一大好きな人から世界一大嫌いな人まで、とても裕福な状態からとても貧しい状態まで、とても健康な状態から病弱な状態まで、とても美しい姿から醜い姿まで変化・経験しますし、転勤等によって、赤道や北極や南極付近に居住が変わることも

ありますので、人は一生の中で、世界中の人の姿・状態に変化するとも言えます。

ですから、世界中の人を愛することができなければ、たった1人の人であっても一生涯愛し続けることはできないのです。これが反真理です。逆に、たった1人の人であっても一生涯愛し続けることができた人は、世界中の人を愛することができるのです。これが真理です。

ヴィーナス　　と言うことは、皆様の奥様や旦那様が自信をもって「あなた（君）を一生涯愛し続けます」と言い切っている姿は、実は神の目には「世界中の旦那様（奥様）も分け隔てなく愛しますので寛大な気持ちで許してね」と言っている姿に観えるということなのね。

キューピッドは「すべての人々を愛する愛」こそ、鉛の矢で射抜かれても揺らぐことのない、心が成熟した「大人の愛」だと知ったのです。

キューピッドは天上界へ戻り、このことを母に報告しました。

ヴィーナス　　良く探り出しましたね。偉い。偉い。

キューピッド　　でもお母さん。どのような愛が「大人の愛」なのかを知っただけでは依然として私の姿は子どものままです。「大人の愛」を地上の人々に植え付けなければ、私は大人の姿に変わることができないのでしょうか？

ヴィーナス　　そうです。

キューピッド　　それでは、どうしたら「大人の愛」を地上の人々に植え付けることができるのでしょうか？

ヴィーナス　　その力をあなたに与えることができるのはゼウス様だ

けです。あなたの願いを叶えてくださるようお願い出なさい。

キューピッド わかりました。

キューピッドはゼウスがおられる宮殿に昇ってゆき、ゼウスの前に進んで ^{ひざまず} 跪き次のように願いを申し出ました。

キューピッド 私は、地上の人々に愛の種を蒔き、それを育てると言う使命をゼウス様から与えられました。しかし、私が地上に蒔いていた愛は、とても情熱的なものではあるけれども、決して満たされることのない ^{かつあい} 渴愛でした。しかもこの愛は、醒めると、深く愛し合った者ほど憎み合う者に変えてしまう、まるで心が未熟な「子どもの愛」だったのです。

今、私は「すべての人々を愛する」と言う「大人の愛」を知ることができました。私はこの愛を地上のすべての人々に植え付けたいのです。ゼウス様。どうか私にこの使命を成就することができる力を与えてください。

ゼウス キューピッドよ。良くこのことに気付いてくれました。私があなたに課した真の使命は「すべての人々を愛する愛」を地上に植え付けることだったのです。あなたの心が成熟したからこそ、このことに気付いたのです。

この真の使命を成就することができるようあなたに第3(無上の愛)の矢を授けます。これは虹色に輝く光の本、いや、矢です。この矢で射抜かれた者は、心の中の憎悪や嫉妬と言う感情が消え、今まで憎んでいた者にまで、無上の愛を注ぐことができる天使に変わるのです。この矢を使ってあなたの使命を成就させてください。

キューピッドはゼウスから虹色に輝く光の矢を受け取ると、地上世界に再び下りて、別れた Mさんと M'さんを始め離婚経験者、独身者

(社会人、大学院生、大学生、浪人生、高校生、中学生、小学生、幼稚園生、赤ちゃん、婚約者)、次いで既婚者と、お1人様1回限りで次々にこの矢で射抜きました。地上世界はやがて「すべての人々を愛する愛」で満たされ、キューピッドの姿も次第に凛々^{りり}しい若者の天使に変わっていったのです(ちょっと待って、子どもの姿の方が良いと思う方、あるいは神話を冒涇^{ぼうとく}していると言われる方は、この箇所を削除してください。私としてはキューピッドの大人の天使になりたいと言う気持ち・願いを汲^くんでこのような表記をさせて頂きました。つまり登場人物全員をハッピーエンドにしたつもりなのです。著者より)。

ここでLさんは夢から覚めました。

私 ああ。夢での話で良かった。ヴィーナスさん。これだったらローマ人から文句言われなない？

ヴィーナス ローマ人？ いつの時代の話なのこれ？ 今2016年の筈よ。いずれにしても私は関わりたくないの、達磨^{だま}さんと同じ不識^{ふしき}ですわ。大地さん。私に振らないでくださる。

私 はーい。マザー・テレサさん。

3 「^{ざる}箒」で雨を受ける

Oさんは、毎晩インターネットのとあるサイトの伝言板に入って会員の仲間たちとチャットを楽しんでいました。ある日、仲間のPさんが「仕事がきつくて体調を壊し疲れた」と伝言板に訴えてきました。すると、会員の仲間たちから次々と励ましの言葉がPさんへ寄せられました。

Oさんも、何か言葉を送りたかったのですが「頑張ってください」

と言うのも、もしかしたら「すでに頑張っているのに、これ以上頑張
れって言うのですか？」と叱^{しか}られるのではないか？ とか「疲れたと
きは休むのが一番です」と言うのも「休めない状態だから疲れている
のです」と、これまた叱^{しか}られるのではないかと思い、何と言葉を掛け
て良いのやらわからずに躊躇^{ちゅうちよ}していました。

そのうちに、Pさんは元気を取り戻して「皆さんからの言葉に感謝
しています」と言ってきました。結局Oさんは、言葉を掛ける機会を
失って仕舞ったのです。

このことから、Oさんは禅を学んでいたときに教えられた次の物語
(公案)を思い出しました。

＊

とても貧しい禅寺がありました。そこで禅を学ぼうとして老師(禅
の先生＝高僧)の元に2人の僧が弟子になりたいと訪ねてきました。
1人は他の寺で10年間禅を学んできた僧(以下「10年僧」)です。も
う1人は禅を学び始めて間もない小学生くらいの小僧です。2人が学
び始めて数週間が過ぎました。

ある日突然、激しい雨が降ってきました。とても貧しい寺でしたの
で至るところで雨が漏れてきました。特に老師の部屋の雨漏りが酷^{ひど}か
ったので老師は2人の弟子に「雨を受ける物を持ってきたさい」と言
いました。

10年僧は寺中を探しましたが貧しい寺であったため、雨を受ける
盥^{たらひ}や桶^{おけ}は見付かりませんでした。何を持って行って良いのやら迷って
いるばかりで、10年僧は結局、老師の元へ雨を受けるものを持ってゆ
くことができませんでした。

一方、小僧は、傍^{そば}にあった、ぼろぼろに破れた「箆」を持って行っ
たのです。10年僧はこれを見て「お前さんはお馬鹿さんだね」と笑い
ましたが、老師は小僧を褒^ほめ、笑った10年僧を「お前さんの方がお

馬鹿さんだよ」と言って笑いました。これを聞いて 10 年僧は悟り老師から印可を受けて山（＝寺）を下りることが許され、後に大老師 1 になりました。そして小僧が禪寺を継ぎ、後に大老師 2 になりました。大老師 1 は大老師 2 を生涯「師匠^{ししやう}」と仰ぎ、大老師 2 は大老師 1 を「大先達^{だいせんだつ}」と呼んだのです。

＊

今、O さんはこの物語（公案：箴を持って行った小僧の心を解説しなさい）の真意を悟ることができたのです。

小僧が手にしていた「箴」は、穴だらけですから、雨を受ける道具として役に立たないことは明らかです。小僧は、いつも優しい言葉を掛けてくださる老師の部屋の雨を受けるものを一刻も早く持参したいという強い気持ちから、そんな「箴」であって少しは役立つかも知れないと考えたのです。ですから、小僧が手にしていたのは単なる「箴」ではなく、「老師の窮地^{きゆうち}を救いたいと言う真心」だったのです。老師はこれを観抜き、このときの 10 年僧はまだ観抜けなかったのです。

この物語のように O さんは、迷わず P さんに言葉を掛けるべきだったのです。掛けた言葉は、ぼろぼろに破れた「箴」のように P さんを元気付けることができなかったとしても「P さんが 1 日も早く元気になってくれることを願う真心」を届ければ良かったのです。この思い・心を老師が観抜いたように、P さんもわかってくれる筈だからです。

O さんは、言葉を掛け損ねたことを P さんに詫^わび、そして次のような言葉を贈^{おく}りました。

『「体」と言う文字の中に「休む」と言う文字が入っているのですね。正確には「一休（ひとやすみ）」と書くのですね。これは「休んでこそ健康な体を保つことができますよ」と言う、優しい仏さんのお心遣い^{こころづかい}

でしょうか?』と。

4 仏は少しずつ人を導く

Q さんと R さんの会話です。

Q 真理と言うものが人々に平和と調和と秩序と幸福を^{もたら}齎すものであるならば、仏はどうして、すべての人々に、真理の全体像を一気に説き明かそうとはなさらないのでしょうか?

R 私は次のように思うのです。たとえ話で説明させていただきます。

なお、登場する者たちは仏の指導を受けながら心の修行をしている者たちで、かつ経済状態は同じで、後から登場する（箱の前に立つ）者ほど仏の目から観て、なぜか霊格が高いと仮定します。

ここに募金箱があります。この募金箱の前に S さんが来て寄付をせずに祈りました。「私を幸せにしてください」と。そこで仏は、S さんの隣に T さんを立たせました。T さんは 10 円を寄付して祈りました。「私を幸せにしてください」と。

次に仏は、その隣に U さんを立たせました。U さんは 100 円を寄付して祈りました。「私を幸せにしてください」と。

・

・

・

次に仏は、その隣に V さんを立たせました。V さんは 1 万円を寄付して祈りました。「私を幸せにしてください」と。

次に仏は、その隣に W さんを立たせました。W さんは全財産を寄付して祈りました。「私を幸せにしてください」と。

次に仏は、その隣に X さんを立たせました。X さんは 10 円を寄付

して祈りました。「このお金で貧しい人々を幸せにしてください」と。

・
・
・

次に仏は、その隣に Y さんを立たせました。Y さんは全財産を寄付して祈りました。「このお金で貧しい人々を幸せにしてください」と。

次に仏は、その隣に昆虫のような縫いぐるみを着た Z さんを立たせました。Z さんは寄付をせずに祈りました。「すべての人々を幸せにしてください」と。

Y さんは、寄付をせずに祈っている Z さんの方が自分よりも霊格が上であることが納得できずに仏に尋ねました。「私よりも縫いぐるみ女（男）の Z さんの方がどうして霊格が上なののでしょうか？」と。

すると仏は答えます。「Z さんは、昨日のうちに全財産を寄付したので今はオケラなのです」と。

このたとえ話のように、仏は少し上の霊格を持った人を隣に立たせ、その人を導師として私たちを少しずつ天国へ導いてゆくのです。そして、上には上の霊格を持った霊がいるのです。際限がないほどなのです。

ではなぜ、仏はすべての真理を私たちに授け、一気に高い境地へと導かないのでしょうか？ それは、私たちが一気に高い境地に辿り着けない（実践できない・挫折する・混乱する）からです（たとえば、ウイルスなどの病原菌や癌細胞や自爆テロリストたちに愛を注ぐ実践など）。

和光同塵という言葉があります。これは「仏は、強い光（仏の教え）を、私たちが受け入れることのできる程度に和らげてくれる」という意味です。事実、太陽の光を真面に受けることができる生物はいません。天は、オゾン層と言うフィルターを通して光を和らげているので

す。

仏は私に心を磨くための修行をさせ、少しずつ高い境地(霊格)へと導いています。自分の幸せを祈っている状態の霊格から他の人々の幸せを願うことのできる霊格に向上させるために必要な修行課題を仏は段階的に授けます。つまり仏は、一気に高い境地に達することができない私を少しずつ導くために、何度も霊格を落とした人物の姿となって指導していると思うのです。

Q なるほど。少しずつ真理を説き、挫折しないよう少しずつ導くことが、結果として人々の霊格を確実に高いレベルへ引き上げ、地上に平和と調和と秩序と幸福を^{もたら}す縫いぐるみ女(男)に育てあげる最短コースだと言うことですね。

5 守護霊

A さんには B さんと言う友人がいて、B さんは今、悪霊(=悪霊・^{あくれい}・^{あくりょう}・^{おんりょう}怨霊：以下同じ)に取り憑かれてとても苦しんでいます。そこで A さんはどうしたら B さんを救えるのか先輩たちに尋ねました。先輩から返ってくる答えは、いずれも「^{きとう}祈祷・^{おふだ}御札・^{おまもり}御守に頼らず、適切な図書や信頼できる人たちから真理を学び、その実践を通して清らかで明るい心を保って笑顔で生活すること」でした。でも、このように実に具体的な答えであったにも拘らず、なぜか A さんにはこれがどのような生活を送ることなのか理解できなかったため、この悩みを C さんに相談しました。

C さんからは、次のような答えが返ってきました。

C ^{さまよ}彷徨える悪霊に取り憑かれて困っている人はこの世の中に大勢いるのではないかと思います。とても深刻な問題です。でも人は、誰し

も何かしら悩みを持っているものです。この悩みを克服することで心が磨かれるのです。そして、1つの悩みを本当に克服できたならば、すべての悩みを克服できる魂になっているのです。空即是色と言う真理なのです。言い換えるならば、日常出合うあらゆる悩みを克服できる魂に成長しなければ、たとえ1つの悩みであっても、真に克服することはできないのです。色即是空と言う真理なのです。

Bさんがこの悩みを克服できたとき、神から与えられた心の修行は成就したと言えるのです。「^{あせ}焦ることなく、40歳の秋までと言う具合に、じっくり取り組むのだ」くらいの心構えが欲しいのです。

確かに一刻を争い「何としても^{はたち}二十歳の誕生日までに」と言う場合もあります。しかし「清らかで明るい心を保って笑顔で生活すること以外に悪霊から逃れる^{すべ}術はない」としたら、二十歳の誕生日までに一気に解決すると言うのは困難なのです。なぜなら、凍死寸前で救出された人の体を温める場合は、一気に40℃のお湯で温めては全身^{おおやけど}大火傷を負って仕舞います。このような場合、零度の水(or 空気)、次に5℃、10℃、・・・・・・40℃と言う具合に時間を掛けて徐々に温めてゆくものだからです。

そこで具体的にどうしたら悪霊に取り憑かれない魂に整えることができるのかを私の経験を踏まえて、徐々にステップを踏んで昇ってゆく方法をたとえ話でお話しさせていただきます。

[ステップ 1]

なぜ悪霊に取り憑かれたり、振り回されたりするのかを考えてみましょう（私たちの代表選手をDさんとします）。

Dさんの幸せを祈り、その手助けをしてくれる霊がいます。これが守護霊団です。これとは逆に、Dさんを恨み幸せにはさせたくないと思っている霊たちがいます。これが悪霊団です。

悪霊団が D さんの幸せを邪魔しようとしても、守護霊団の力が勝^{まさ}っていたならば D さんは悪霊に取り憑かれたり振り回されたりしない筈です。

・悪霊団の力＞守護霊団の力 のとき、悪霊に取り憑かれたり振り回されたりするのです。この実相を知ることが大切（ステップ 1）です。

[ステップ 2]

・守護霊団の力＞悪霊団の力 にすれば良いことに気付いたならば、具体的にどのようにすれば良いのか？

守護霊団を増やせば良いのです。または悪霊団を小さくすれば良いのです。

では、どうやって？

友人を増やすことです。困っている人を見捨てずに助け船を出してあげることです。そうすれば友人とその又友人と、更に彼ら（友人）の守護霊団まで仲間になってくれるのです。そして、人とできるだけ争わないこと、敵（＝嫌いな人）を作らないことです。敵を作れば作るほど彼ら（敵）は D さんの幸せを邪魔する（D さんが不幸になるほど喜びを覚える）悪霊団そのものになってゆくからです。同時に、D さん自身も敵の不幸を願う悪霊と化し、心も目の前の現象（職場・学校・家庭等）も地獄です。

そこで、身近なところから友達の輪を広げてゆくことです。常日頃から周りの人には親切にし、優しい言葉を掛け、そして真心で接することが大切です。かつ、敵を作らない（≡自分の意見（考え）を押しつけない）ほど、豊かで幸せな人生となってゆきます。さらに、人の悪口は言わないよう訓練することです。なぜなら、悪口は「私はこの人の不幸を願う悪霊です」と語っているようなものだから。

これらのことは心の修行に繋がります。

[ステップ 3]

身近なところから次第に目に見えない無縁と思える人たちへ友達の輪を広げ、彼らにも守護霊団の仲間に加わってもらうのです。

具体的には？

募金箱の向こう側には食糧や衣類や薬品などの生活必需品に困り救いを求めている大勢の人たちがいるのです。募金箱を素通りすることなく少しでも良いから応じたいものです。また、健康であれば献血にも協力したいものです。ボランティアに参加するのも良いと思います。そうすることによって、彼らと彼らの守護霊団を仲間にするができます。

また、目に見えない無縁と思える人たちを救ってゆくとき、彼らとは直接出合うことはないわけですから、見返りを求めない善行が実践できて、更に心を磨くことができるのです。

[最終ステップ]

次に、高級霊と低級霊について考えてみることにします。

「高級霊」「低級霊」と言う言い方は、霊魂を差別した見方で嫌いなのですが他に適当な表現がないことと、一般にこの言葉が定着しているので、ここではこの言葉を使わせて頂きます。

DさんとEさんがいました。Dさんの守護霊団をF団、Eさんの守護霊団をG団とします。

DさんとEさんが衝突したとします。すると、F団はDさんを守ろうとして、EさんやG団を敵対視するかも知れません。すると、Eさんから見るとF団は悪霊団になるのです。このように、ある人にとっては守護霊（団）であっても、他の人にとっては悪霊（団）となる霊（団）がいるのです。このような霊たちは、心の修行は道半ば^{みちなか}です。

とても高級霊とは言えません。高級霊ならば、仮に D さんと E さんが衝突したとしても、F 団（G 団）は D さんも E さんも更には G 団（F 団）をも守ろう（誰も傷付いたり傷付けたりしないように動こう）とするからです。このような霊こそが高級霊なのです。

そして悪霊が近寄ると言うのは、身に火の粉が降り掛ってくるようなものです。小さな火の粉であっても、煩惱が無限に広がってゆくように、大きな火達磨^{ひ だるま}に成長する危険を秘めています。しかし、この火の粉を振り払っても、この火の粉が隣の家に降り掛かれば、やがて自分の家にまで燃え広がる危険があるのです。周囲の車が交通安全を守ってくれなければ、自分の車の安全（＝命）が保てないように。

悪霊は、人から嫌われ振り払われれば振り払われるほど凶暴さを増すものです。いつか、誰かがこの霊を優しく受け止め、この霊の苦労を理解してあげて、共に苦しみを克服しようとしてあげなければ救われないのです。やがては、降り掛かった火の粉を、煩惱の火を消すが如く、自ら消せる力（魂）を身につけたいものです。

ですから「何としても二十歳の誕生日までに」と考えていきなり最終ステップを実践しようとしても悪霊の餌食^{え じき}になったり他の霊にも取り憑かれたりして危険ですから、各ステップ（5℃→10℃→・・・40℃）を確実に踏んで悪霊の火の粉で火傷しないような靈魂に、己自身を高めてからと言う具合に「焦ることなく、40歳の秋まで」と言うプランを立てられることをお勧めします。

私たちは、健康になりたいとか、もっとお金持ちになりたいとか、美しくなりたいとか、平穏な家庭・職場でありたいとか、幸せになりたいと言う願いを持っています。私たちのこの願いは、私たちが口に出さなくとも守護霊団は知っているのです。守護霊の中の守護霊である高級霊、その最奥に控える創造主^{ひか}は、私たちがまず、出合う人たちや、近寄ってくる彷徨える悪霊たちの幸せや成仏を祈れるかどうかを

観ているのです。このような心を常に誰に対しても保てれば心の修行は成就したと言えるのです。

彷徨える悪霊が D さんの幸せを邪魔しようとして近づいてきました。もし D さんが、そのとき「守護霊さん。この霊を救ってあげてください」と心から祈ったならば、彷徨える霊は、この清らかな心の紋様・愛に触れ、己の過ちに気付き目覚め、心を入れ替えるようになる＝友・守護霊（サタン→サンタ）になると信じます。

私は、これらすべてのステップを真に理解し実践できたならば、単に、悪霊に取り憑かれたり振り回されたりすることのない魂に整えられるだけでなく、大霊や白金律の世界の入り口のノブに手を掛けることができるのではないかと思います。

6 ^{けんぱい} 献杯のあいさつ

H さんが亡くなられ、その^{そうぎ}葬儀・^{こくべつしき}告別式後の^{しょうじん お}精進落としの席での、I さんの献杯のあいさつです。

＊

献杯は^{くみうち}組内からと言うことでお願いされましたので、^{じゃくはいもの}若輩者ですが、思い出話を添えて、私（I）が献杯の^{おんど}音頭を取らせて頂きます。

故人の H 様（以下「おじさん」と呼ばせて頂きます）と私とは、約 40 歳違うようです。ですから、私が生まれたとき、おじさんはすでに 40 歳でした。

私が 5 歳のとき、テレビ番組で言う初めてのお使いが「H 商店でした」。

無口であった私は^{ざる}箸を持って行って、銀色に光る硬貨 1 枚と箸を黙

っておじさんの方に出しました。

するとおじさんはニコニコして、豆腐を1^{ちょう}丁入れてくれました。「これで良いかい」と言って。

私は小心者でしたので、心の中で「おじさん。実はコンニャクが欲しいの」と^{つぶや}呟きました。

しばらく無言の^{とき}時間が流れました。するとおじさんは豆腐の隣にコンニャクを1丁入れてくれたのです。

私はニコニコ顔になり、^{うなず}頷きました。そして、箸をおじさんの方に出して「豆腐は戻します」と言うような言葉を蚊が鳴くような小さな声で言いました。

すると、おじさんは「ぼく（君）の欲しいものを確認しないで豆腐を渡した、おじさんの方が悪いから、両方持っておいき」と優しく言ってくれたのです。

この光景を少し解説しますと、当時、豆腐はプラスチック容器には包装されておらず、裸の状態で水槽に入っていたのです。これを手で、すくって箸に移したわけです。

箸は水を切る機能がありますので、このような水がない状態にしてしまった裸の豆腐は二度と手ですくって水槽には戻せないのです。形が崩れた物は商品としての価値がゼロだからです。

私はこのときの豆腐のお蔭で、こんな立派な体格に育つことができたのです。

優しいおじさんに、今、感謝申しあげます。ありがとうございました。

私がおじさんに恩返しができるのは歌を捧げることだけです。

私が5歳のとき、おじさんが楽しそうに口ずさんでいた「^{しれとこ}知床旅情」を、ご霊前にささげます。♪「知床旅情」♪

それでは、皆様、H 様のご冥福^{めいふく}と、ご参列の皆様のご健康をお祈りして、献杯したいと思います。ご唱和^{しょうわ}ください。献杯。

＊

7 除夜の鐘^{じょやかね}

整形外科の N 田先生とその患者の N'島さんの会話です。ちなみに 2 人は高校の同級生です。

N'島 N 田久しぶり。30 年ぶりくらいだなあ。俺が誰だかわかるか？

N 田 カルテの名前を観てすぐにわかったよ。元気そうじゃないか。

N'島 おいおい。ここは遊園地か？ 病院だろう。ぴんぴんしていたらここへ来るわけないだろう。

N 田 それもそうだな。で、どうした？

N'島 このお腹を観てくれ。

N 田 8 ヲ月目に入ったところだな。後 2 ヲ月と 10 日ってところか？

N'島 そこまでわかるのか？ 流石^{さすが}名医だな。ところで、このポッコリお腹を何とかしようと思って近くのスポーツジムにゆき始めたのだ。そこで頑張り過ぎて筋肉痛だ。

N 田 もっと詳しく話してくれ。

N'島 この説明では不足なのか？

N 田 いや、普通の患者さんなら OK さ。でもお前の場合、お喋り屋だから話に続きがあるだろう？

N'島 鋭いね。実はそうなんだ。この筋肉痛を取ろうと思って県外の秘湯へ行ったのだ。脱衣所の手前に「マッサージルーム」の看板が在って、その横を通り抜けようとしたら、すーっと、吸い込まれて仕舞って、気が付いたらマッサージを受けていたのだ。いやー、それが痛

いのなんのって、参ったよ。筋肉痛のときのマッサージは、お前の得意な日本史で習ったように御法度^{ごはつと}だな（筋肉痛であることを事前に伝えれば、それに合ったマッサージをしてくれます。著者より）。

N 田 なるほど。指で骨を潰^{つぶ}されたわけだ。普通では、業務上過失傷害^{けつじょうかじやう}ってやつだな。

N'島 そうなのか？ でも、マッサージ中は目隠し状態だから、誰の施術^{せじゆつ}を受けていたのか顔はわからんのだ。だから施術の先生を特定するのは難しいな。

N 田 施術日時から、勤務日誌を辿ればわかる筈だ。

N'島 まるで警察並みの捜査能力だな。

N 田 交通事故や労働災害関係の診断書を書いているからな。それで本能的にな。でも、施術の先生、お前のごじゃっぺ話で手元^{すべ}滑^{すべ}っての話だから訴えても無理だな。

N'島 ところで N 田。折角^{せつかく}来^きたんだ。問診だけでなく、念のため何か、ちょこっと捜査、いや、検査してくれ。

N 田 それじゃ。レントゲンでも撮るか。

N'島 いいね。いいね。何かわくわくするよ。

レントゲン撮影後。

N'島 これがレントゲンの画像か。素晴らしい。

N 田 どこが？

N'島 肉がすべて落ちていて、とってもスリムに写っている。今度のお見合い写真は、これで頼むよ。

N 田 わかった。ただし、条件が 2 つある。写真は原則首から下の画像だ。それとお見合い写真の場合、保険証は使えない。

N'島 じゃ。やーめた。

N 田 諦めがいいじゃないか。

N'島 昔からな。ところで、診断結果はどうなんだ。

N 田 3.14%の確率で骨に異常はないね。

N'島 おお。まるで円周率だな。ところで、これは異常なしと安心できる数字なのか？

N 田 理系のお前の場合な。

N'島 おお。余命 1 ヲ月と言われるんじゃないかと内心びくびくしながら来たのだ。これで安心して帰れる。

N 田 かれこれお前のごじゃっぺ話に付き合って 60 分経つからな。そうかそうか帰ってくれるか。

N'島 ところで今日は何日だ？

N 田 2016 年 7 月 25 日（月）だけど。それが？

N'島 もうすぐ。除夜の鐘が鳴る。そうしたら帰る。

N 田 があーん。

N'島 ほら。鳴った。じゃ。また遊びに来るから。よろしく。

N 田 があーん。

N'島 ^{あと}後、106 回ね。

N 田 があーん。

N'島 後、105 回ね。じゃ。またね。

第 30 章

生き甲斐^{がい}を吹き込む

1 ひび割れた水瓶（後段）

釈尊 ここでは「第 26 章 3 ひび割れた水瓶（前段）」でお出しした公案の解説に入ってゆきます。

まず、迦葉がどんな答えに辿り着いたのか聞いてみましょう。

迦葉 最初にこの民話を読んでとても素晴らしいと感じましたが、素晴らしい過ぎてどこが素晴らしいのか具体的にはわからなかったのです。しかし、読み込んでゆくうちに何が素晴らしいのかが、わかったのです。

釈尊 興味のある話ですね。で、何が特に素晴らしと、わかったのですか？

迦葉 狼男、いや、水汲み男の選択です。ひび割れと言う欠点を直したり、あるいは観捨てたりせずに、これを役立てる道を選択したことです。

釈尊 なるほど。

迦葉 この選択によって、ひび割れた水瓶に生きる喜びと言う「命」を吹き込んだのです。

この素晴らしさに気付いたとき、公案の答えがわかったのです。

答えは「命」です。

なぜなら、この物語は「命」と言う文字を表しているからです。

「命」と言う文字は「人」が天秤の横棒「一」の左右に水瓶を背負って水を運んでいる姿を表しているのです。しかも驚くことに、下側の「叩^こ」の文字は、左側は完全な水瓶を表していて右側はひび割れた

水瓶から水が漏れている様子を表しているのです。

霊体の三大要素である「愛」も「知恵」も「勇気」も、人類レベルではどれも完全性からほど遠いひび割れた水瓶と同じです。ですから人類はこの不完全さと言う名のひび割れた水瓶を担いで生きてゆかなければならないわけです。このため人類は人生で出合う苦難をなかなか乗り越えることができず、ここで登場するひび割れた水瓶のように「役に立たないから取り替えてくれ」と人生を放棄したくなるほど苦しむことになるわけです。

しかし、このひび割れがいかに深刻な状態であっても、この公案を創造した彼は、民話に登場する水汲み男のように、観捨てることなく1人ひとりに必ず周りの人の役に立つ場面を与え、このことを通して生き甲斐と言う「命」を吹き込んでいっているのです。

すべての生物や物質にこのような素晴らしい「命」を吹き込むことができるのは創造主だけです。この公案が解けたとき、彼こそがこの宇宙に存在するすべての「命」の創造主だと確信しました。そして、創造主であることの「印」の文字は「^{しるし}印度のひび割れた水瓶（^{せつ}卐）」を表現していたことにも気付きました。

釈尊 迦葉よ。^{さすが}流石です。

だが迦葉よ。それでこの公案のすべてを悟ったと思っ

迦葉 え！ まだ奥深いのですか？

釈尊 そうです。迦葉が辿り着いた答えは、彼によって生き甲斐と言う「命」を吹き込まれている人類側の「命」です。もう1つの「命」があるのです。

迦葉 それはどんな「命」ですか？

釈尊 彼の「命」です。

迦葉 詳しく説明してください。

釈尊 「卐」の文字は水瓶を表していることは迦葉が気付いたとおり

です。でも、この「叩」は叩く^{たた}と言う意味もあるのです。彼の「命」は水瓶を「叩く」ために使うと彼はこの公案を通して人類にメッセージを送っているのです。つまり「絶滅に向かって水瓶の中で溺れている人類を救うため彼の命をこの水瓶を割るために捧げる（使う）」と言っているのです。

迦葉 想像を絶する「命」の使い方です。そして、凄^{すご}く奥深い公案だと言ったことがわかりました。

釈尊 迦葉よ。それでこの公案のすべてを悟ったと思っ^ててはならない。

迦葉 え！ 17行ほど前に聞いたような響き、いや、言葉ですが、まだ奥深いのですか？

釈尊 そうです。「命」の文字をもう1度良く観てください。この文字には、彼の「命」のもう1つの使い方が示されているのです。

迦葉 詳しく説明してください。

釈尊 「人」が棒「一」を持って彼を袋「叩」きにしている様子を表しているのです。彼は、彼を袋叩きに^{して}殺した人々が霊界に戻ってきたとき、この人々を最初に^{でむか}え、そして温かな愛を注いでいるのです。彼はそんな創造主なのです。

およそ人類が主に想像する創造主とは異なるかも知れませんが、そんな彼だからこそ霊界のすべての魂は彼に満幅の信頼を置き、彼の^{そう}大な計画・救いの御業の成就のために働けることを生き甲斐に命を使っているのです。そして、私は、これ以外のために命を使っている霊界の魂の存在を知りません。

迦葉 凄いです。彼の「命」の使い方、霊界の我々の「命」の使い方、この公案も凄いです。私は、このような素晴らしい公案にお目に掛かったことはありません。彼の霊力は一体どのくらい偉大なのですか？

釈尊 迦葉よ。この公案が彼の霊力の上限を表していると思っ^ててはな

らない。

- ・ 私たちが人間なら彼は大地（地球）です。
- ・ 私たちが大地なら彼は太陽（恒星）です。
- ・ 私たちが太陽なら彼は銀河です。
- ・ 私たちが銀河なら彼は宇宙です。
- ・ 私たちが宇宙なら彼は無限です。
- ・ 私たちが無限なら、ここでは、彼は「概念の世界では捉えることができない存在（土ノ子）＝無数の、極微のものたちから無限大のものたちによって構成され、そしてすべての要素（たとえば、天使の中の天使の優しさ・温もり～サタンの中のサタンの厳しさ・冷酷さまでの靈性）を持ちながら、より調和のとれた集合体になろうと永久運動している生命体」なのだと申しあげて置きます。

2 天

ネイム 「第3巻」の終わりにあたり私から皆様にお話しがございませう。

私は、人間の姿となって降誕した彼を「第22章」まで導いてきました。彼が自我を取り戻されご自分が何者であるのかを悟られた今、私の役目は終わりました。「第23章 2人で1つの天」の中でシルバーバーチは『「天」と言う文字は「二人」と書きます。仏と大地、虹で結ばれた2人で1つの天なのです』と語っていますが、恐れ多いことです。彼こそが唯一の「天」・創造主なのです。

「虹の掛け橋」の中で私＝仏が、関与したと書かれている言葉・文字・公案・映画・地名等々はすべて彼自ら関与・創造されたことか、あるいは彼の指示を受けて私の靈力の及ぶ範囲で慎ましく関与したものです。また、こうして彼の指を借りて私や五靈が語っている内容も

すべて彼のチェックを受けていますから「虹の掛け橋」で語られている内容は彼自身の言葉・思考の反映物です。

確かに私はシルバーバーチなど五霊の 10 億倍の霊力を持っていますから五霊から観れば私も天に観えるかも知れません。しかし、彼はネームであるこの私の 10 億倍の霊力を持っているのです。ですから彼は五霊の 10 億の 2 乗倍の霊力者です。

「天」と言う文字は「二人」とも読めますが、漢和辞典を紐解けば明らかなことで「一つの大きな」と読むべきなのです。私が彼と肩を並べることは、私自身がこれを許しません。

また釈尊は「(彼は) 無数の、極微のものたちから無限大のものたちによって構成され、そしてすべての要素（たとえば、天使の中の天使の優しさ・温もり～サタンの中のサタンの厳しさ・冷酷さまでの霊性）を持ちながら、より調和のとれた集合体になろうと永久運動している生命体」と語っていますが「大霊」とは「一人の霊」なのです。ですから、より正確に表現するならば「彼は、すべての霊性を持った無限角形的霊体（「第 4 巻」で詳説）」です。

彼が空間（霊界と宇宙）に最初に存在していたことと、最も偉大な霊であることから、この私（ネーム）レベルの 1000 億の宇宙霊は、彼を第一霊（1000 億の 2 乗の霊体数の銀河霊たちからは大地霊と呼ばれていますが、こちらが本来の名前）とお呼びしているのです。

彼は地上での修行の日々を経て目覚められ、我々宇宙霊たちと銀河霊たちの最高指導霊の座に戻って再び法を説き始められたのです。

彼が法を説いているとき、あるいは歌を口ずさんでいるとき、これを聞き癒されたいと願う膨大な数の宇宙霊から概念的世界に存在するものたちが幾重にも彼を取り囲んでいます。

この聖なるときを壊したり止めたりすることは何人にも許されていません。

私が何を言いたいのかは、読者の皆様お1人おひとりここまで読まれて身につけた霊力と品格で考え、そして銀河霊らしく行動してください。

地上も天（霊界）と同じように愛と知恵と勇気と希望からなる善想念に満ちた平和で調和と秩序のとれた世界になることを念じつつ「第3巻」を閉じることとします。